

男女平等参画に関する 市民意識調査報告書

令和4年5月

苫小牧市

目次

I 調査の概要	
1 調査の目的	3
2 調査項目	3
3 調査方法	3
4 回収結果	3
5 結果の表示方法	3
II 調査結果	
(1) 調査対象者の属性について (問 1~6)	4
(2) 男女平等に関する意識について (問 7~13)	8
(3) 女性の就労について (問 14~18)	35
(4) 育児休業制度について (問 19~22)	54
(5) 介護について (問 23~28)	60
(6) パートナーからの暴力について (問 29~31)	67
(7) 性的少数者 (セクシュアルマイノリティ) について (問 32~34)	74
(8) 選択的夫婦別姓について (問 35)	78
(9) 防災体制や災害発生後の対応について (問 36)	79
(10) 男女平等参画社会の推進について (問 37)	80
III 意見・要望	
男女平等参画社会の推進についての意見・要望	82
IV 調査票	91

I 調査の概要

1 調査の目的

市民の男女平等参画についての意識や実態を把握し、計画の中間年度を迎える「苫小牧市男女平等参画基本計画（第3次）」（計画期間：平成30年度～令和9年度）の見直しに反映させ、より時代のニーズにマッチした計画を作成することを目的に実施しました。

2 調査項目

- (1) 調査対象の属性について
- (2) 男女平等に関する意識について
- (3) 女性の就労について
- (4) 育児休業制度について
- (5) 介護について
- (6) パートナーからの暴力等について
- (7) 性的少数者（セクシュアルマイノリティ）について
- (8) 選択的夫婦別姓制度について
- (9) 防災体制や災害発生後の対応について
- (10) 男女平等参画社会の推進について

3 調査方法

- (1) 調査対象 20歳以上の市内に居住する市民
- (2) 標本数 2,000人（戸籍上の性別の男女各1,000人）
- (3) 抽出方法 層化無作為抽出法
- (4) 調査方法 郵送及びGoogleフォームを用いたオンライン調査
- (5) 調査時期 令和4年1月7日（金）～2月16日（水）

4 回収結果

回収数（率）	614件（回収率：30.7%）
男 性	261件（回収率：26.1%）
女 性	348件（回収率：34.8%）
答えない	1件（回収率：0.1%）
無 回 答	4件（回収率：0.2%）

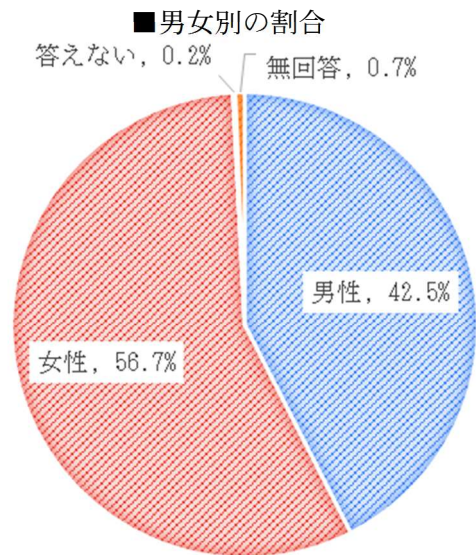
5 結果の表示方法

- (1) 比率は、集計対象者数に対する百分率（%）で表示しています。
- (2) 比率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しているため、合計が100%にならない場合があります。
- (3) 複数回答が可能な設問では、比率の合計が100%を超える場合があります。

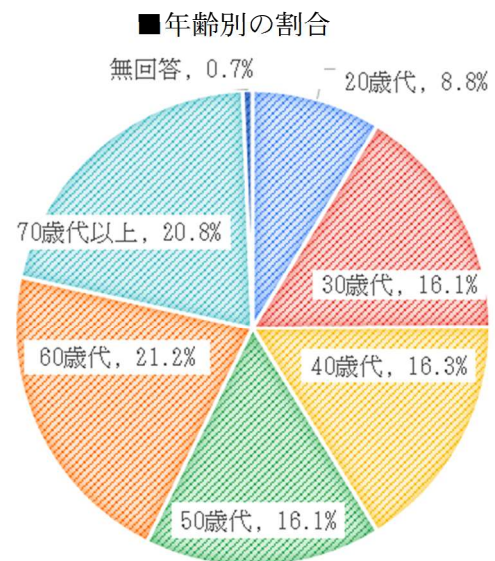
II 調査結果

(1) 調査対象者の属性について

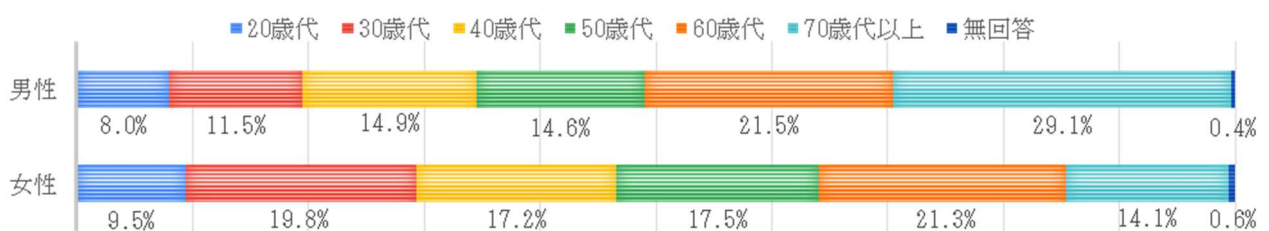
問1 あなたの自認する性はどれにあたりますか。



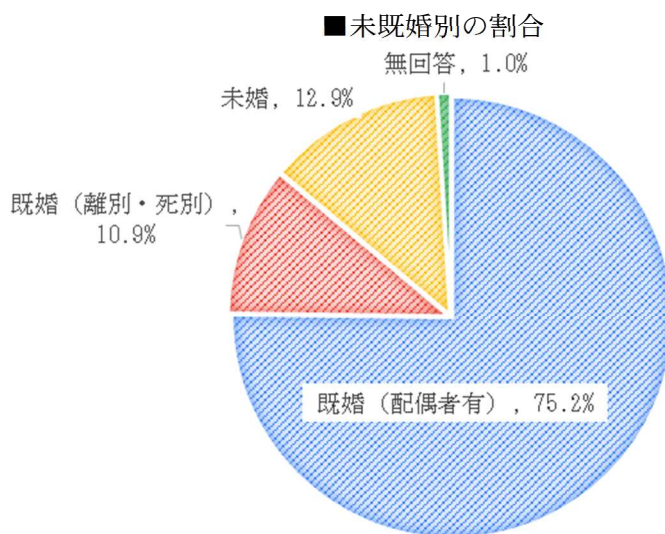
問2 あなたの年齢はどれにあたりますか。



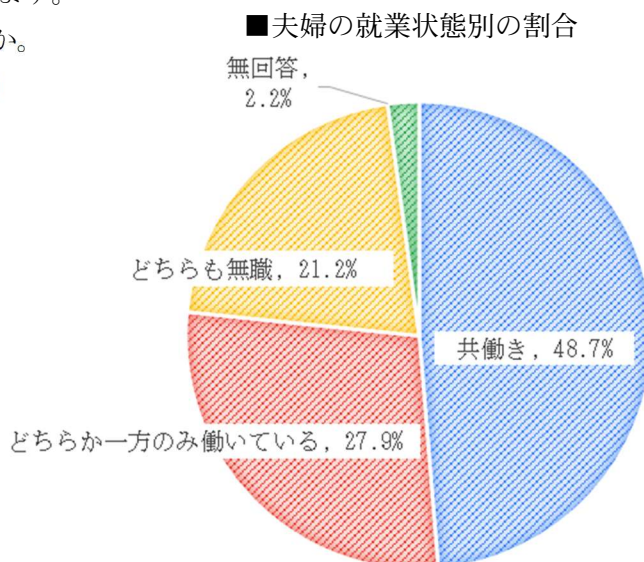
■男女別×年齢別の割合



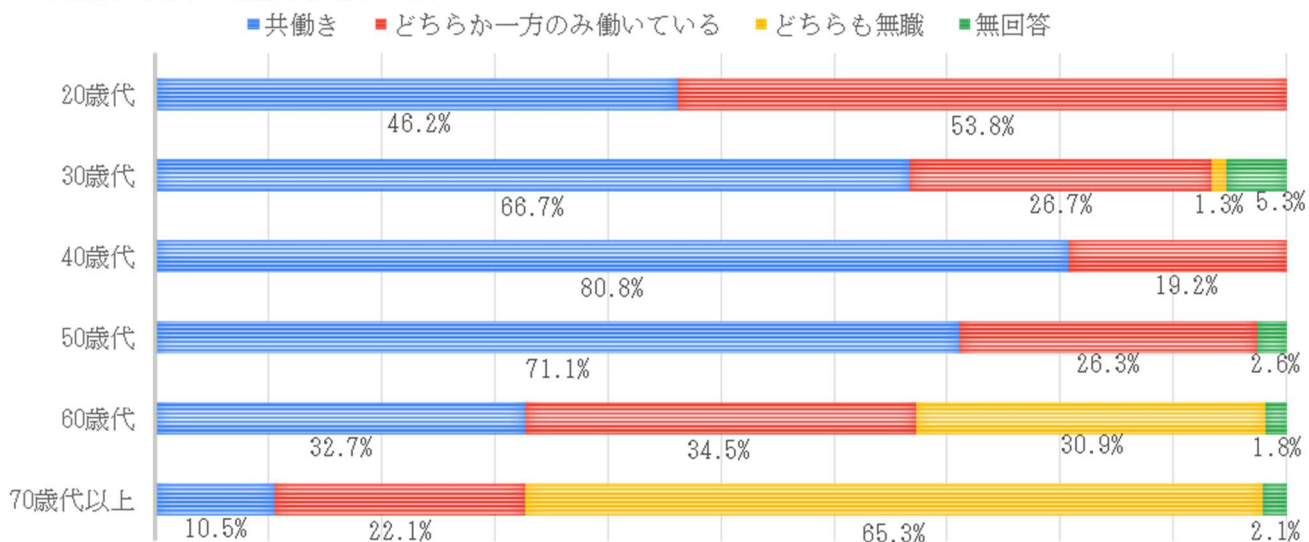
問3 あなたは結婚（事実婚を含む）をしていますか。



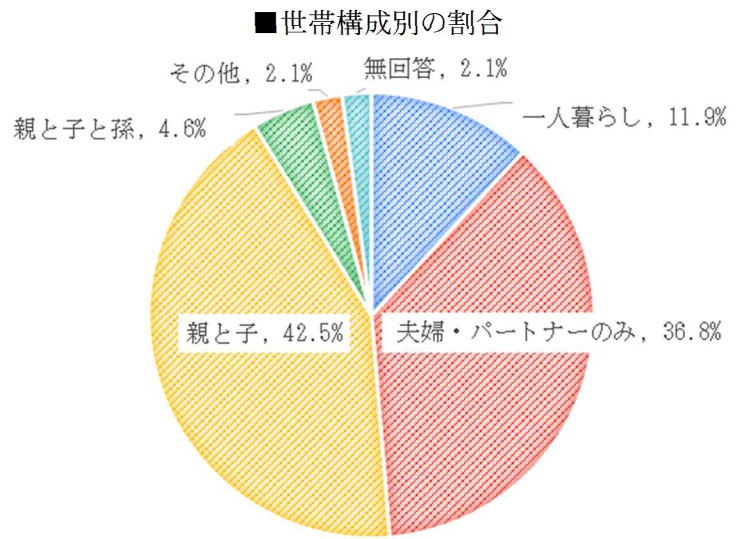
問4 問3で「既婚（配偶者有）」の方にかがいます。
夫婦（パートナー）はともに働いていますか。
（非常勤・パート・アルバイトなどを含む）



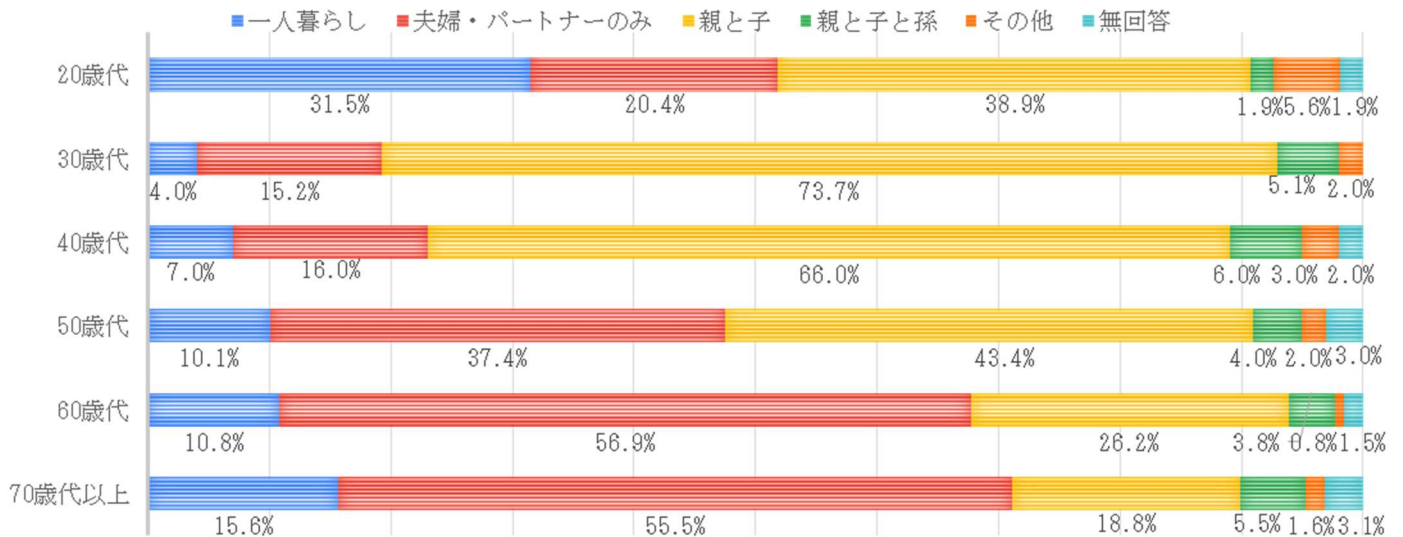
■年齢別×夫婦の就業状態別の割合



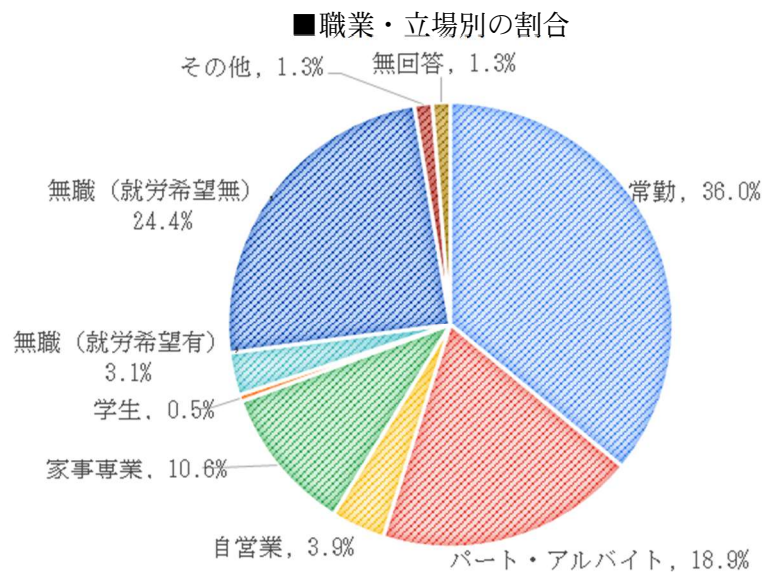
問5 あなたの世帯構成はどれにあたりますか。



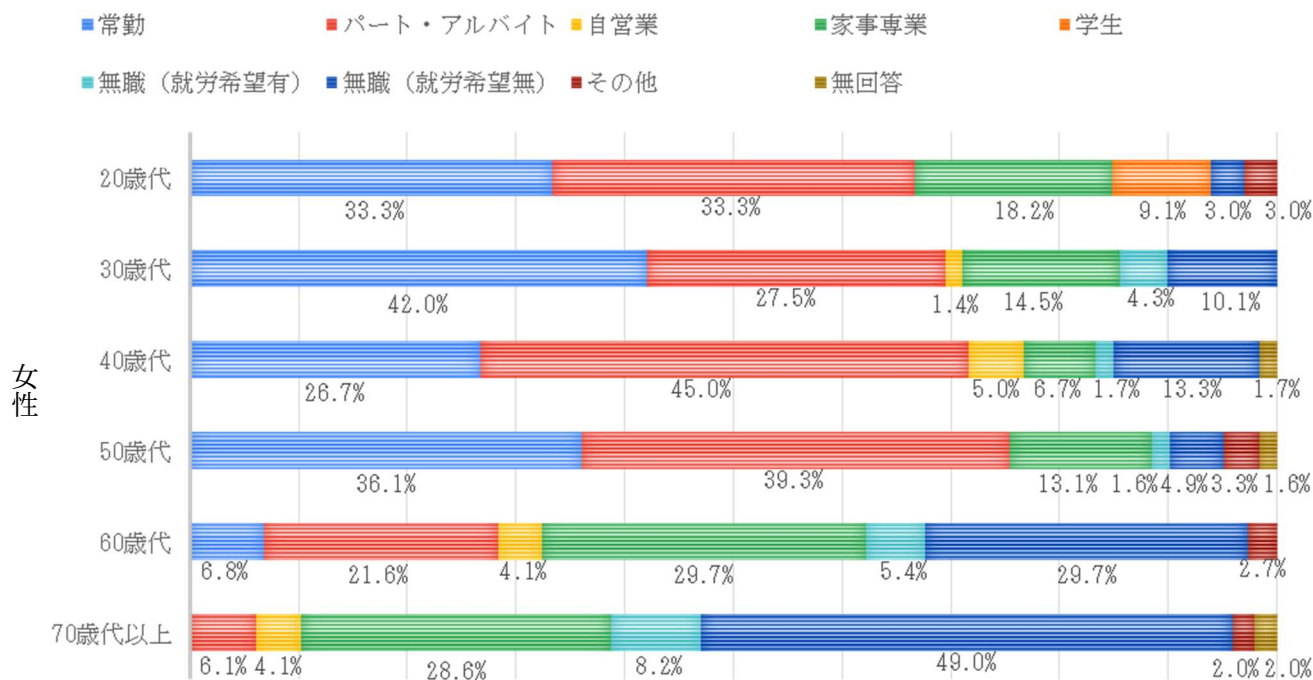
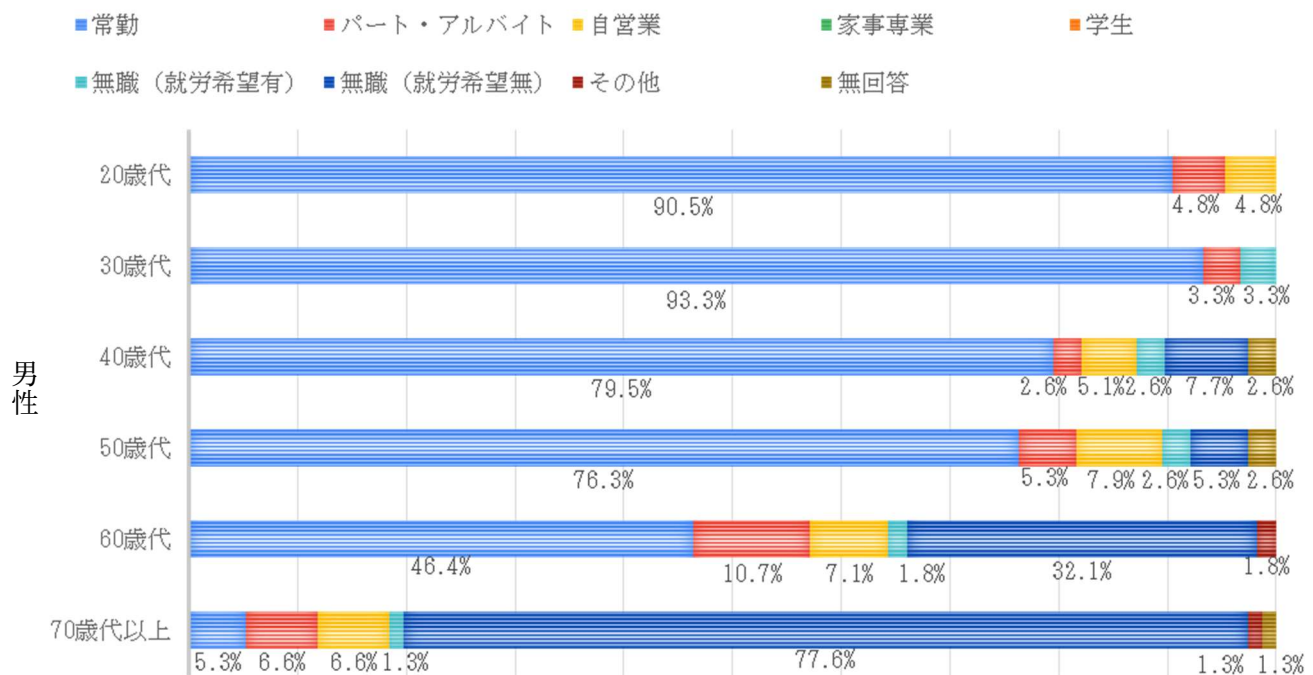
■年齢別×世帯構成別の割合



問6 あなたの職業・立場はどれにあたりますか。



男女別×年齢別×職業別の割合



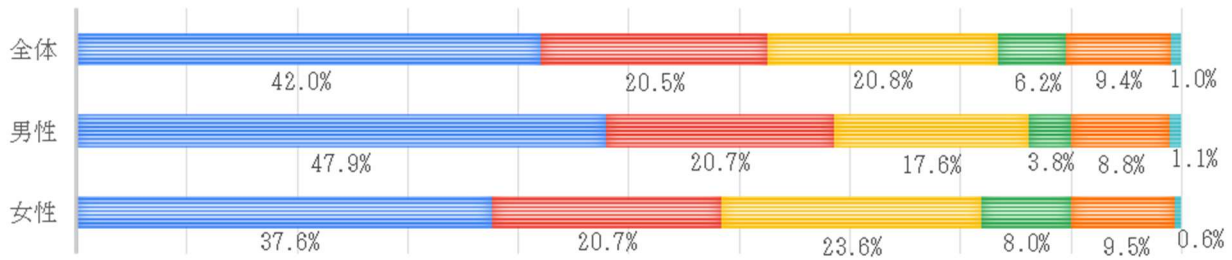
(2) 男女平等に関する意識について

問7 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。

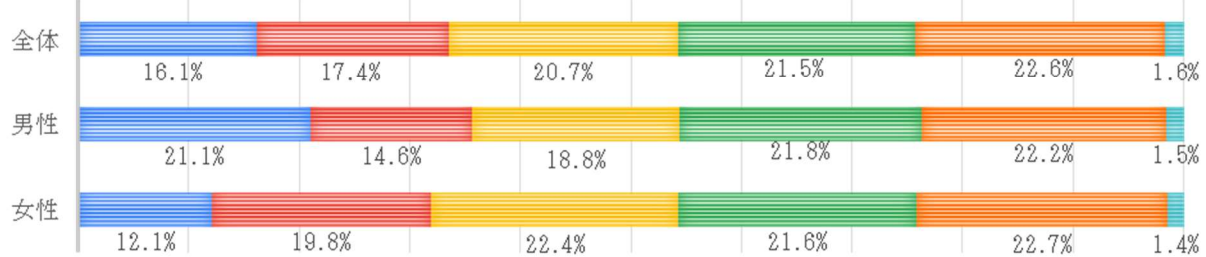
■見聞きしたことがある言葉についての男女別の構成比

- 見聞きしたことがあり、意味も知っている
 - 何となく見聞きしたことがある
 - 見聞きしたことはない
- 見聞きしたことはあるが、意味は知らない
 - おそらく見聞きしたことはないと思う
 - 無回答

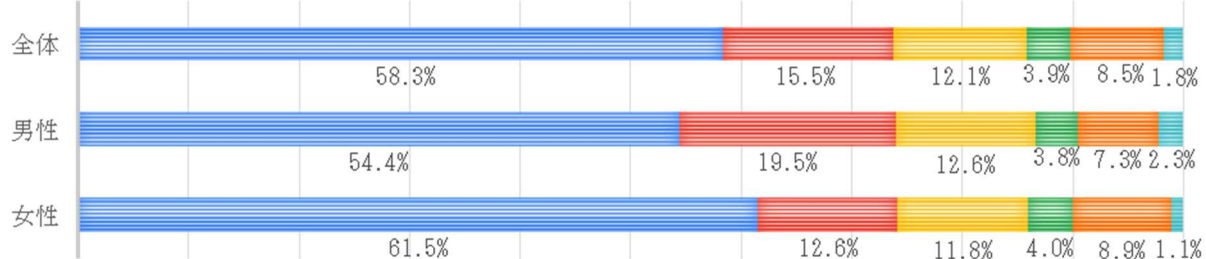
①男女平等（共同）参画社会



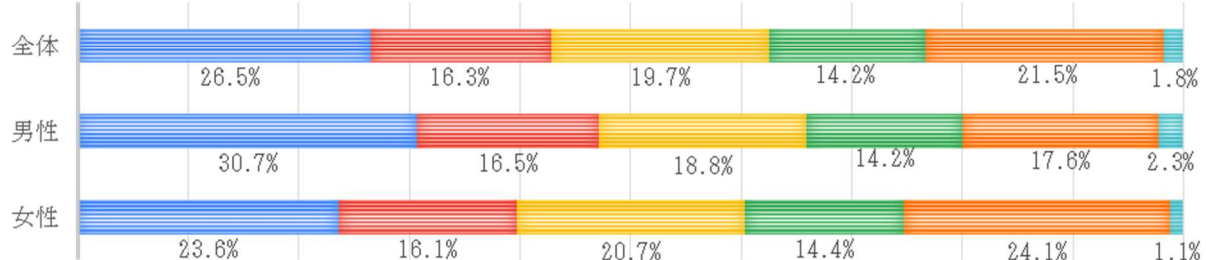
②苫小牧市男女平等参画都市宣言



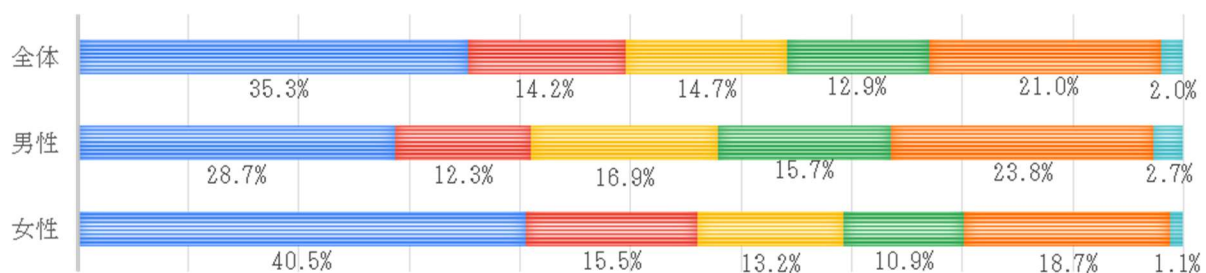
③ジェンダー



④ワークライフバランス



⑤デートDV

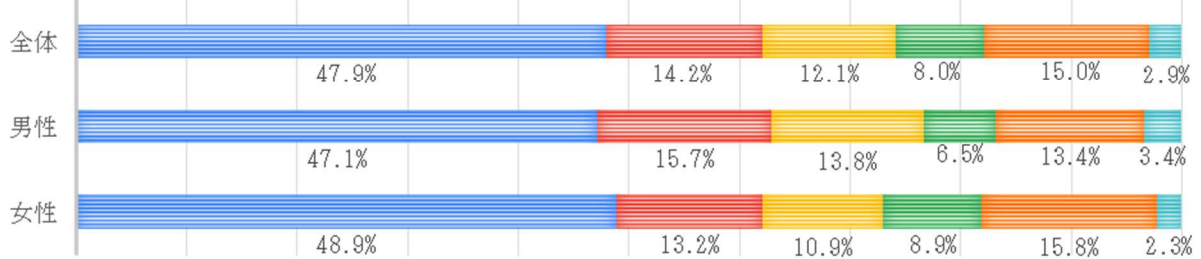


- 見聞きしたことがあり、意味も知っている
- 見聞きしたことはあるが、意味は知らない
- なんとなく見聞きしたことがある
- おそらく見聞きしたことはないと思う
- 見聞きしたことはない
- 無回答

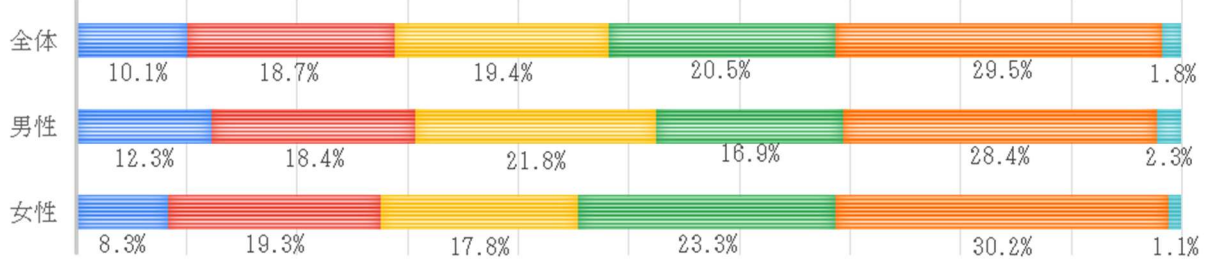
⑥ダイバーシティ



⑦LGBT



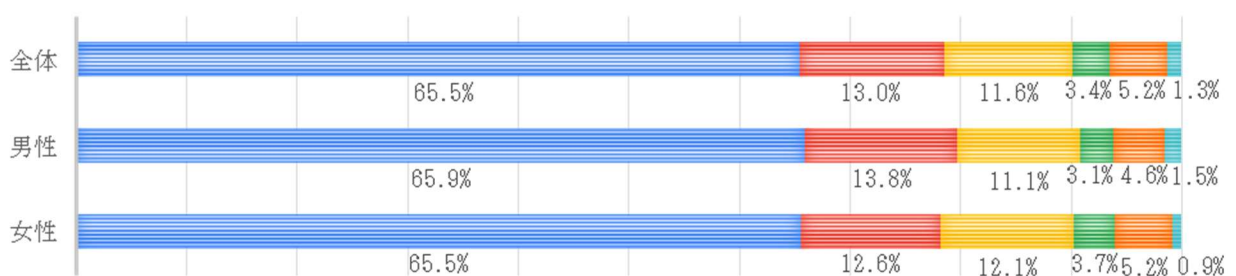
⑧ジェンダーギャップ指数



⑨SDGs



⑩選択的夫婦別姓



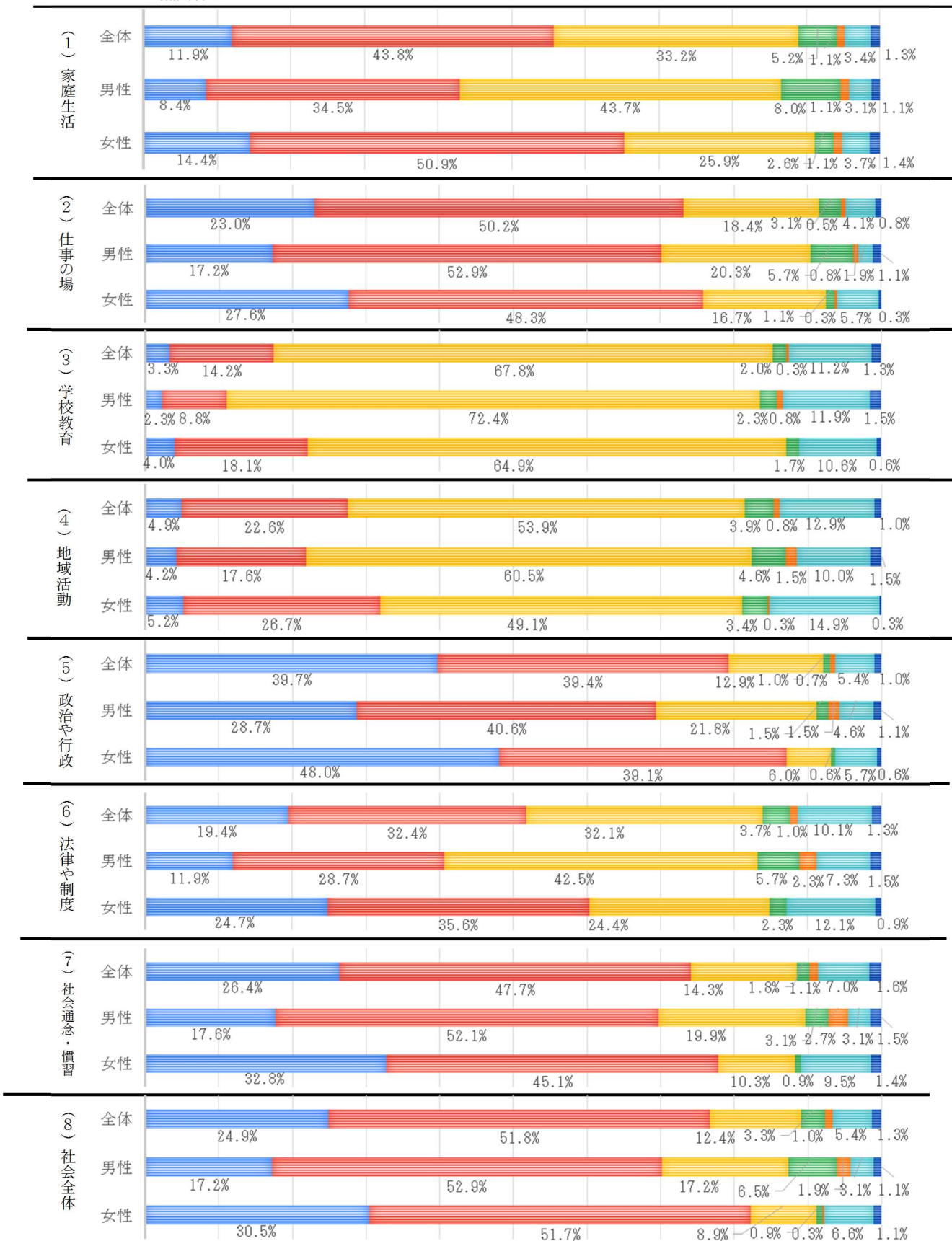
■見聞きしたことがある言葉についての男女別の構成比

「見聞きしたことがあり、意味も知っている」・「見聞きしたことはあるが、意味は知らない」・「何となく見聞きしたことがある」（以下、「見聞きあり」と表記）の比率が多くなっている項目は①男女平等（共同）参画社会（83.3%）、③ジェンダー（85.9%）、⑦LGBT（74.2%）、⑩選択的夫婦別姓（90.1%）の4項目となっています。一方で比率が低くなっている項目は②苫小牧市男女平等参画都市宣言（54.2%）、⑧ジェンダーギャップ指数（48.2%）の2項目となっております。また、「見聞きあり」で男性と女性の回答率で差が大きいものは⑤デートDV（男性が女性よりも11.3ポイント低い）、⑥ダイバーシティ（女性が男性よりも8.8ポイント低）、⑨SDGs（女性が男性よりも9.0ポイント低い）となっています。

問8 あなたは現在、次にあげるような場面で、男女の地位などは平等になっていると思いますか。

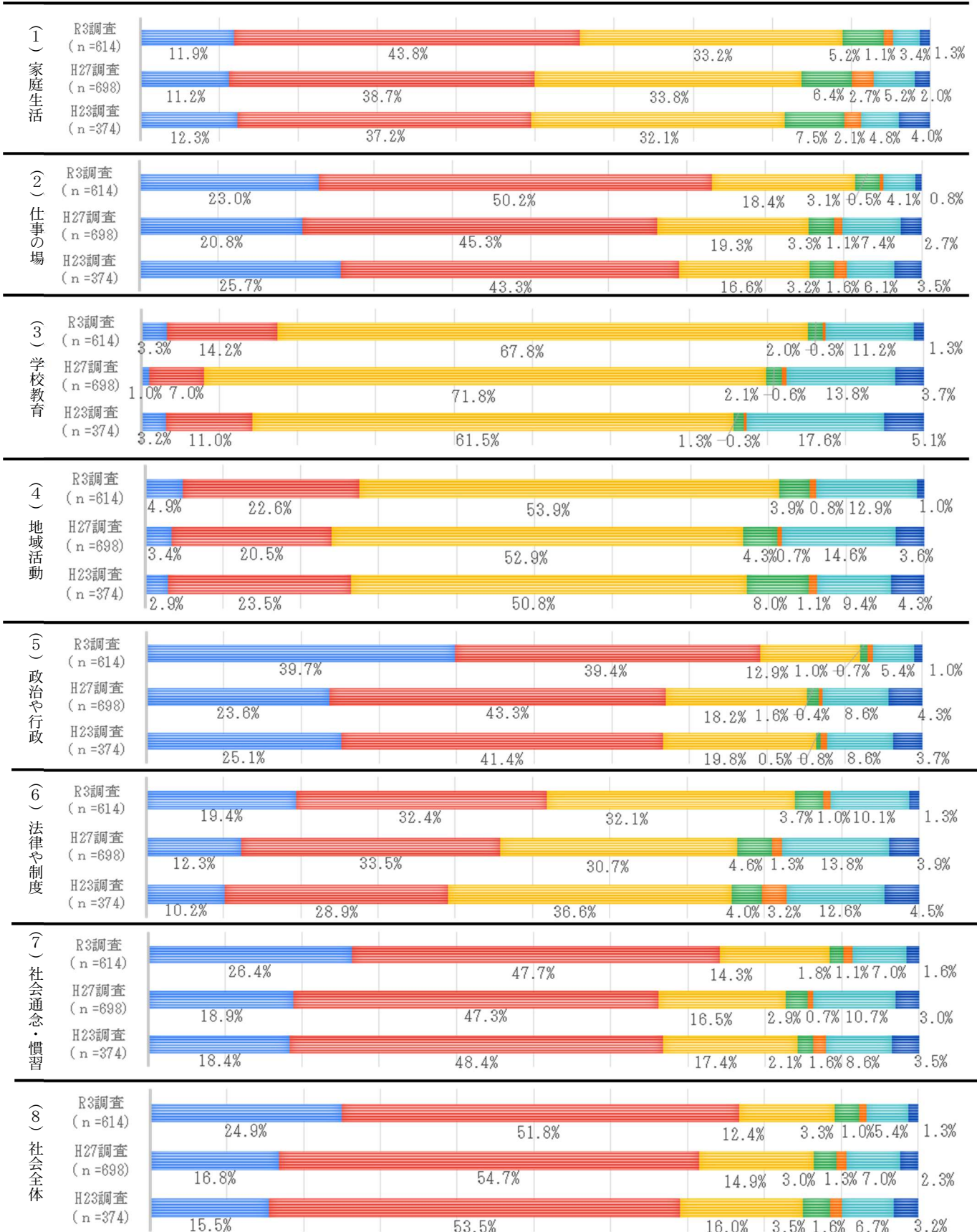
■男女の地位などについての男女別の構成比

- 男性が優遇されている
- 差はない（平等である）
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



■男女の地位などについての男女別の構成比（年度別調査比較）

- 男性が優遇されている
- 差はない（平等である）
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



■男女の地位などについての男女別の構成比

各項目の全体の回答では、「男性が優遇されている」及び「どちらかといえば男性が優遇されている」（以下、「男性優遇」と表記）の比率が高かった項目は(1)家庭生活（55.7%）、(2)仕事の間（73.2%）、(5)政治や行政（79.1%）、(6)法律や制度（51.8%）(7)社会通念・慣習（74.1%）、(8)社会全体（76.7%）となっています。

「差はない（平等である）」の比率が高かった項目は(3)学校教育（67.8%）、(4)地域活動（53.9%）となっています。

「女性が優遇されている」及び「どちらかといえば、女性が優遇されている」（以下、「女性優遇」と表記）は、全項目で7%を切っています。

また、男女間で大きく差が見られた項目は(1)家庭生活（22.4%）(5)政治や行政（17.8%）(6)法律や制度（19.7%）(8)社会全体（12.1%）で、いずれも女性が男性よりも「男性優遇」を多く答えています。

■男女の地位などについての男女別の構成比（年度別調査比較）

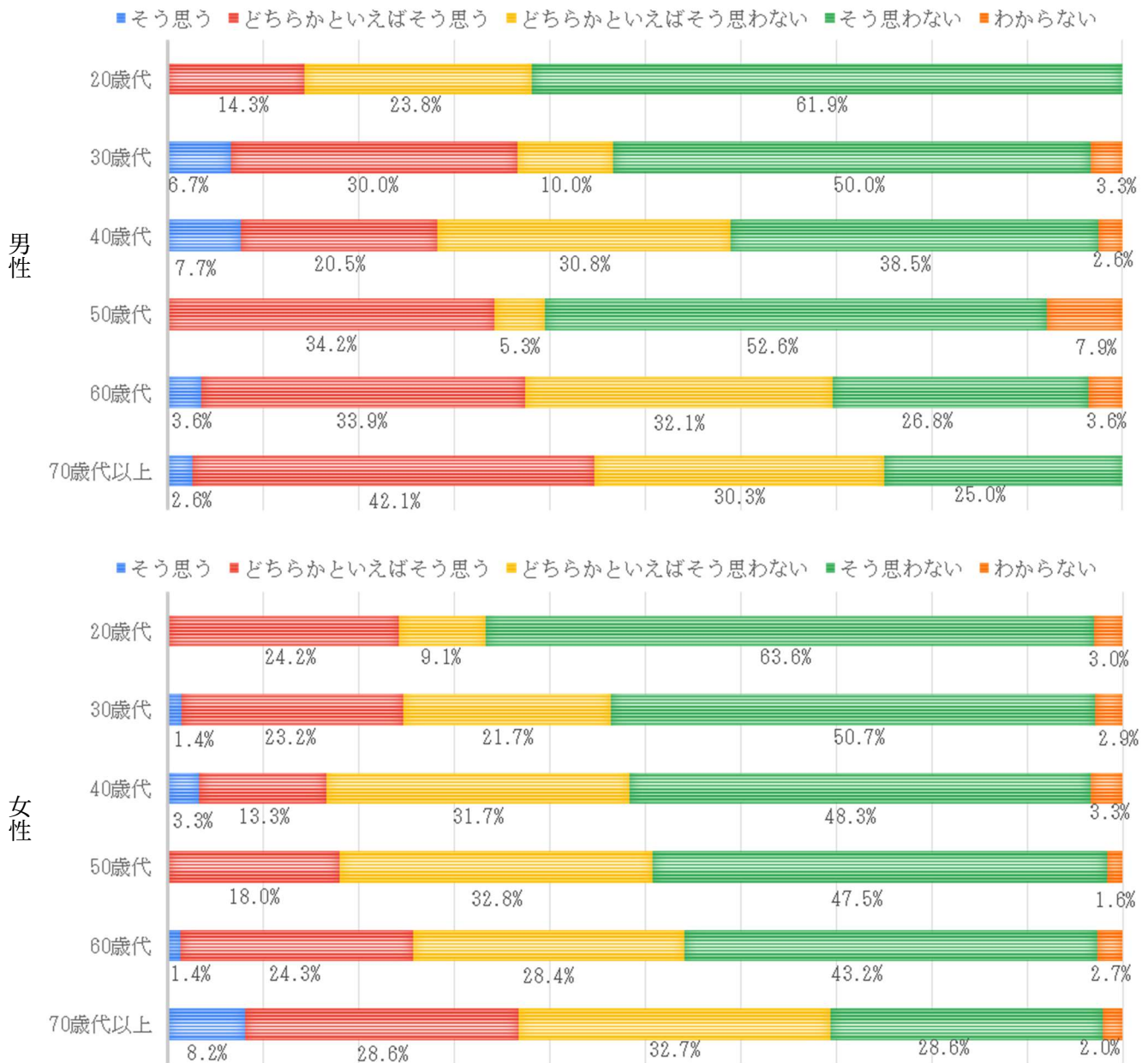
令和3年度に実施した調査のすべての項目において、平成23年度調査、平成27年度調査よりも「男性優遇」の比率が高まっています。中でも(5)政治や行政については前回の平成27年度調査よりも12.2ポイント「男性優遇」の比率が高まっています。

一方で(4)地域活動及び(6)法律や制度においては、わずかではありますが前回の平成27年度調査よりも令和3年度調査のほうが「差がない（平等である）」と答えた方の割合が増加しています。

また、すべての項目において、前回の平成27年度調査と比較して「女性優遇」の比率が同じか低下しています。低下している率が一番大きいものは(1)家庭生活上で、前回の平成27年度調査よりも「女性優遇」の比率が2.8ポイント低下しています。

問9 「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて、あなたはどのように思いますか。

■性別による役割分担意識の男女別×年齢別の構成比

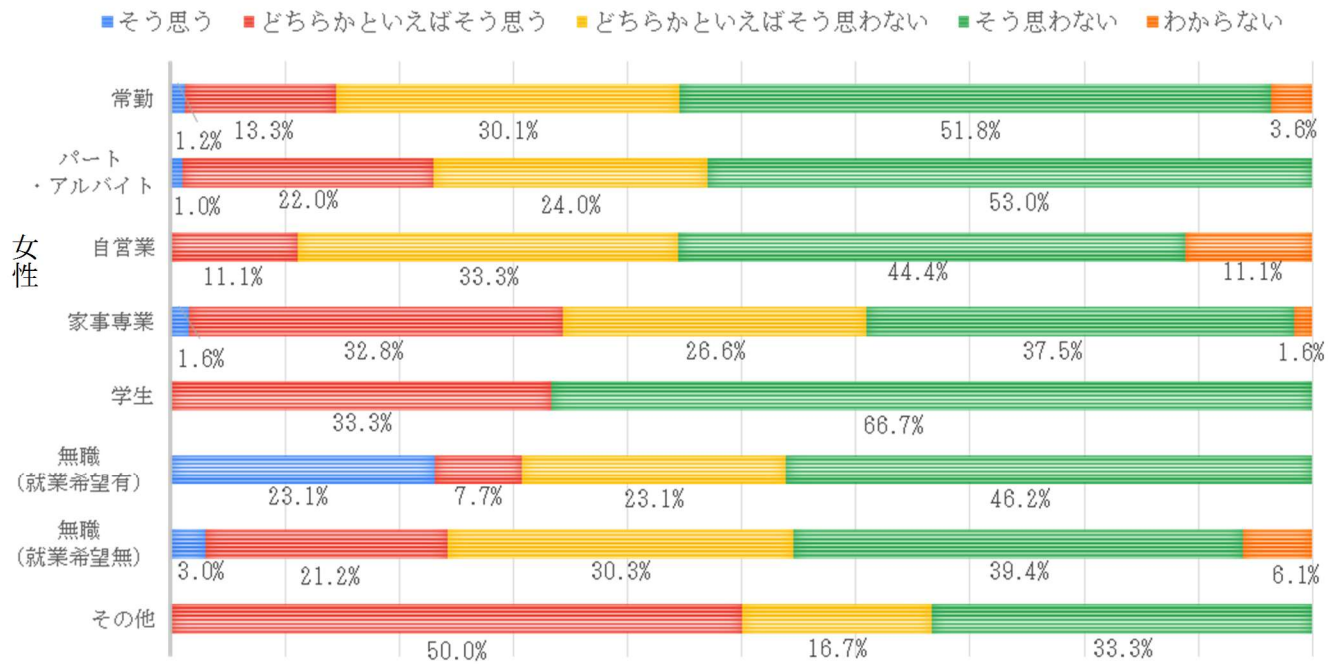
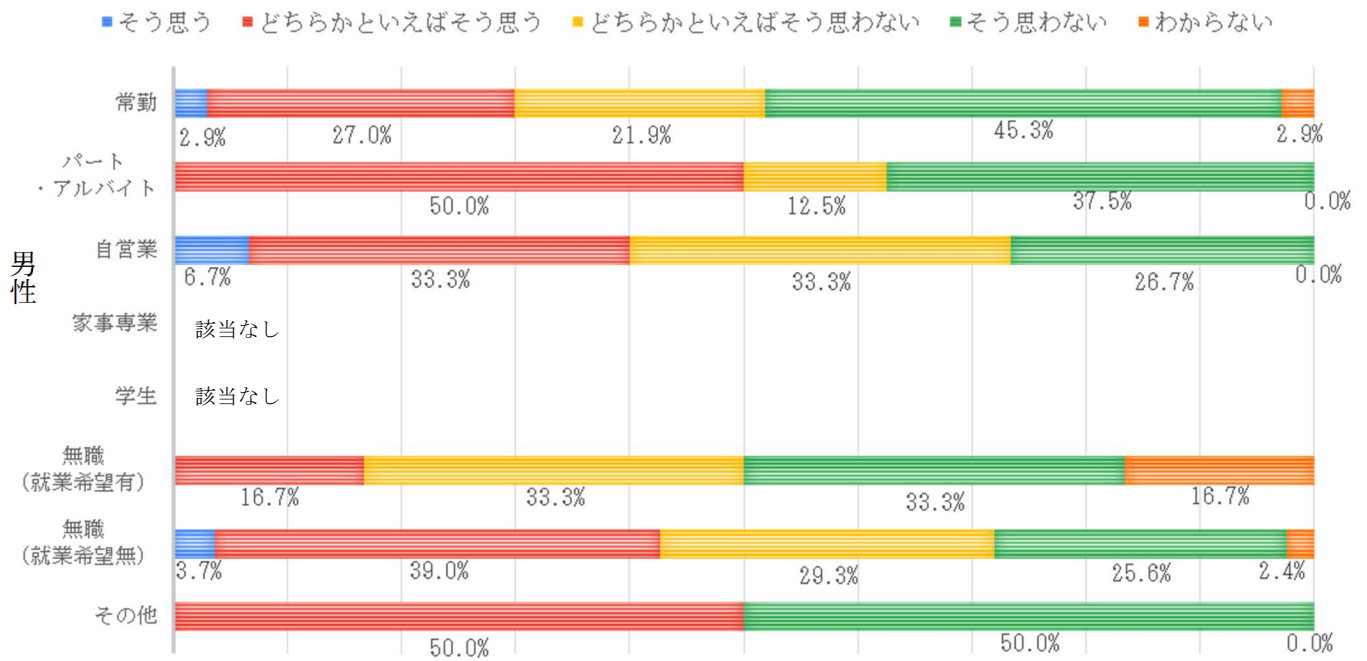


■性別による役割分担意識の男女別×年齢別の構成比

男性の回答で「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」（以下、「思う」と表記）が多い世代順は70歳代以上（44.7%）60歳代（37.5%）、30歳代（36.7%）となっています。「そう思わない」及び「どちらかといえばそう思わない」（以下、「思わない」と表記）が多い世代順は20歳代（85.7%）、40歳代（68.5%）、30歳代（60.0%）となっています。

女性の回答は「思う」の比率が低く、「思わない」の比率が高い傾向にありますが、「思う」が多い世代順は70歳代以上（36.8%）、60歳代（25.7%）、30歳代（24.6%）となっています。「思わない」が多い世代順は50歳代（80.3%）、40歳代（80.0%）、20歳代（72.7%）という結果になりました。

■性別による役割分担意識の男女別×職業別の構成比

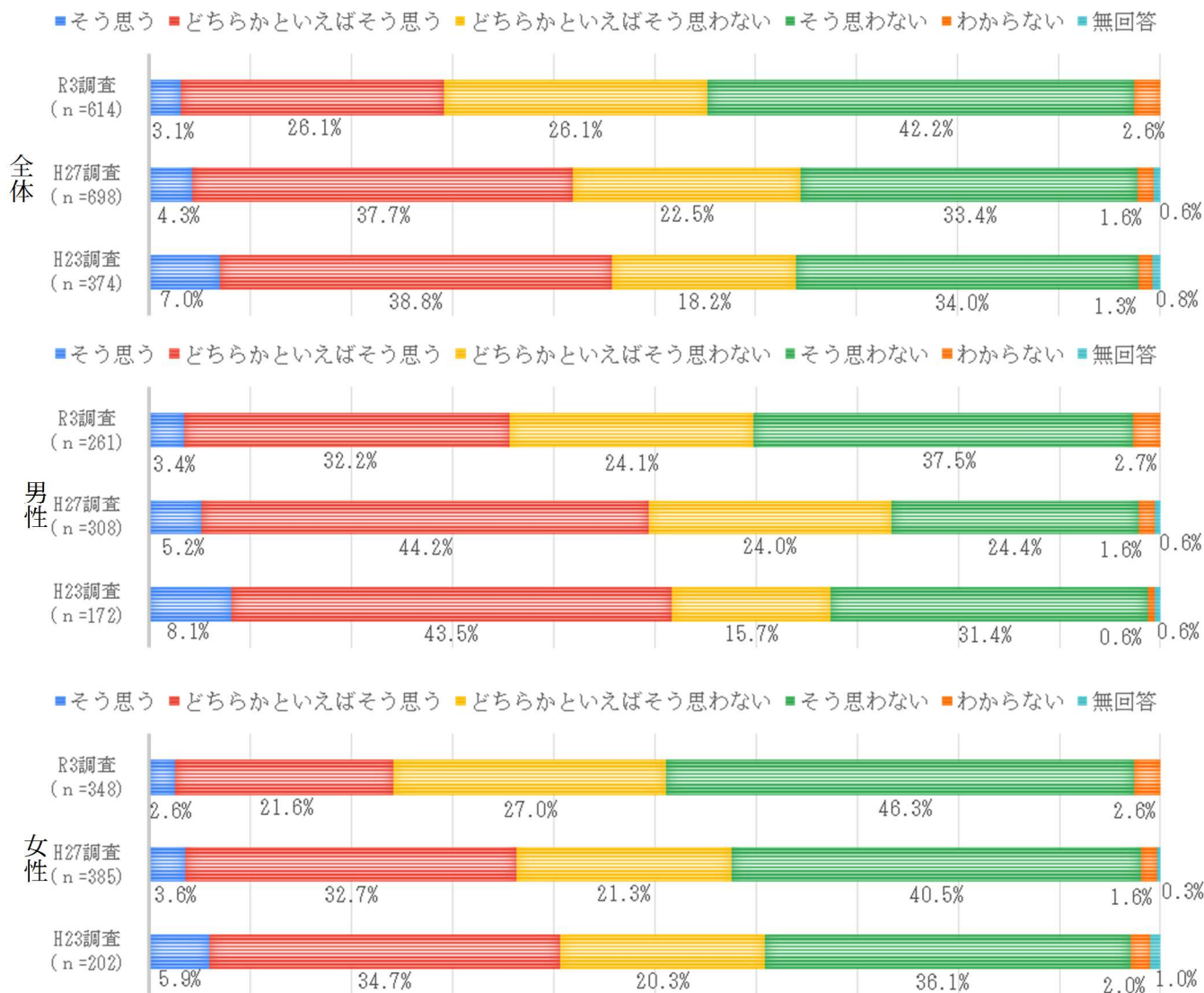


■性別による役割分担意識の男女別×職業別の構成比

男性の回答で「思う」が多いのは順にパート・アルバイト(50.0%)、その他(50.0%)、無職(就業希望無)(42.7%)となっており、「思わない」が多いのは順に常勤(67.2%)、無職(就業希望有)(66.6%)、自営業(60.0%)となりました。

女性の回答で「思う」が多いのは順にその他(50.0%)、家事専業(34.4%)、学生(33.3%)となっており、「思わない」が多いのは順に常勤(81.9%)、自営業(77.7%)、パート・アルバイト(77.0%)、無職(就業希望無)(69.7%)となりました。

■性別による役割分担意識の年度別の調査結果比較



■性別による役割分担意識の年度別の調査結果比較

全体では「思う」の回答比率が平成23年度調査から平成27年度調査で3.8ポイント減少し、さらに平成27年度調査から令和3年度調査で12.8ポイント減少しています。一方で「思わない」の回答比率は、平成23年度調査から平成27年度調査で3.7ポイント増加し、さらに平成27年度調査から令和3年度調査で12.4ポイント増加しています。

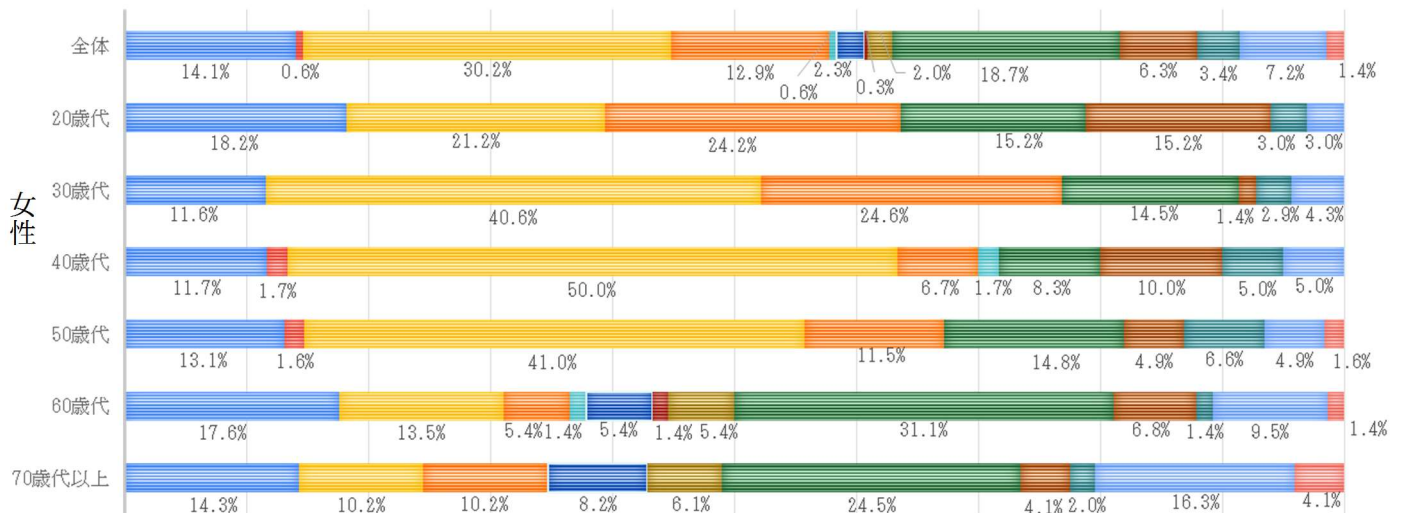
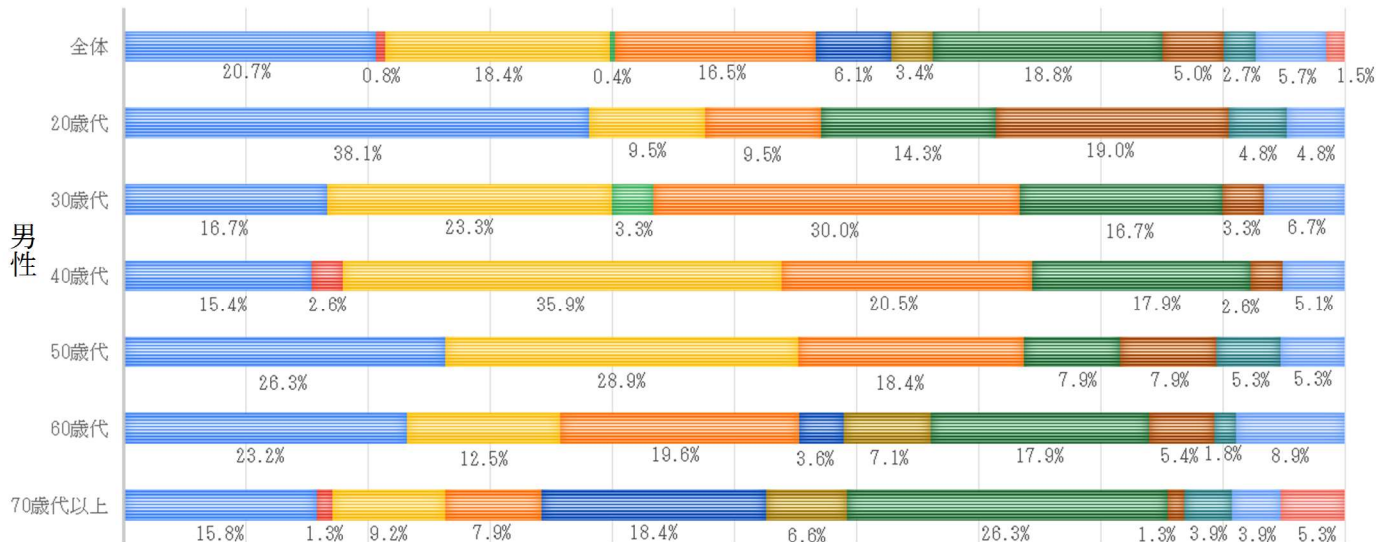
男性では、「思う」の回答比率が平成23年度調査から平成27年度調査で2.2ポイント減少し、さらに平成27年度調査から令和3年度調査で13.8ポイント減少しています。一方で「思わない」の回答比率は、平成23年度調査から平成27年度調査で1.3ポイント増加し、さらに平成27年度調査から令和3年度調査で13.2ポイント増加しています。

女性では、「思う」の回答比率が平成23年度調査から平成27年度調査で4.3ポイント減少し、さらに平成27年度調査から令和3年度調査で12.1ポイント減少しています。一方で「思わない」の回答比率は、平成23年度調査から平成27年度調査で5.4ポイント増加し、さらに平成27年度調査から令和3年度調査で11.5ポイント増加しています。

問 10 家庭での役割分担について、あなたの家庭ではどのようになっていますか。

■家庭での役割分担について男女別×年齢別の構成比

- 男性は仕事、女性は家事・育児等を分担している
- 男女とも仕事をし、家事・育児等は主に女性が担っている
- 男女とも仕事をし、家事・育児等も男女で分担している
- 男女とも無職で、家事・育児等は主に女性が担っている
- 男女とも無職で、家事・育児等は男女で分担している
- 仕事も家事・育児等もすべてひとりで担っている（単身者含む）
- その他
- 女性は仕事、男性は家事・育児等を分担している
- 男女とも仕事をし、家事・育児等は主に男性が担っている
- 男女とも仕事をし、家事・育児等は第三者（親族やヘルパー等）の協力がある
- 男女とも無職で、家事・育児等は主に男性が担っている
- 役割分担はしていない（特に決めていない場合も含む）
- 男女ではなく、親と子で分担している
- 無回答



その他の主な意見

- ・家事は得意なものを担っている。男性、女性という分け方ではない (女性・60歳代)
- ・男性は仕事+家事少々、女性は家事 子育ては平等 (女性・60歳代)
- ・高齢のため、二人で協力しあっている (男性・70歳代以上)
- ・育児は完了。家事は分担しているつもり (男性・60歳代)
- ・家の補修、掃除機清掃、雪かきは夫、食器等洗いもできる限り手伝う (男性・70歳代以上)
- ・男→仕事、女→無職 家事育児 [男7:女3] (男性・20歳代)
- ・男性は仕事・育児等、女性は家事・育児等を分担 (女性・30歳代)
- ・一緒に暮らしていたときは、私が主に外で働き、家事は2人でしていました (女性・30歳代)
- ・男性が無職で女性が家事等を担っている (女性・40歳代)

■家庭での役割分担について男女別×年齢別の構成比

男性全体の回答では「男性は仕事、女性は家事・育児等を分担している」の項目が最も多く(20.7%)、女性全体の回答では「男女とも仕事をし、家事・育児等は主に女性が担っている」が最も多く(30.2%)となっています。

男性の回答では20歳代(38.1%)、50歳代(26.3%)で「男性は仕事、女性は家事・育児等を分担している」の割合が高くなっており、30歳代(23.3%)、40歳代(35.9%)、50歳代(28.9%)では「男女とも仕事をし、家事・育児等は主に女性が担っている」の割合が高くなっています。また、70歳代以上(26.3%)では「役割分担はしていない(特に決めていない場合も含む)」の割合が高くなっています。

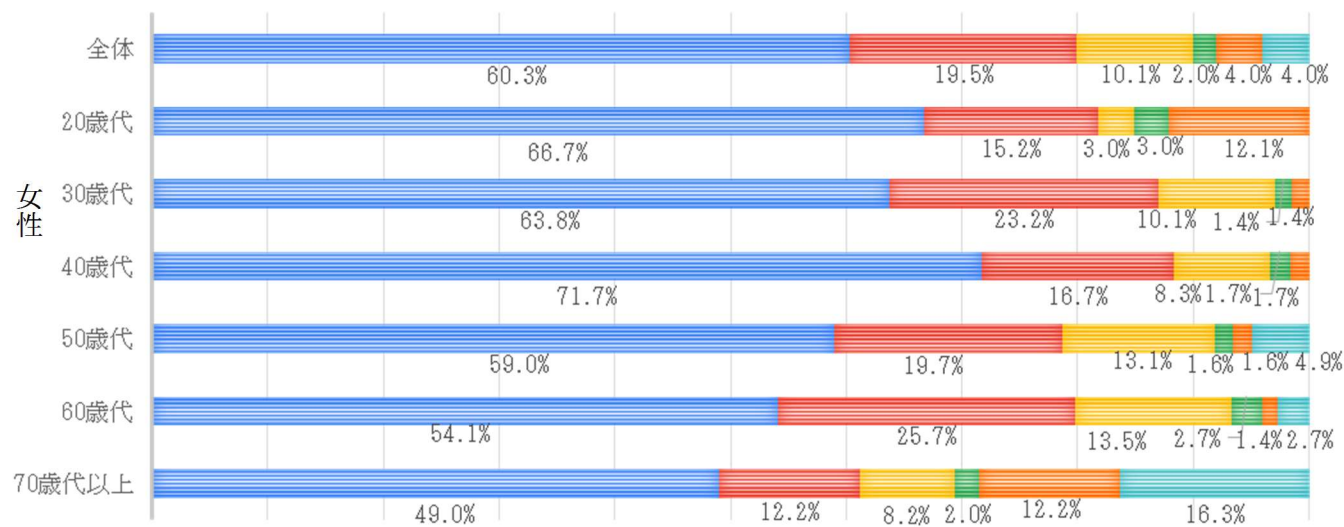
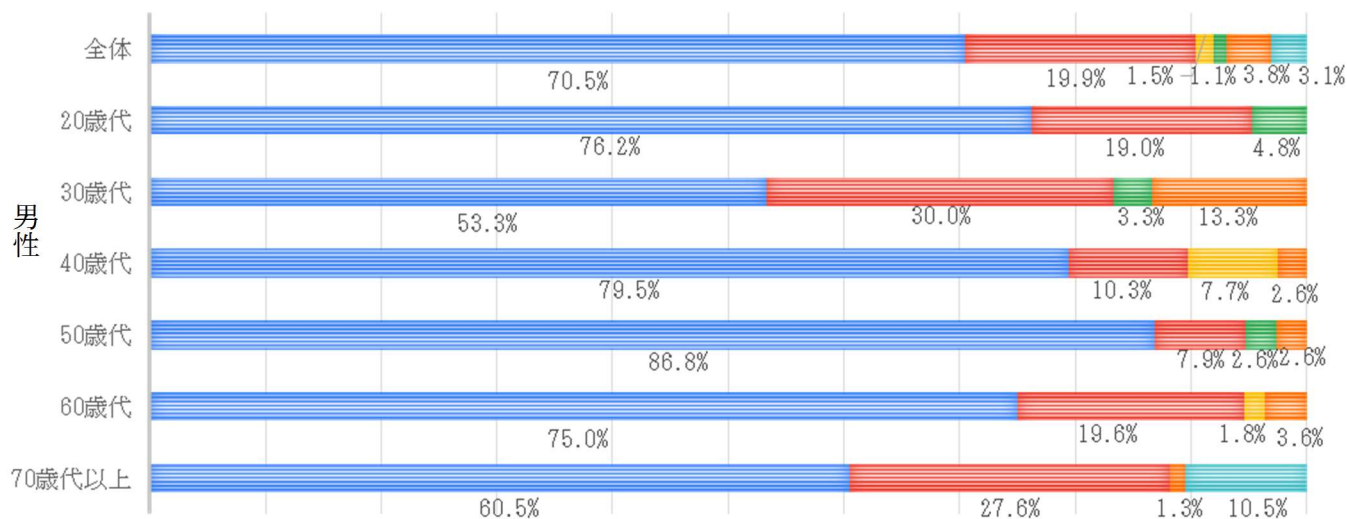
女性の回答では30歳代(40.6%)、40歳代(50.0%)、50歳代(41.0%)で「男女とも仕事をし、家事・育児等は主に女性が担っている」の割合が高くなっています。60歳代(31.1%)、70歳代以上(24.5%)では「役割分担はしていない(特に決めていない場合も含む)」の割合が高くなっています。

問 11 次の (1) ~ (10) の役割について、あなたのご家庭では主に誰が担っていますか。

■家庭における作業分担について男女別×年齢別の構成比

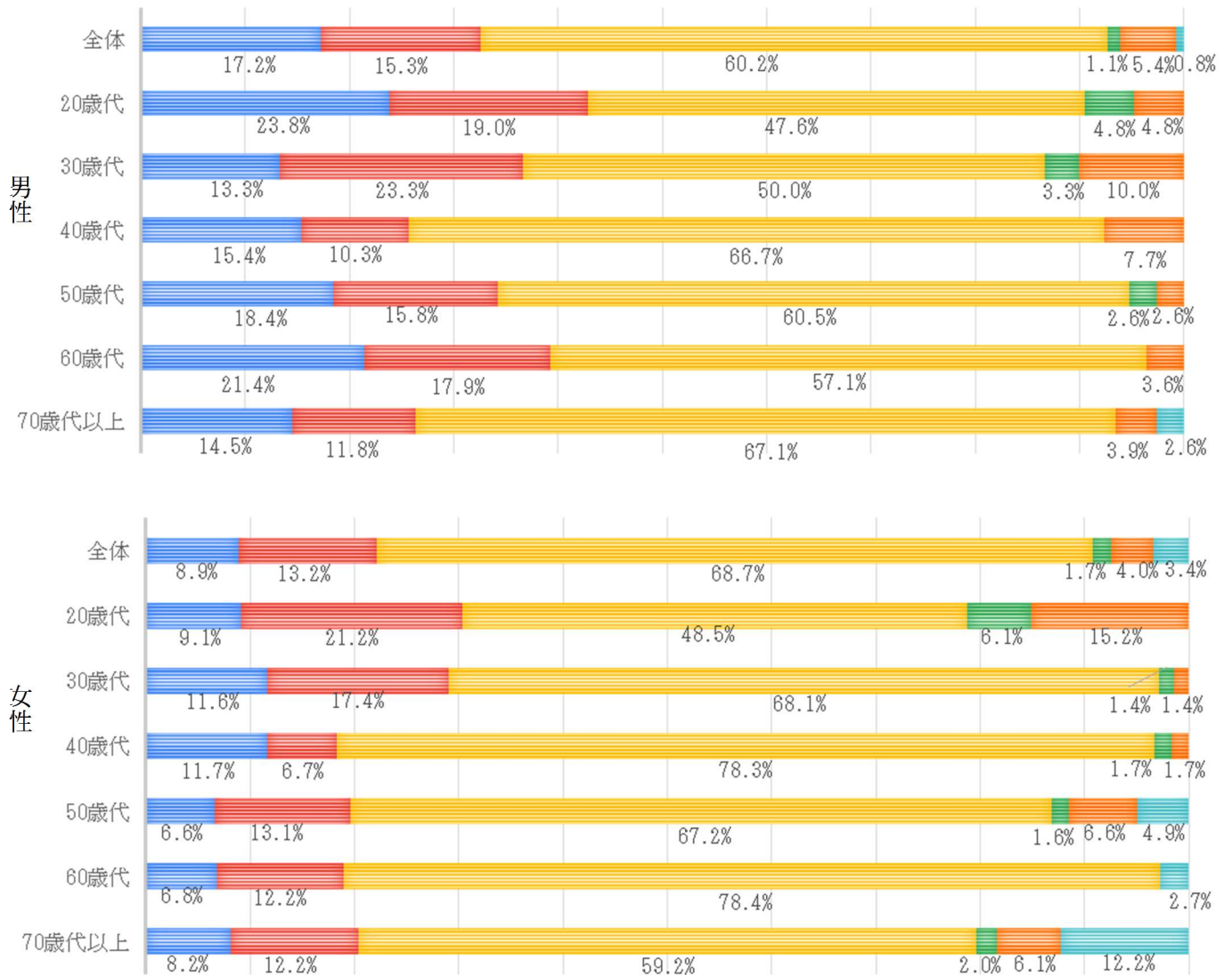
(1) 生活費を得る

■主に男性（夫、息子、父など） ■男性も女性も同程度 ■主に女性（妻、娘、母など） ■わからない ■決めていない ■無回答



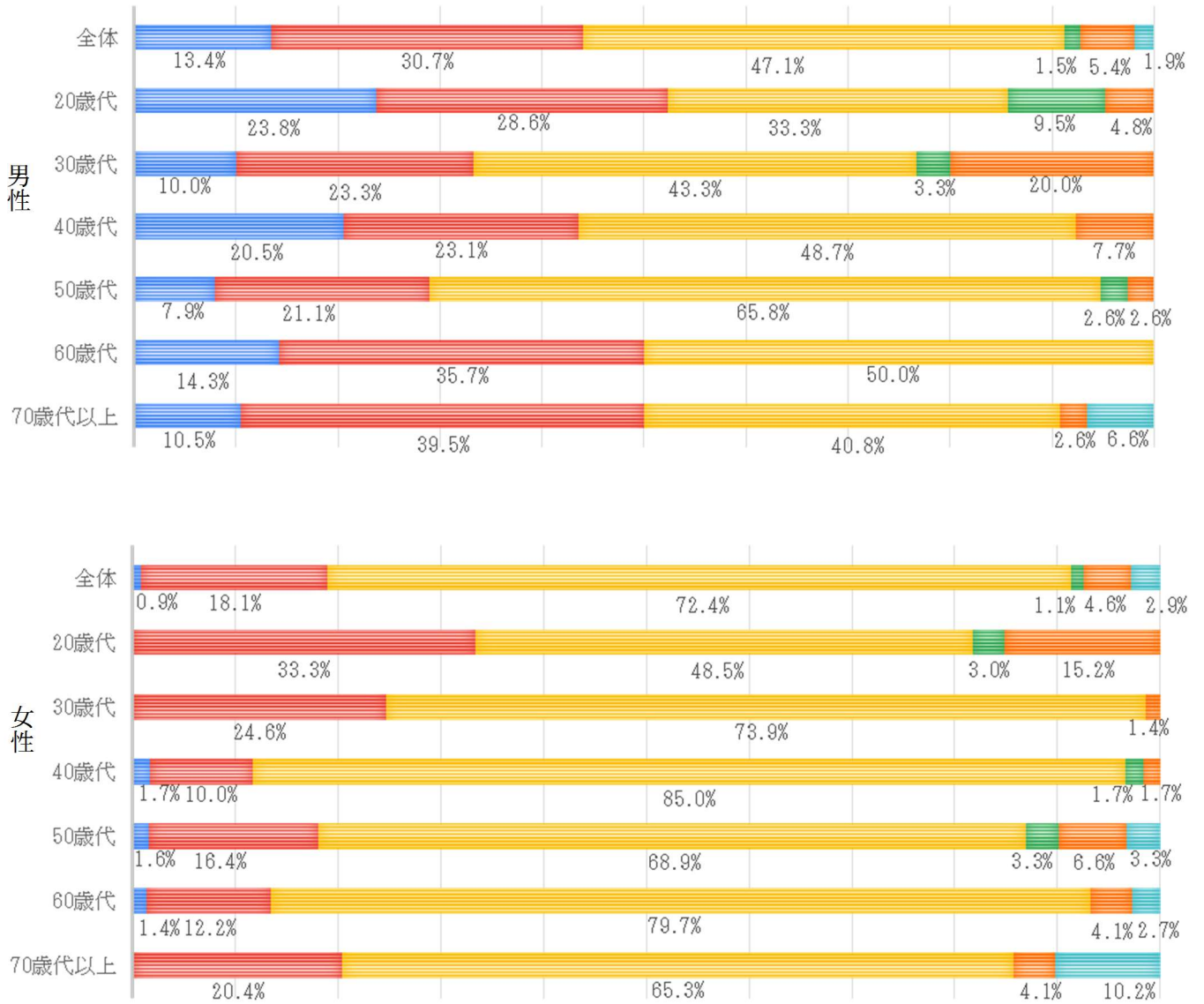
(2) 生活費の管理

■主に男性(夫、息子、父など) ■男性も女性も同程度 ■主に女性(妻、娘、母など) ■わからない ■決めていない ■無回答



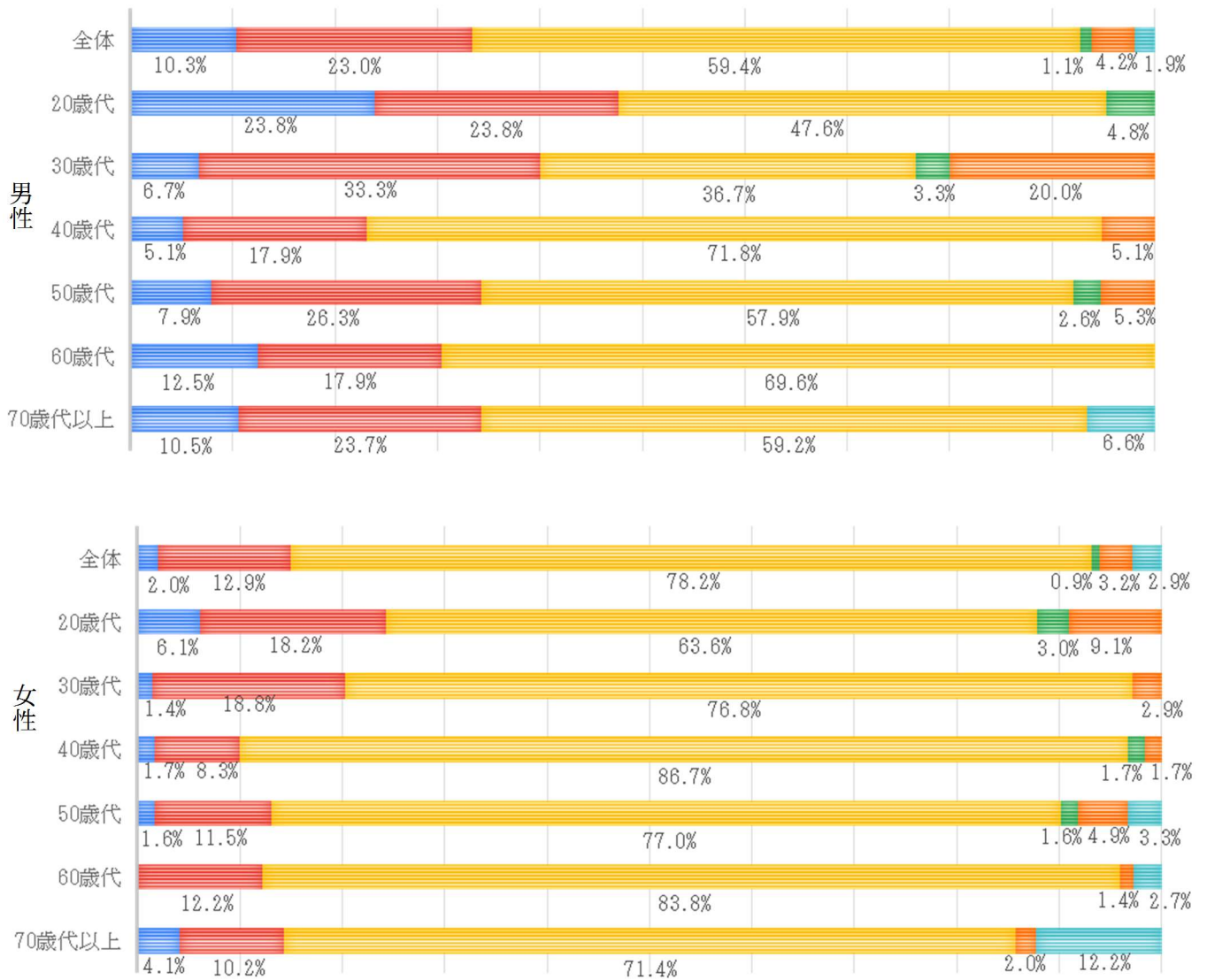
(3) そうじ

■主に男性(夫、息子、父など) ■男性も女性も同程度 ■主に女性(妻、娘、母など) ■わからない ■決めていない ■無回答



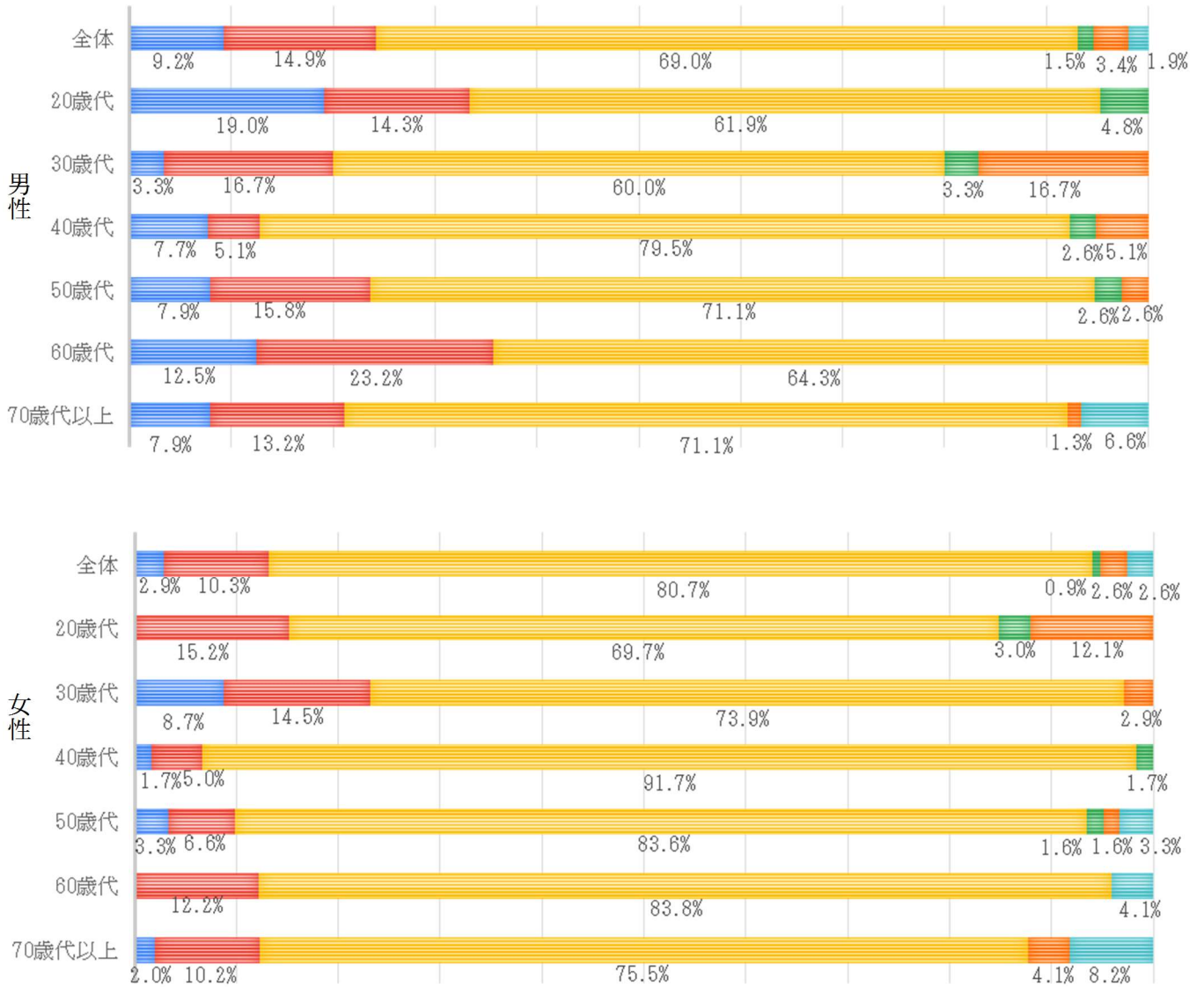
(4) 洗濯

■主に男性(夫、息子、父など) ■男性も女性も同程度 ■主に女性(妻、娘、母など) ■わからない ■決めていない ■無回答



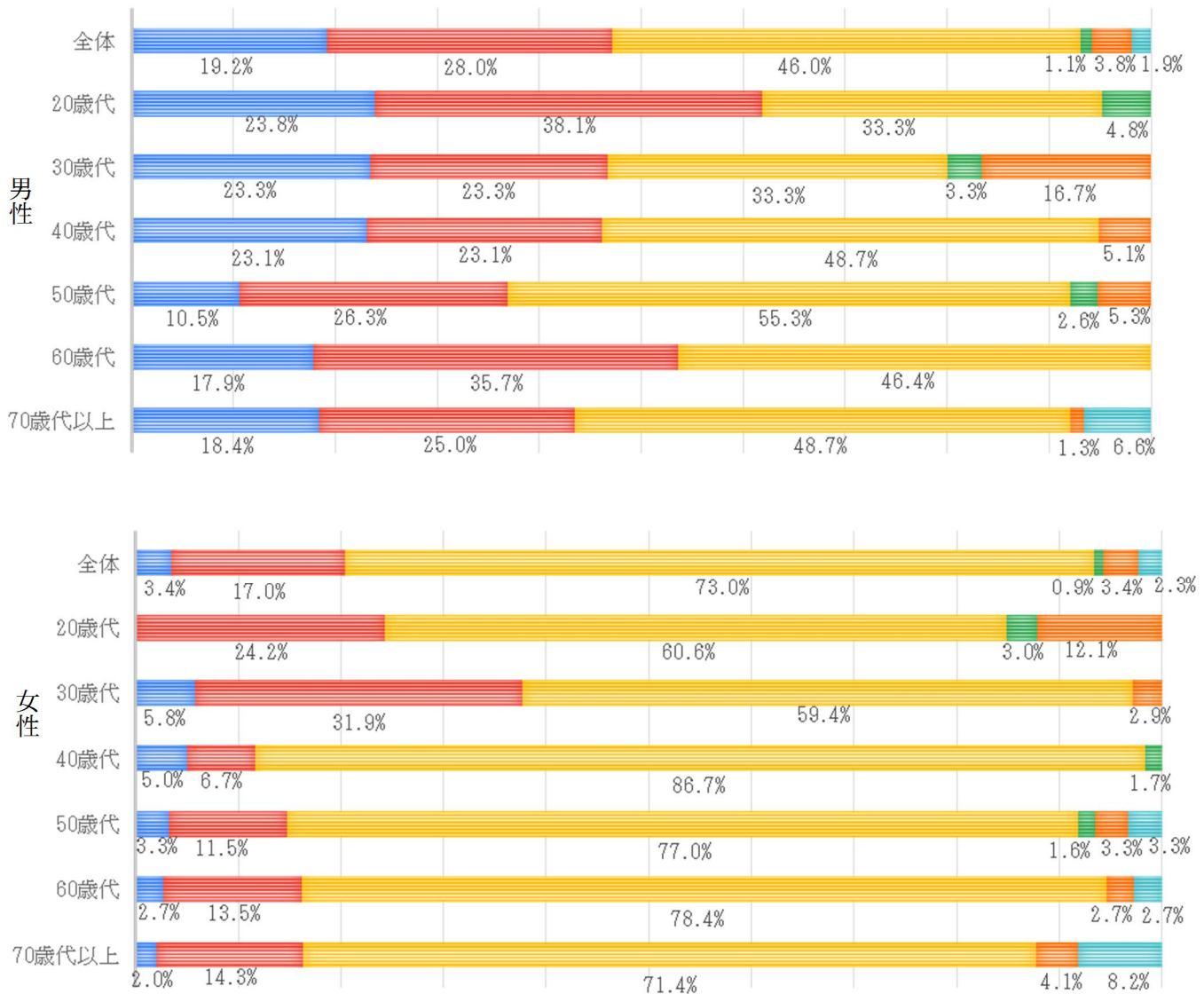
(5) 食事の支度

■主に男性(夫、息子、父など) ■男性も女性も同程度 ■主に女性(妻、娘、母など) ■わからない ■決めていない ■無回答



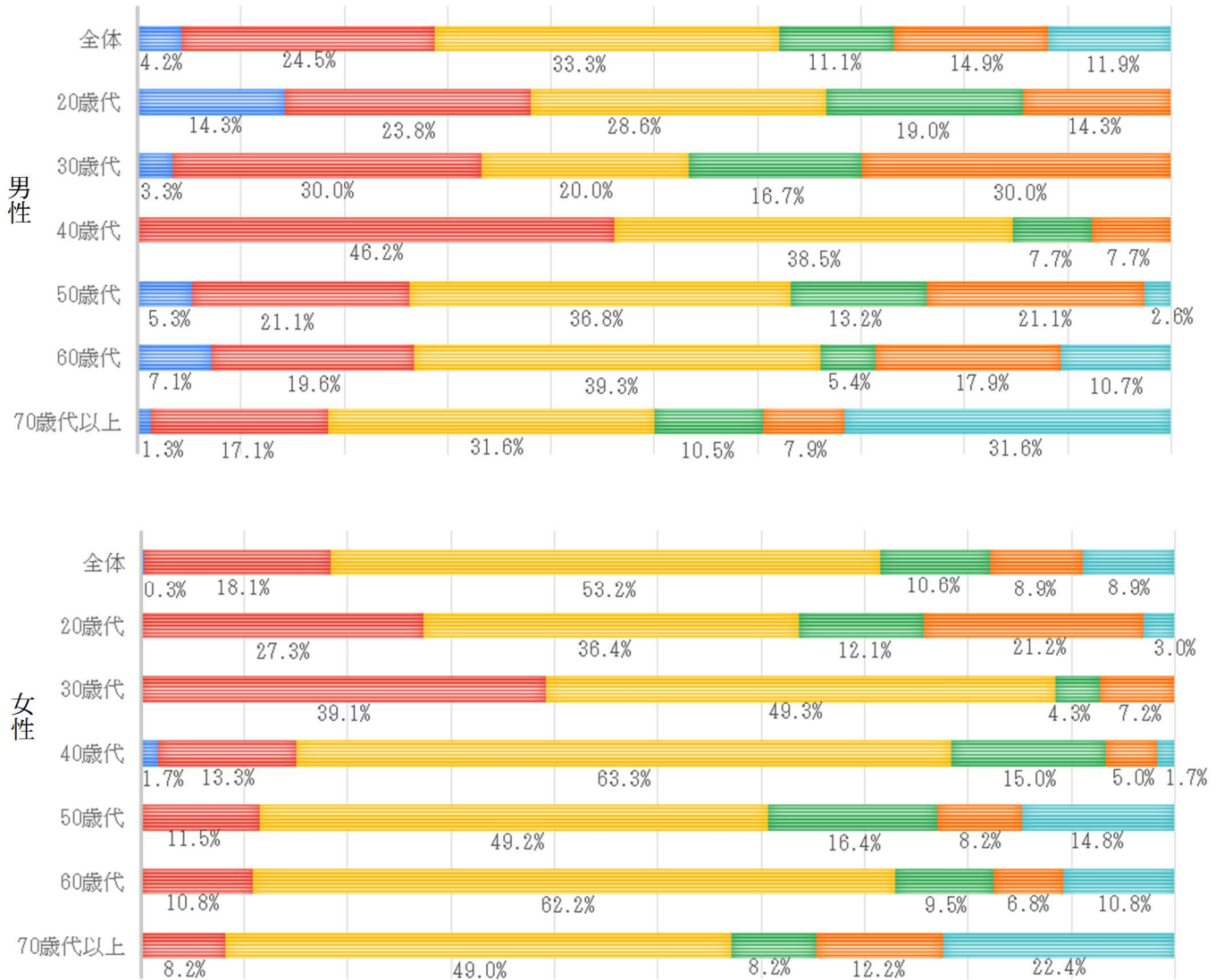
(6) 食事の後片付け

■主に男性(夫、息子、父など) ■男性も女性も同程度 ■主に女性(妻、娘、母など) ■わからない ■決めていない ■無回答



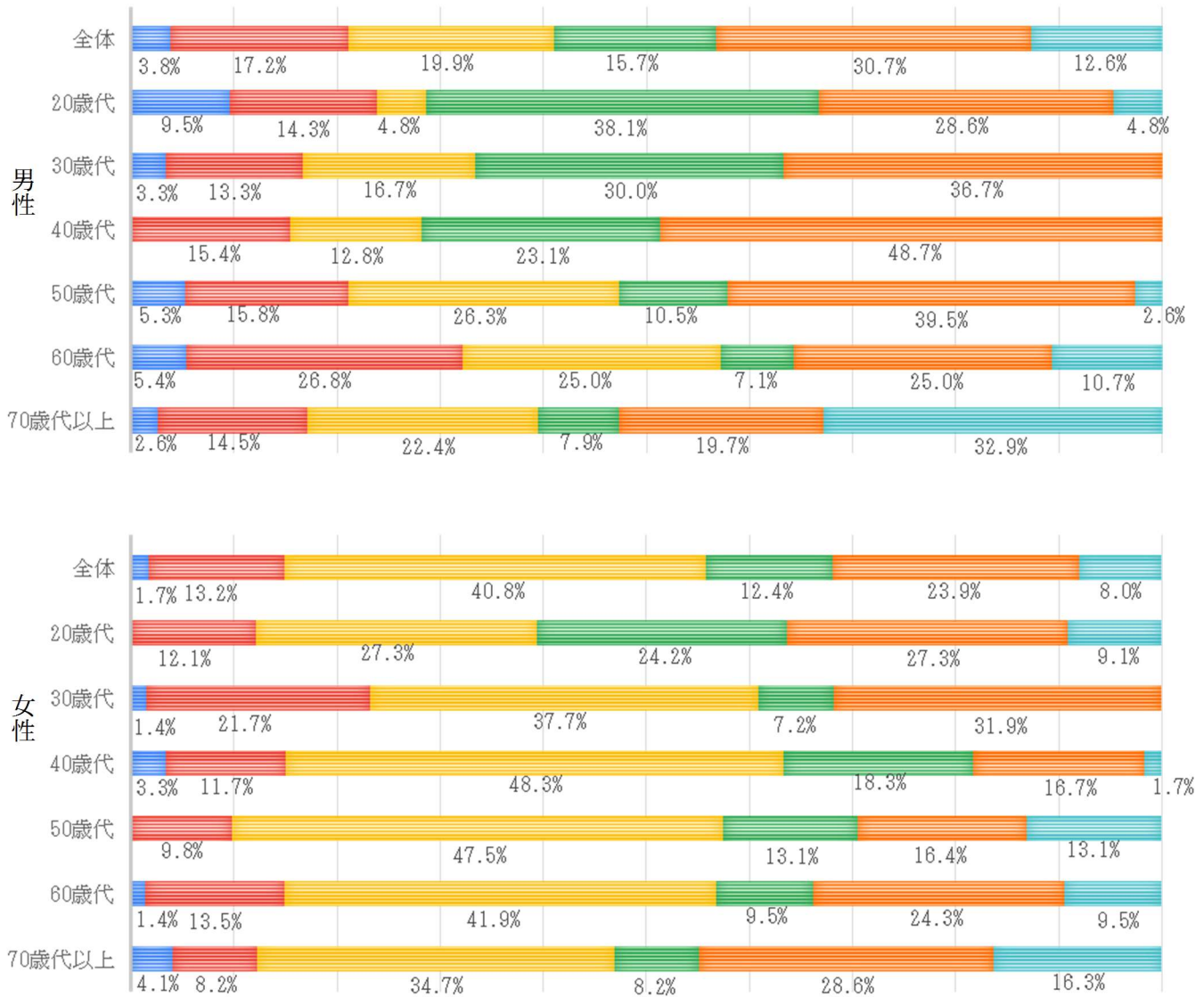
(7) 子育て

■主に男性(夫、息子、父など) ■男性も女性も同程度 ■主に女性(妻、娘、母など) ■わからない ■決めていない ■無回答



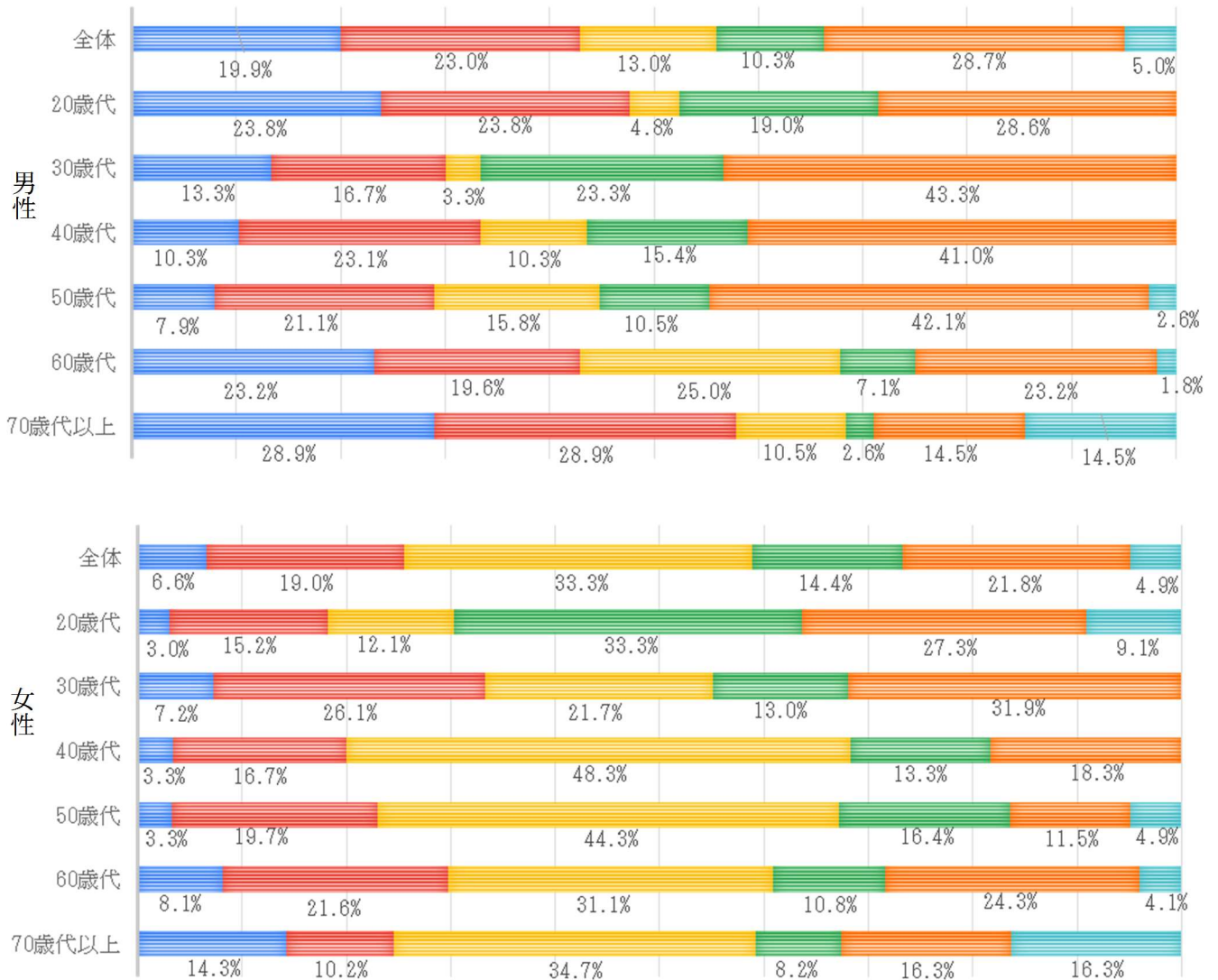
(8) 介護・看護

■主に男性(夫、息子、父など) ■男性も女性も同程度 ■主に女性(妻、娘、母など) ■わからない ■決めていない ■無回答



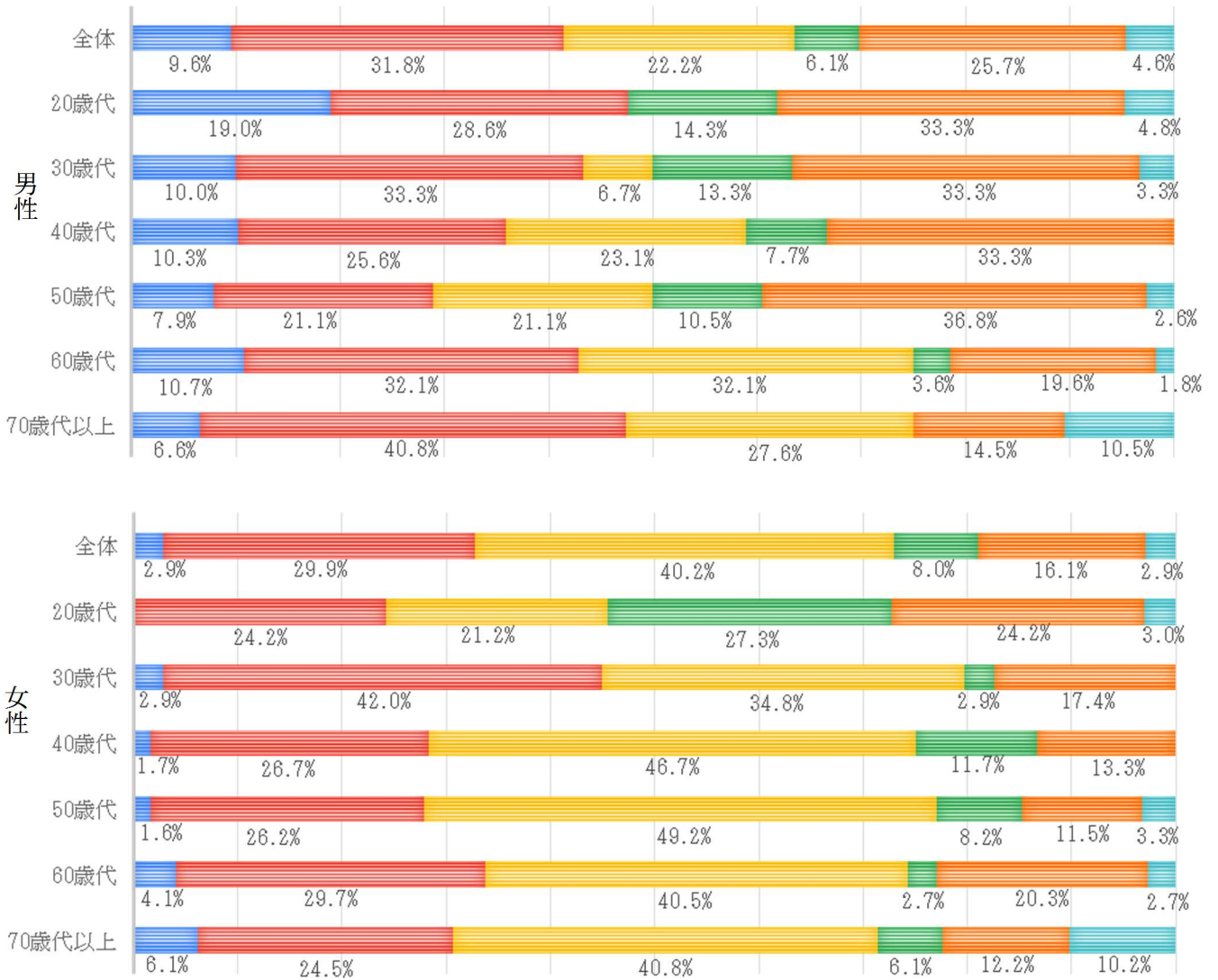
(9) 地域活動

■主に男性(夫、息子、父など) ■男性も女性も同程度 ■主に女性(妻、娘、母など) ■わからない ■決めていない ■無回答



(10) 近所付き合い

■主に男性(夫、息子、父など) ■男性も女性も同程度 ■主に女性(妻、娘、母など) ■わからない ■決めていない ■無回答



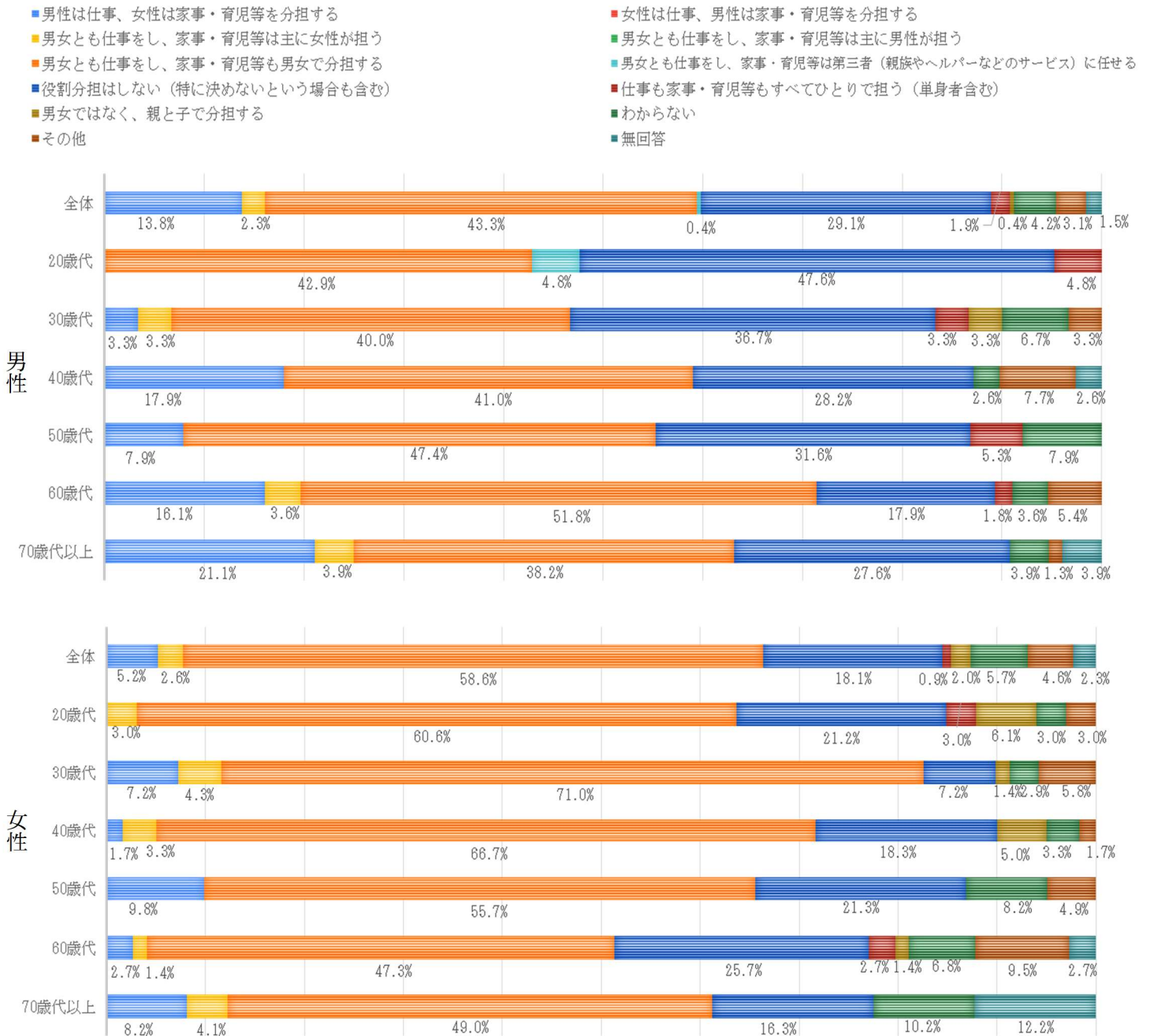
■家庭における作業分担について男女別×年齢別の構成比

男性・女性の全体回答について、(1) 生活費を得るが「主に男性（夫、息子、父など）」（以下、「男性」と表記）と回答した比率が最も高くなっています。（男性全体 70.5%、女性全体 60.3%）一方で、(2) 生活費の管理、(4) 洗濯、(5) 食事の支度については男性・女性とも「主に女性（妻、娘、母など）」（以下、「女性」と表記）と回答した割合が半数を超えています。また、(1) 生活費を得る、(2) 生活費の管理、(3) そうじ、(4) 洗濯、(5) 食事の支度、(6) 食事の後片付け、(7) 子育て、(8) 介護・看護、(9) 地域活動、(10) 近所付き合いの全ての項目において、「女性」と回答した比率を男女別に見ると、女性の方が高い傾向にあり、男性と女性の認識に差があることがわかります。

年齢別に見ると、(1) 生活費を得るのは「男性」と答えた方は 20 歳代から 50 歳代に多い傾向にあり、(3) そうじ、(4) 洗濯、(5) 食事の支度、(6) 食事の後片付け、(8) 介護・看護において「女性」と答えた方は 30 歳代から 50 歳代に多い傾向にあります。

問 12 家庭での役割分担について、あなたはどうかあるべきだと思いますか。

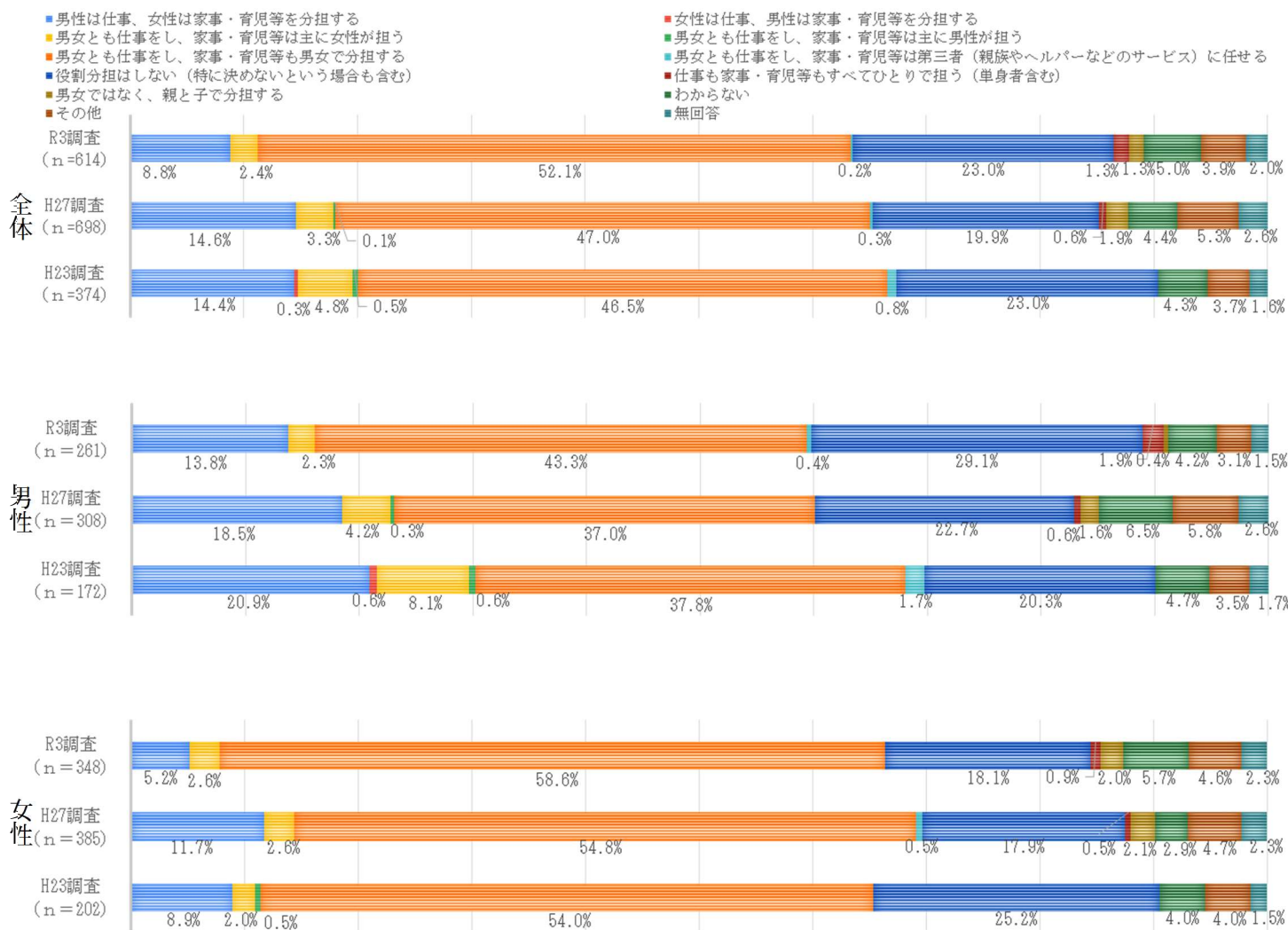
■家庭での分担のあるべき姿について男女別×年齢別の構成比



■家庭での分担のあるべき姿について男女別×年齢別の構成比

男女ともに、男性・20歳代以外の全ての年代において「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」が最も比率が多くなっており、次いで「役割分担はしない (特に決めてないという場合も含む)」になっています。また、男性は女性よりも「役割分担はしない (特に決めてないという場合も含む)」と回答している割合が高く、女性は男性よりも「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」と回答している割合が高くなっています。年齢別では男性の40歳代以上で「男性は仕事、女性は家事・育児等を分担する」の回答割合が高い傾向にあります。

■家庭での分担のあるべき姿について年度別の調査結果比較



その他の主な意見

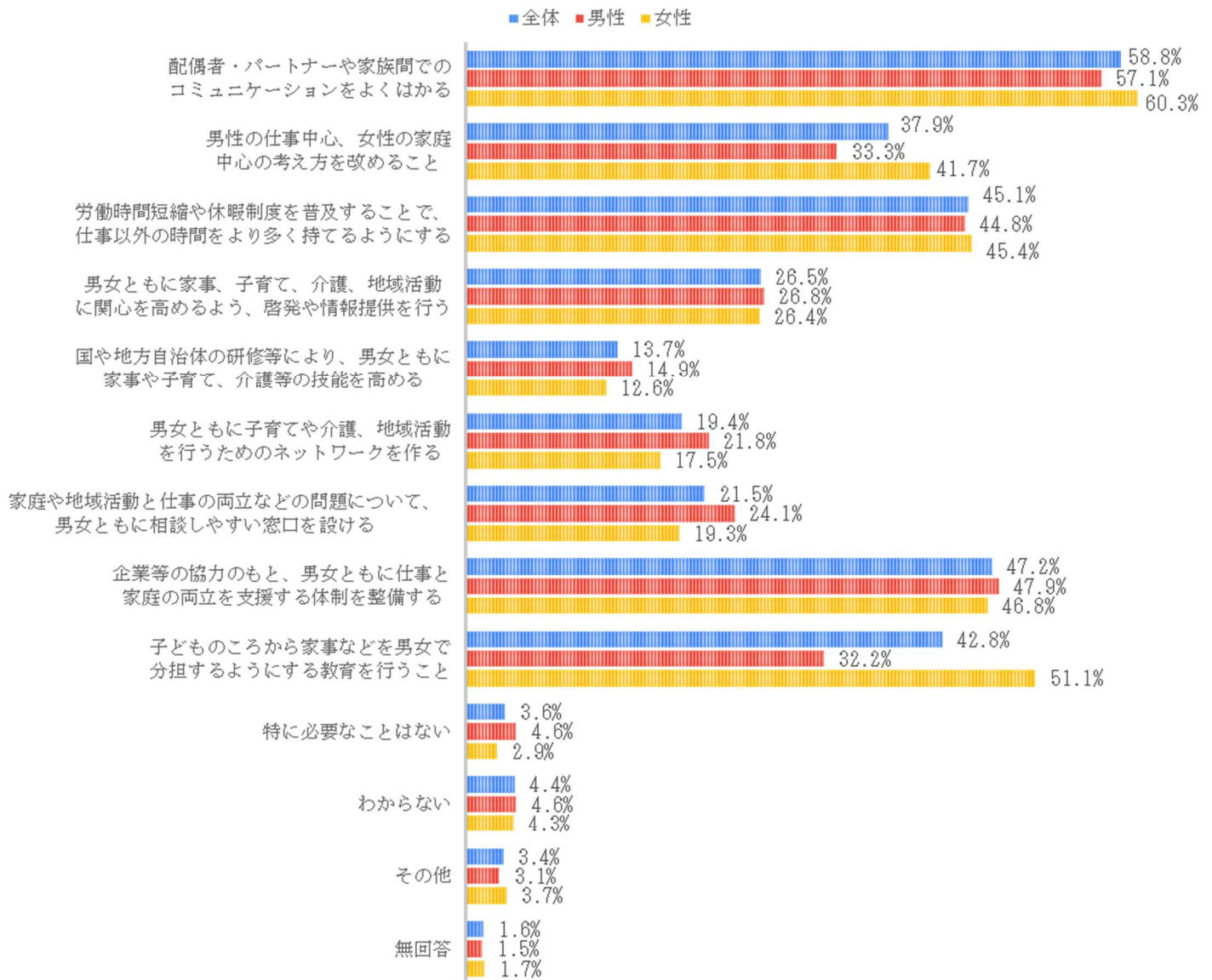
- ・障がい者の子供がいる場合、どうしても仕事をしていない妻が、家のことも、子どものこともやっ
て当たり前になっているのが理解できない (女性・60歳代)
- ・男性も女性も育児を中心に仕事、家事をやりながら親族やヘルパーなどにも協力をしてもらって
いる (女性・60歳代)
- ・互いに協力し合うのが良い (女性・60歳代)
- ・男性は仕事、女性は家事。出来ることがあれば男性も家事育児に加わる (女性・60歳代)
- ・それぞれの家庭で決めれば良い (男性・40歳代)
- ・手伝える人が手伝う (女性・50歳代)
- ・お互いが良ければ、どちらでも良い (男性・60歳代)
- ・個々の考え次第だと思う (女性・60歳代)
- ・男女共に仕事・家事・育児等を分担 (女性・30歳代)
- ・基本、男女平等で良いが、子が本当に小さい時は、母親が育児の中心となり、夫が外で働くのは仕
方ないと思う (女性・30歳代)
- ・収入が多い方が仕事を優先すれば良い (男性・30歳代)
- ・親の介護をするようになって、仕事は男性（主人）のみになりました。出来る人が、出来ることを
するようにしています (女性・50歳代)
- ・性別ではなく適性で役割分担を決めている (男性・40歳代)

■家庭での分担のあるべき姿について年度別の調査結果比較

各年度の調査とも「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」がもっとも多くなっています。令和3年度調査では、これまでの調査と比較して「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」が一番高い割合になっており、平成27年度調査と比較すると全体では5.1ポイント増加しています。また、「男性は仕事、女性は家事・育児を分担する」は令和3年度調査では減少傾向になっており、全体では平成27年度調査と比較して5.8ポイント減少しています。

問 13 あなたは、男性と女性がともに、家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

■家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なものの男女別構成比 (複数回答)



その他の主な意見

- ・男女とも能力が必要。女性の賃金UP、保育所、学童放課後クラブ増設 (女性・60歳代)
- ・年長者から継続してきた考え方や思い込み(刷り込み)はなかなか取り除けてないのが実状。やはり子供の頃からの教育が大切と思う (女性・60歳代)
- ・男女ともに労働時間の短縮=時間外勤務をなくすことで、家族内での時間を増やさなければ解決しないと思う。男女どちらかが仕事量が多くなると、一方の負担が増すと思うため (女性・60歳代)
- ・家事や子育て、介護が家庭生活を支える仕事よりも大変なこともあることを、夫に理解させる (女性・60歳代)
- ・子看休暇の取得しやすい労働環境と意識の改善 (女性・50歳代)
- ・介護があるとどうしても仕事をセーブするのも女性になる。充実した介護サービスを受けられるようになれば良いと思う (女性・40歳代)
- ・仕事を休んでもあまり迷惑のかからない環境づくり。現状では、人員にゆとり無く、休むことが簡単にできない (女性・30歳代)
- ・共働きしなくても暮らしていける収入と時間的な余裕 (男性・30歳代)
- ・保活の簡素化、保育園の増園 (女性・30歳代)
- ・週休3日、労働時間1日6時間 (男性・40歳代)
- ・世帯所得を向上させることが必要。税金、社会保障費の負担が大きく共働き世帯が多い。家庭のために使える時間が少ない人が多い (男性・40歳代)

■家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なものの男女別構成比

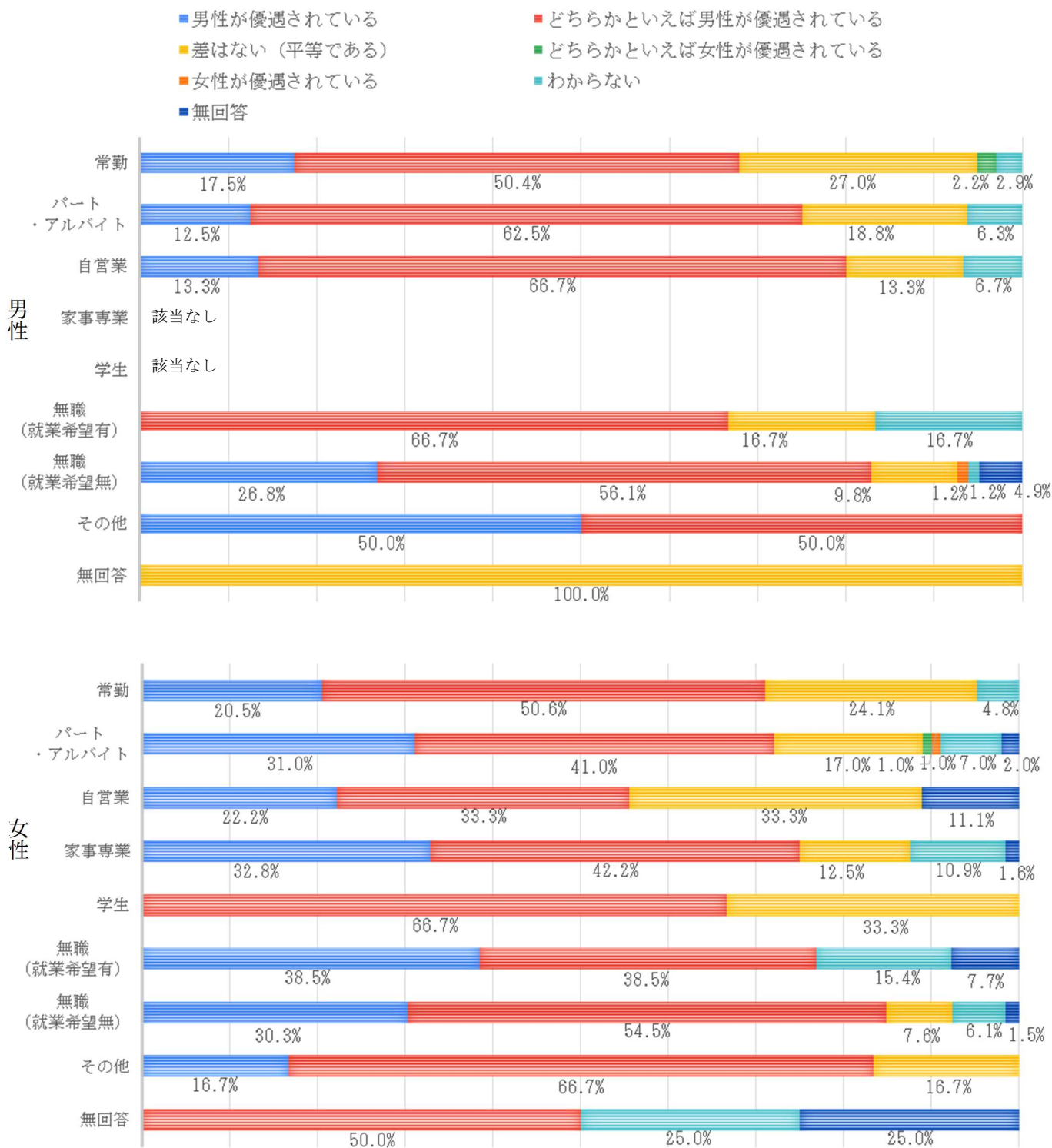
全体、男性、女性とも、最も多い比率となった項目は「配偶者・パートナーや家族間でのコミュニケーションをよくはかる」となっており、次いで「企業等の協力のもと、男女ともに仕事と家庭の両立を支援する体制を整備する」、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」に割合が高くなっています。また、「子どものころから家事などを男女で分担するようにする教育を行うこと」は女性の方が男性よりも回答割合が18.9ポイント高くなっています。

(3) 女性の就労について

問 14 あなたは、次にあげるような項目で、男女は平等になっていると思いますか。

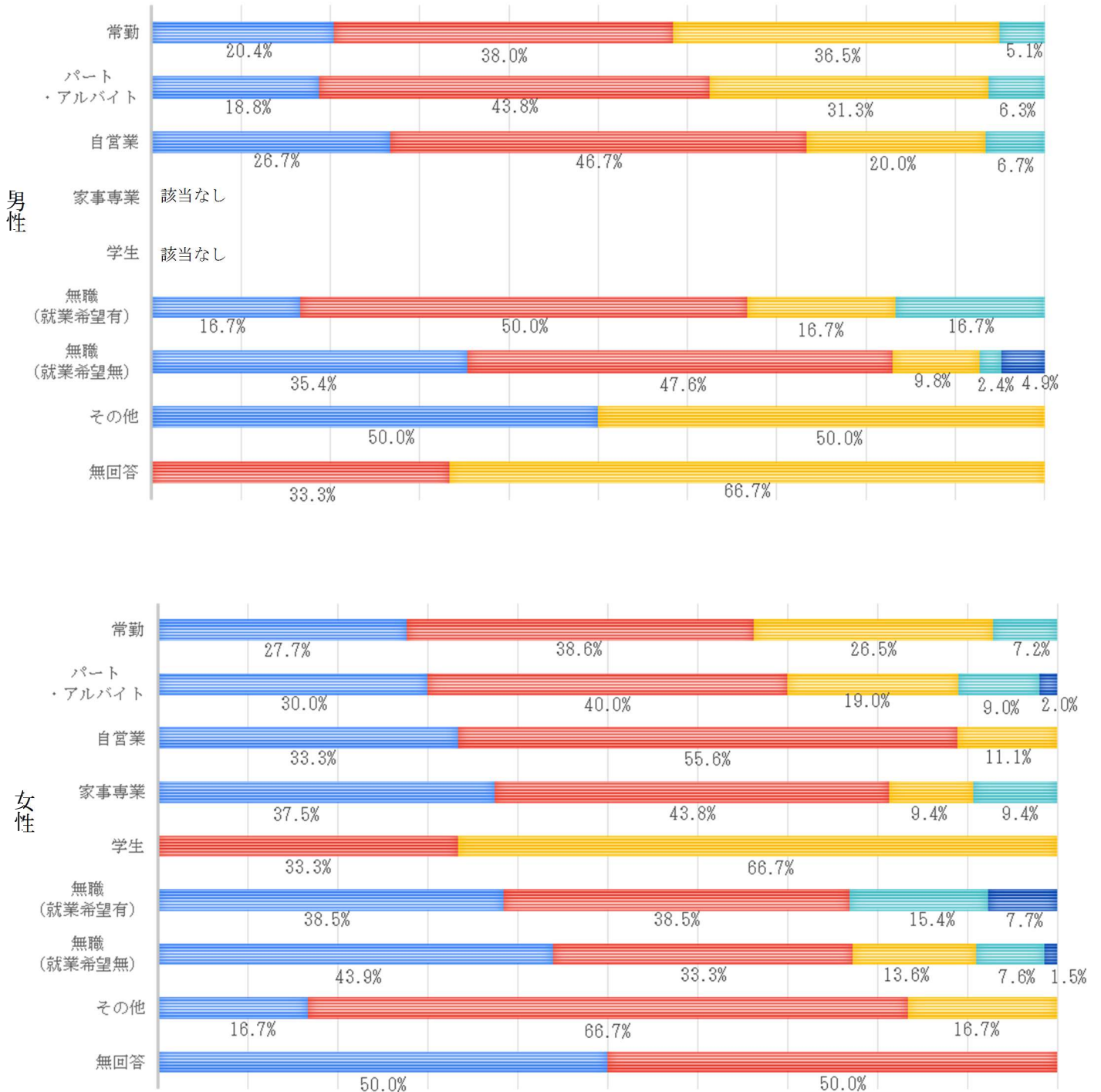
■男女の平等感について、男女別×職業別の構成比

①雇用形態



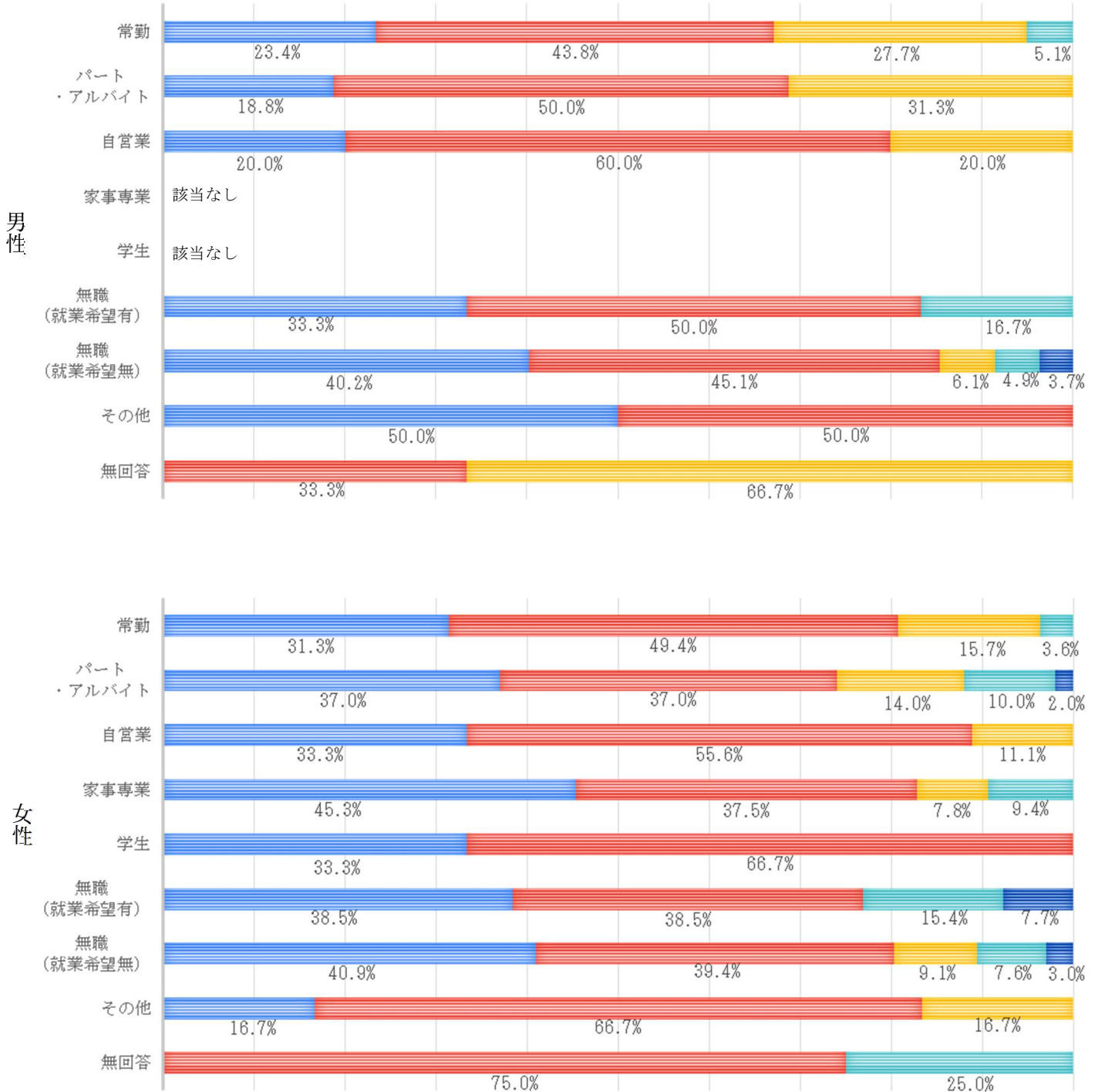
②賃金

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 差はない（平等である）
- 女性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない
- 無回答



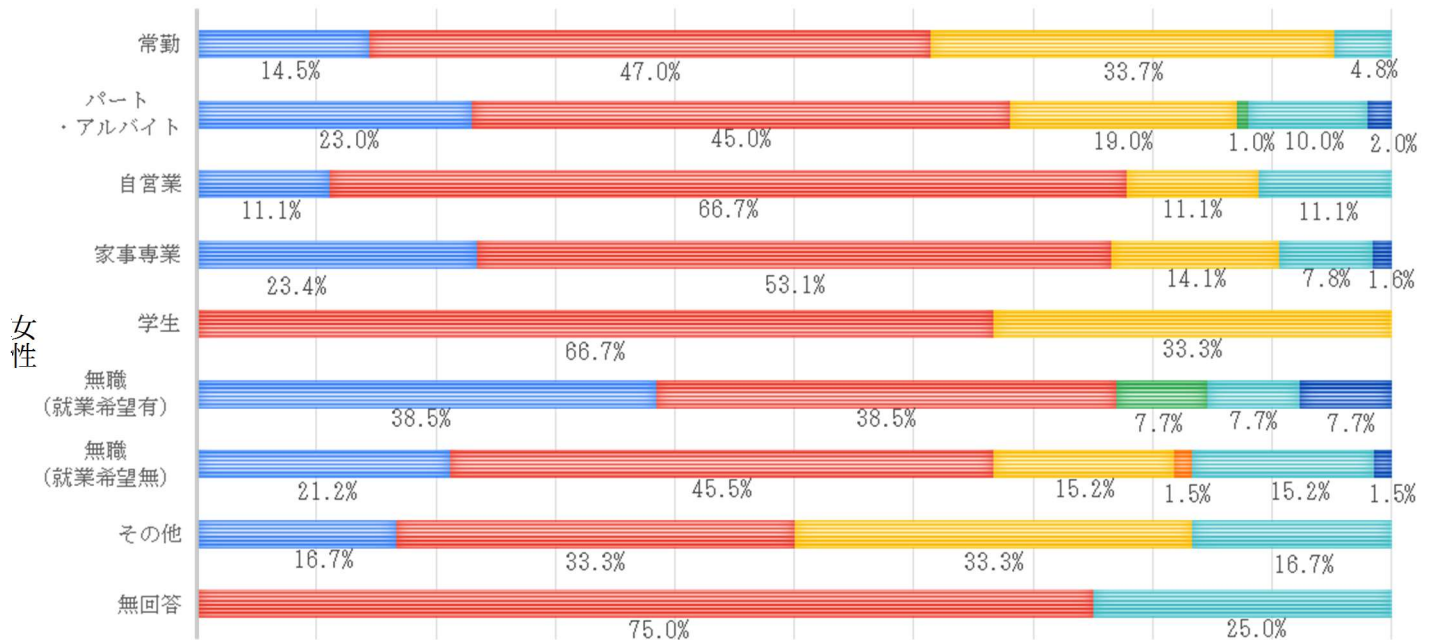
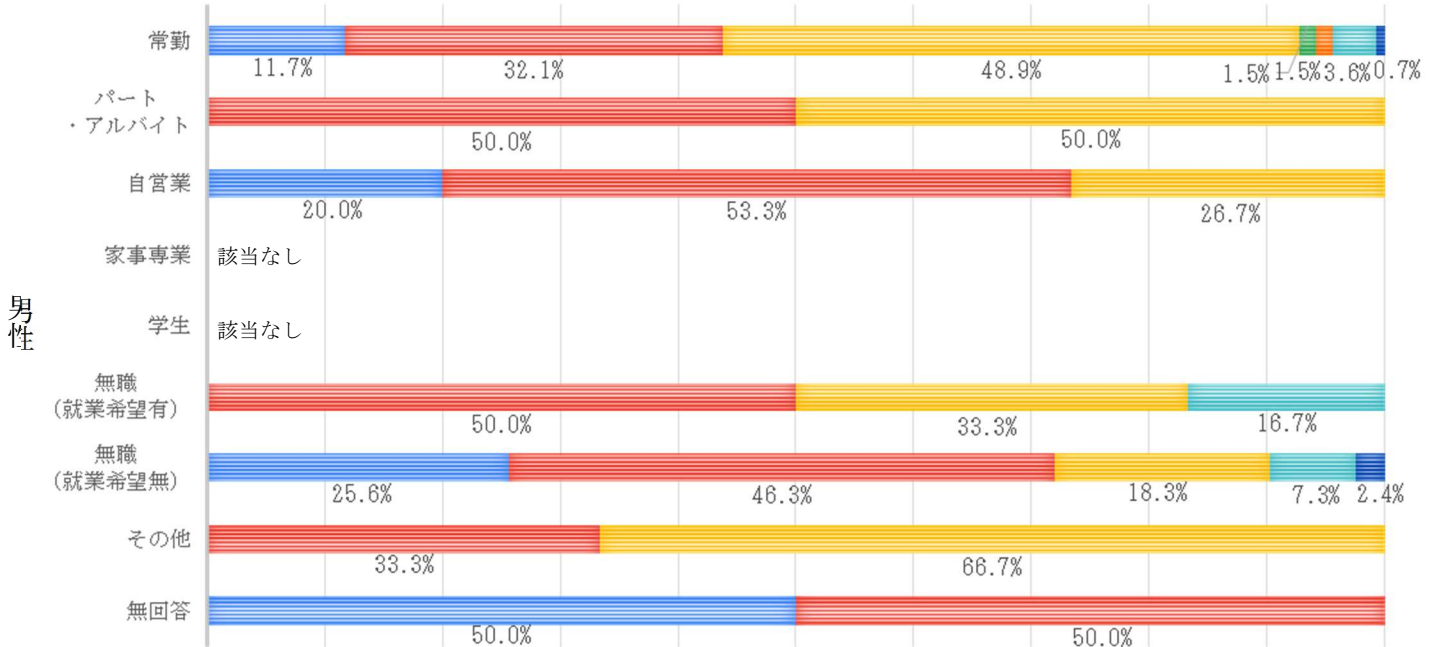
③昇進・昇格

- 男性が優遇されている
- 差はない（平等である）
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



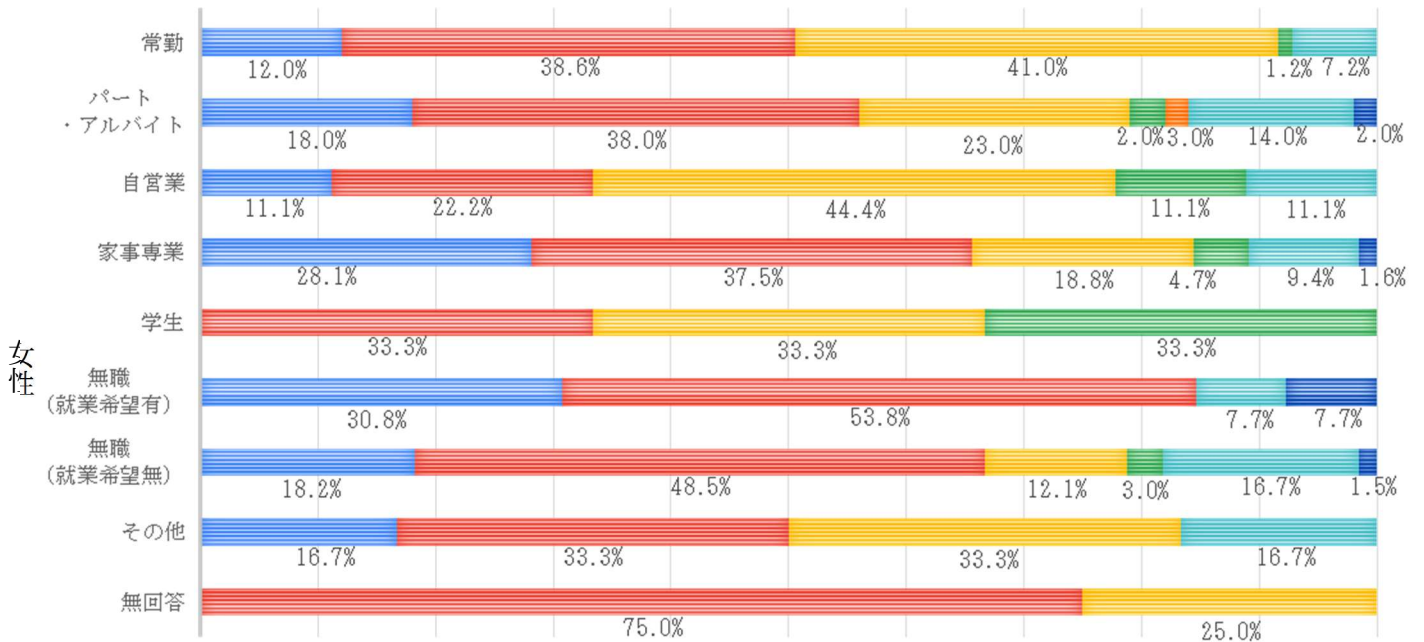
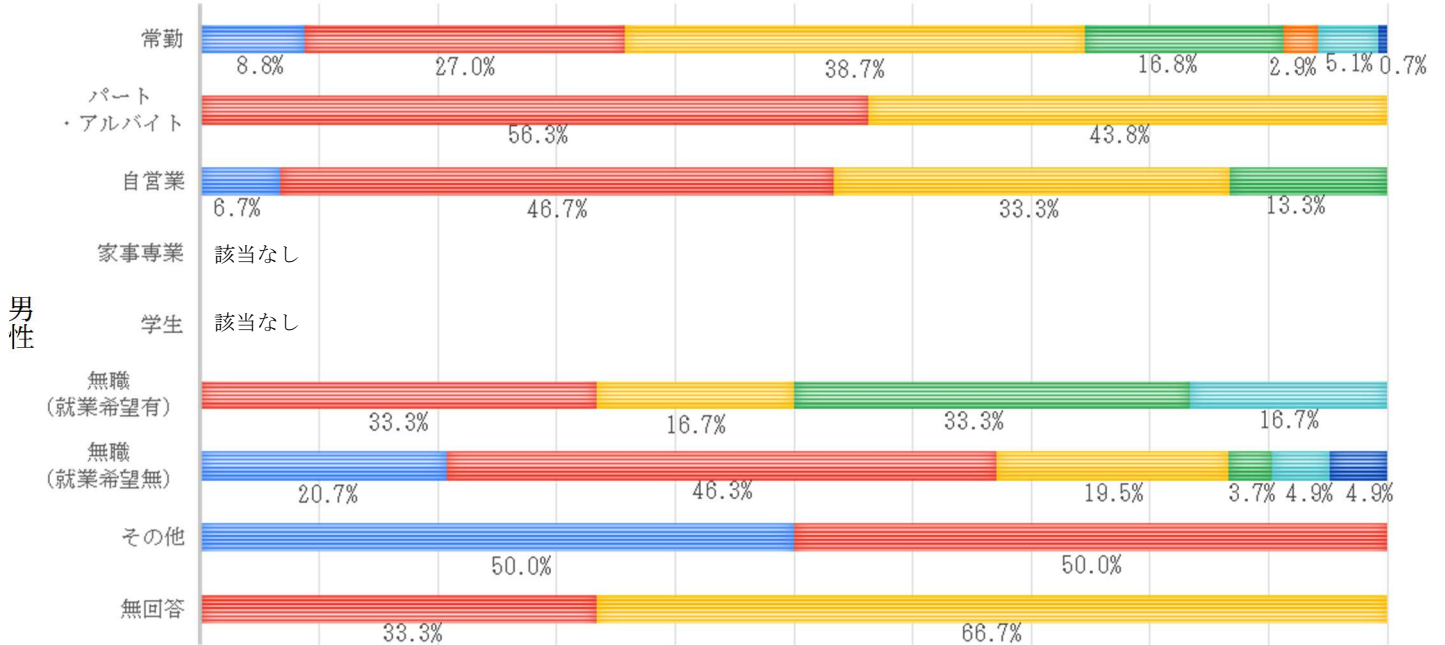
①能力の評価

- 男性が優遇されている
- 差はない（平等である）
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



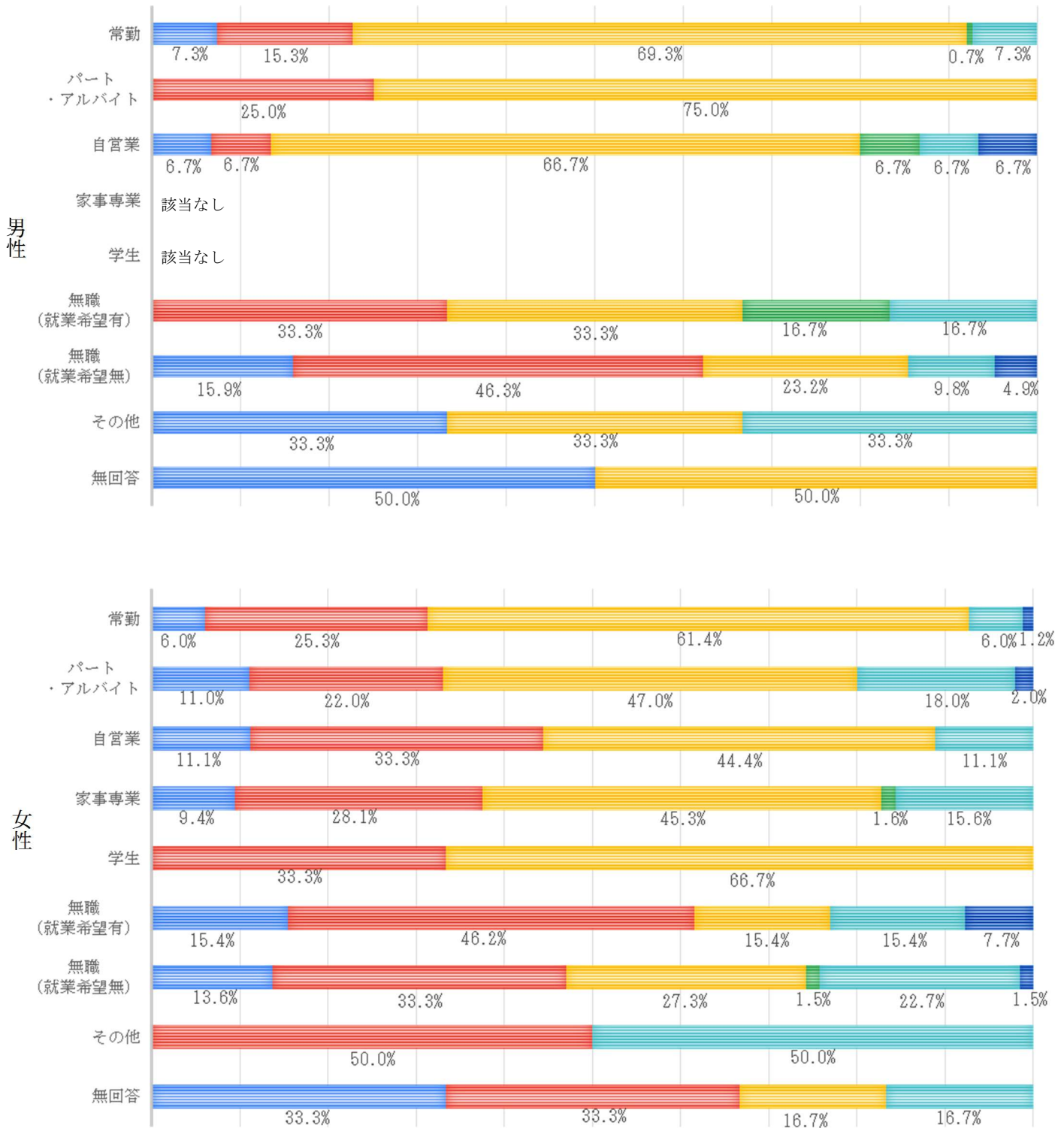
⑤仕事内容

- 男性が優遇されている
- 差はない（平等である）
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



⑥研修等を受ける機会

- 男性が優遇されている
- 差はない（平等である）
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



■男女の平等感について、男女別×職業別の構成比

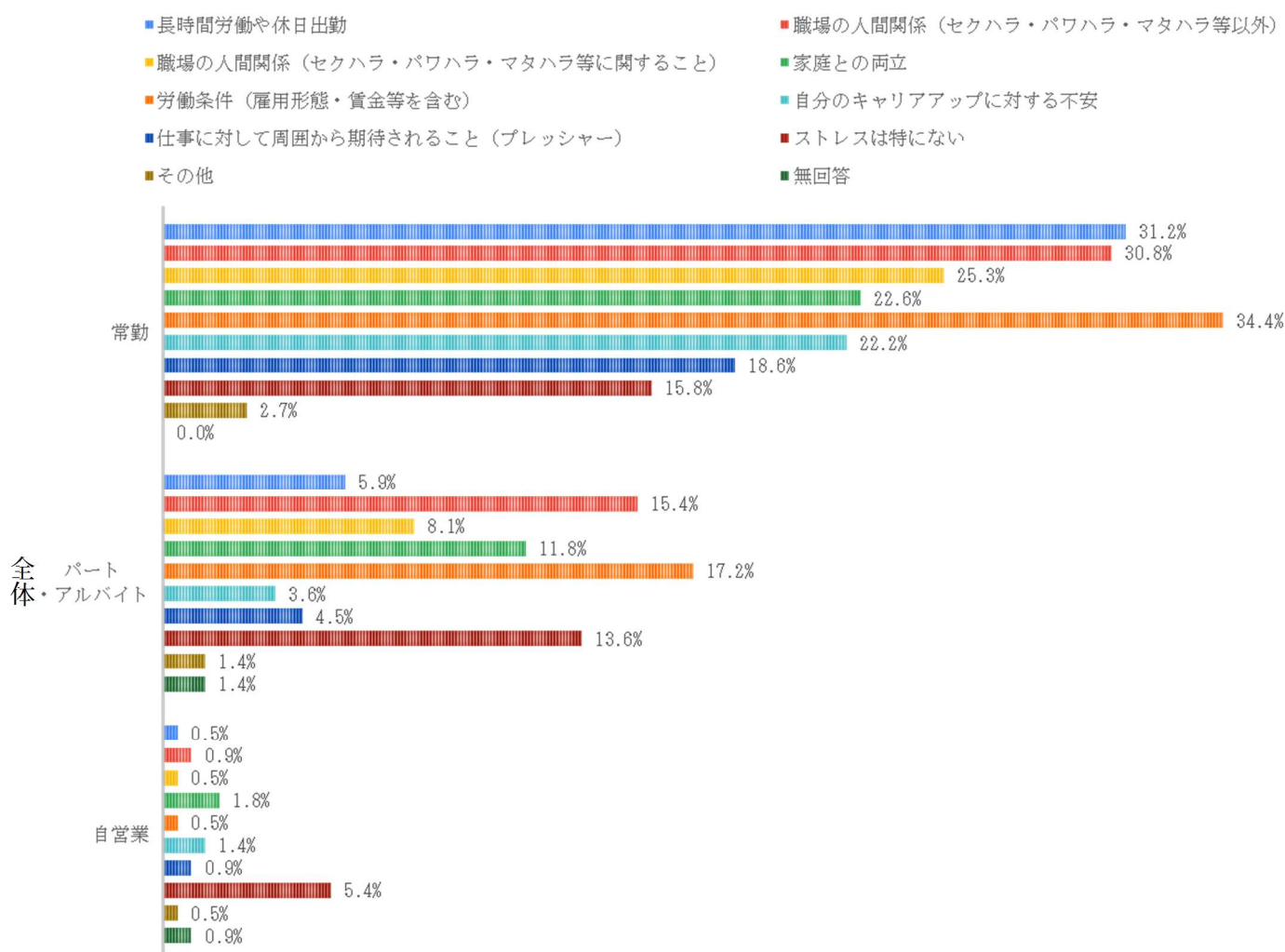
全職業の男女ともに、①雇用形態、②賃金、③昇進・昇格については「男性優遇」と回答している割合が高くなっています。また、⑥研修を受ける機会については男性の常勤、パート・アルバイト、自営業、女性の常勤、学生で「差はない（平等である）」と回答している割合が高くなっています。

性別・職種別では男性の常勤が「男性優遇」と答えた割合が他よりも全体的に低くなっており、女性は職種に関係なく①雇用形態、②賃金、③昇進・昇格、④能力評価について全体的に「男性優遇」と回答した割合が高くなっています。

問 15 (働いている方にうかがいます。)

あなたは、職場において、どのようなことにストレスを感じますか。

■職場のストレスに関する全体の職業別構成比

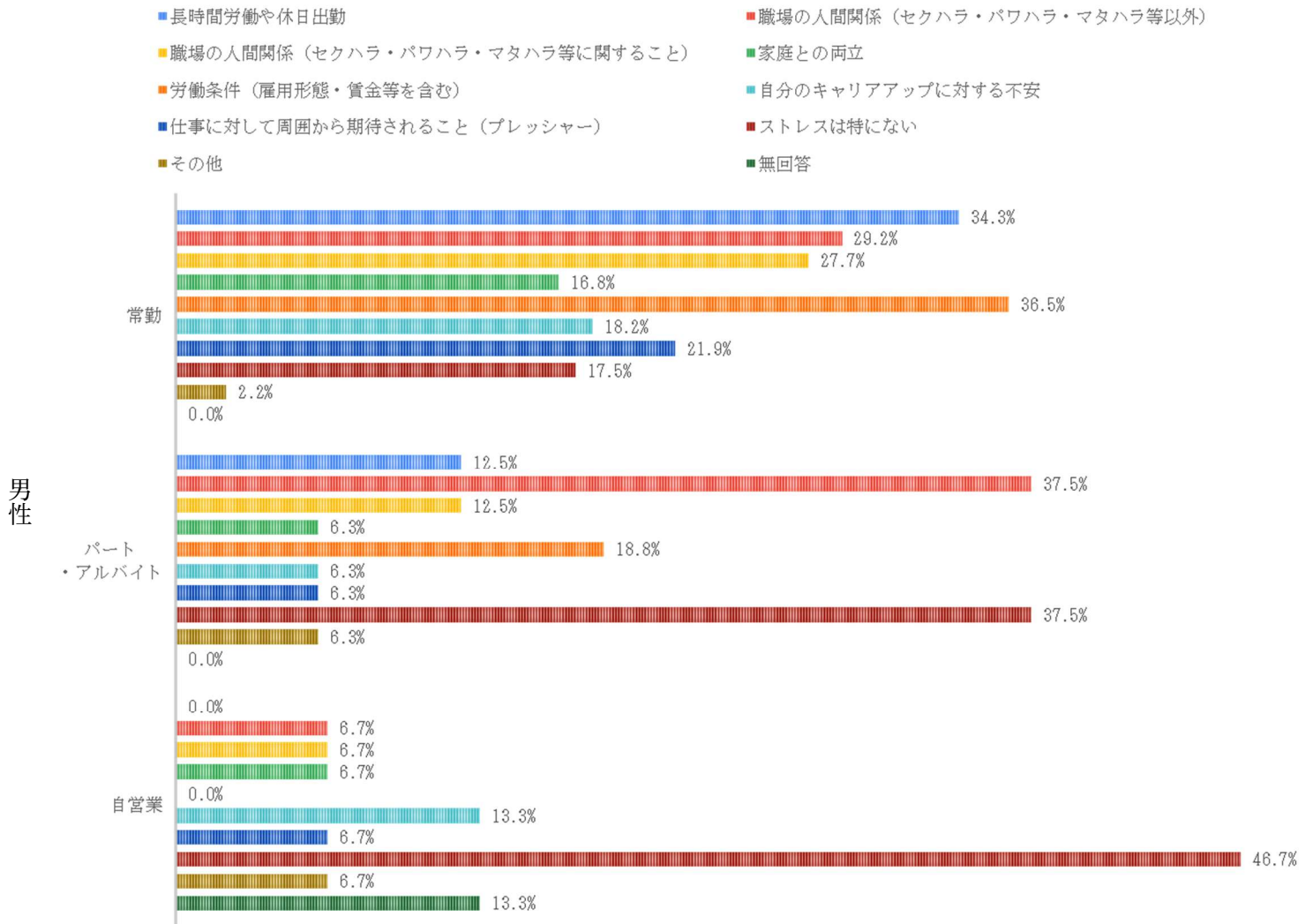


※「セクハラ」とは、セクシュアルハラスメントの略で、職場などで、相手の意思に反して不快や不安な状態に追い込む性的・差別的な言動のこと。

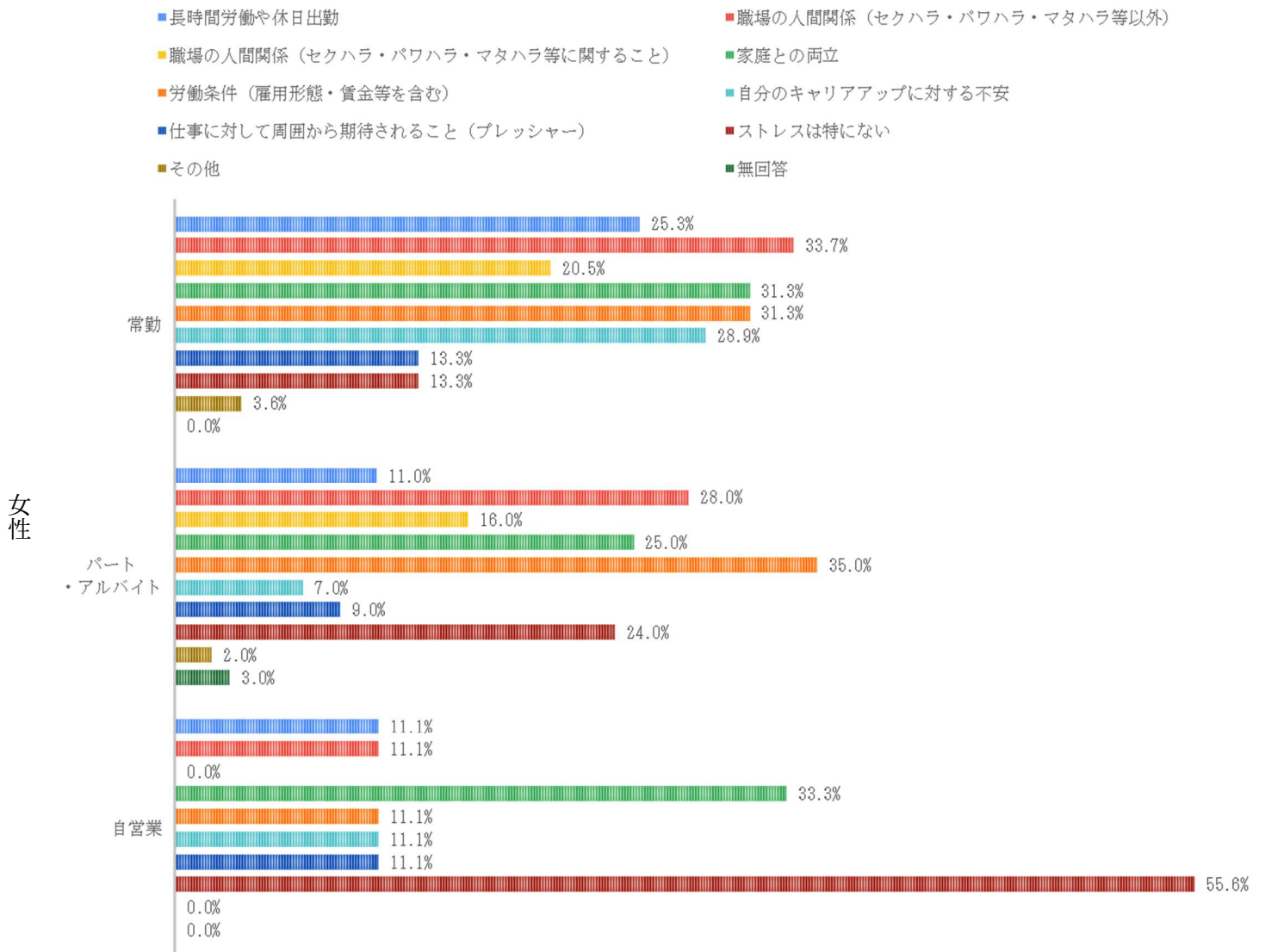
※「パワハラ」とは、パワーハラスメントの略で、仕事上の上下関係や権利関係を不当に利用することにより、繰り返し精神的・身体的苦痛を与え、結果として同じ職場で働く人の人権や尊厳を侵害する言動のこと。

※「マタハラ」とは、マタニティハラスメントの略で、働く女性が、妊娠・出産・育児などを理由として、解雇や降格、自主退職を強要されるなど、職場で精神的・身体的苦痛を受けたり、不利益を受けたりする言動のこと。

■職場のストレスに関する男性の職業別構成比 (n = 78)



■職場のストレスに関する女性の職業別構成比 (n = 129)



その他の主な意見

- ・有休などが実際には使えないこと (女性・20歳代)
- ・ユーザー、取引先に振り回されること (男性・50歳代)
- ・サービス残業させられること (女性・40歳代)
- ・上司がパワハラを理解していない。自覚がないこと (女性・50歳代)
- ・結婚・出産で社員をやめて10年以上のブランクの後にパートとして復職したので、色々とその間に仕組みが変わっていて、キャリアがゼロに等しいこと (女性・40歳代)
- ・前職の派遣会社に転職妨害され正社員になれないこと (男性・50歳代)
- ・親や子供の病気で通院のために急な休みをもらうとき色々言われること (女性・40歳代)
- ・転勤があること (男性・30歳代)

■職場のストレスに関する男女別×職業別構成比

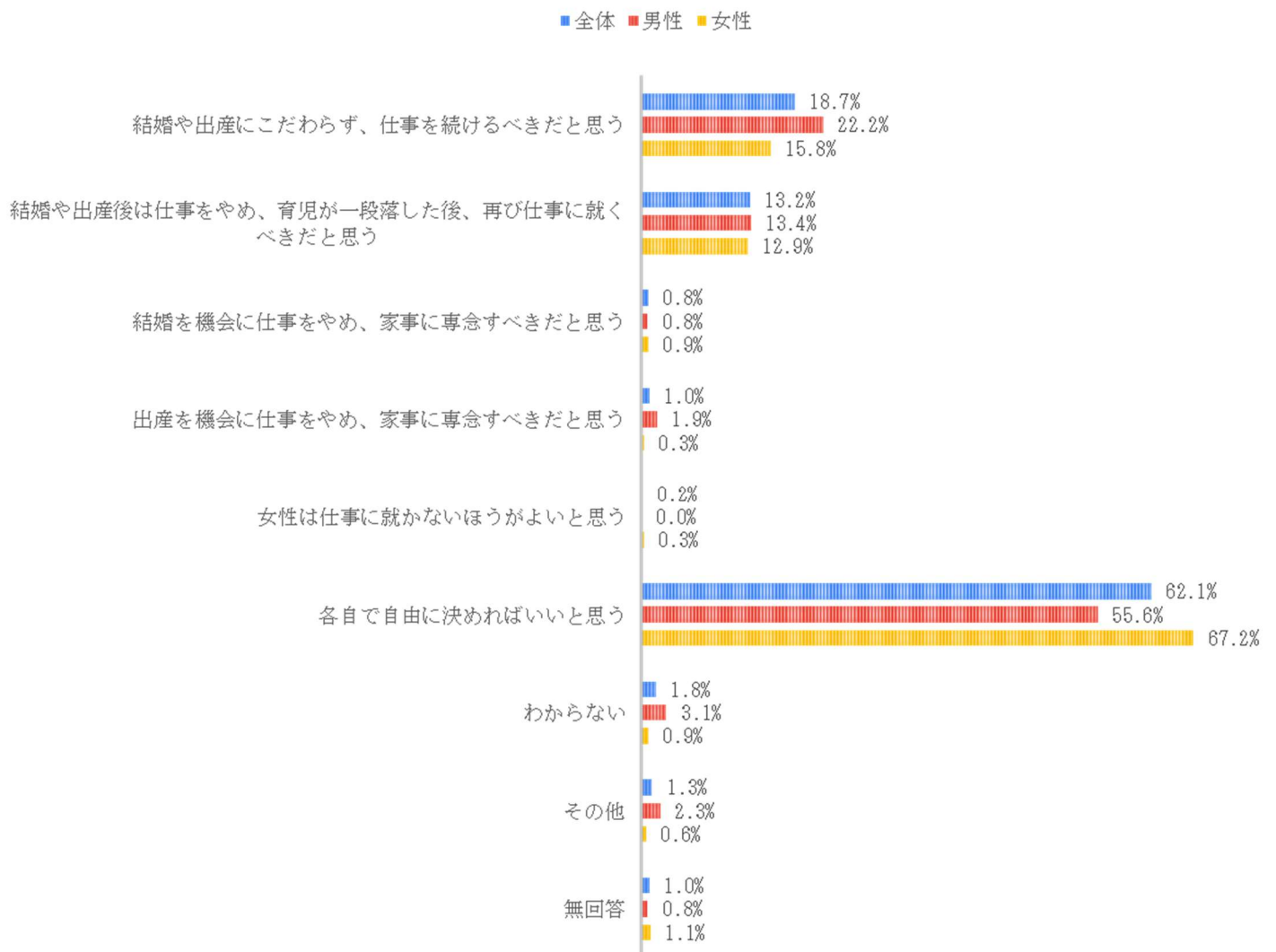
男性、女性とも常勤は、「長時間労働や休日出勤」、「職場の人間関係（セクハラ・パワハラ・マタハラ等以外）」「労働条件（雇用形態・賃金等を含む）」と答えた方の割合が高い傾向にあります。また、女性の常勤は男性の常勤よりも「家庭との両立」と答えた方が8.7ポイント高くなっています。

男性のパート・アルバイトは「職場の人間関係（セクハラ・パワハラ・マタハラ等以外）」、「ストレスは特にない」と答えた方の割合が高く、女性のパート・アルバイトは「家庭との両立」、「職場の人間関係（セクハラ・パワハラ・マタハラ等以外）」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

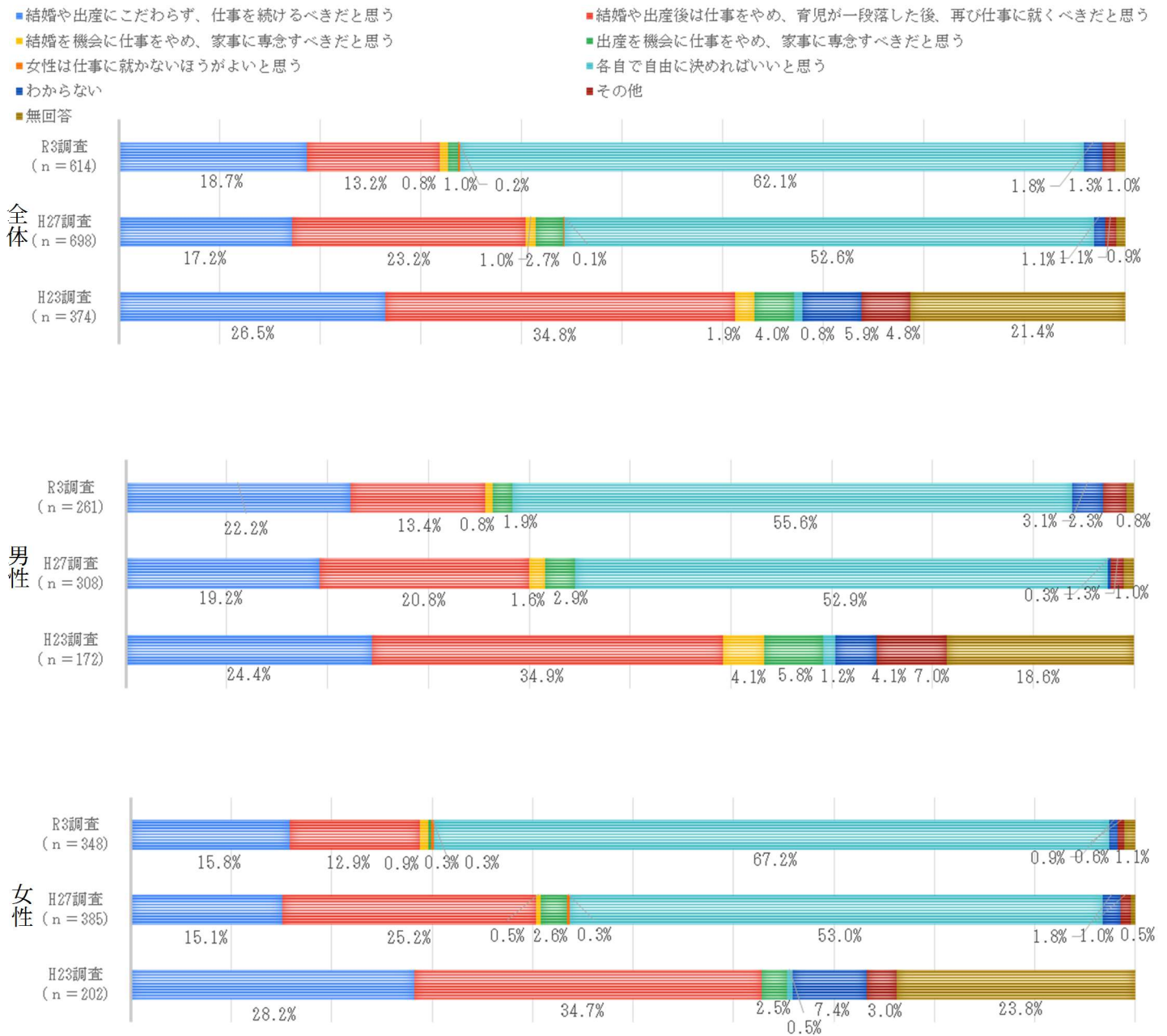
また、男性、女性とも自営業は「ストレスは特にない」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

問 16 あなたは、女性の仕事と家庭の関わりについて、どうあるべきだと思いますか。

■女性の仕事と家庭の関わりについての男女別構成比



■女性の仕事と家庭の関わりについての年度別調査結果比較



その他の主な意見

- ・出産後は協力者を得ながら各自でやりやすいように仕事、育児、家事をしていく (女性・60歳代)
- ・夫や家族とよく話し合い、周囲、専門家、経験者から適切なアドバイスを得てやれることから始める (男性・70歳代以上)
- ・育児と教育は同じものと思います。国が全教育終了まで子どもに責任を持つ (女性・無回答)
- ・結婚や出産後に仕事を辞めると再就職の時に個人のスキルを活かした仕事に就けない現状があると感じる (男性・30歳代)
- ・企業と本人とパートナーで決める (男性・40歳代)
- ・自由に選択できれば良い (男性・40歳代)
- ・育児や出産後も仕事を辞めずに男性も休暇を取るべきだと思う (男性・50歳代)

■女性の仕事と家庭の関わりについての男女別構成比

最も多い回答は、全体、男性、女性とも「各自で自由に決めれば良いと思う」となっており、半数以上の割合を占めています。次に「結婚や出産にこだわらず、仕事を続けるべきだと思う」、「結婚や出産後は仕事をやめ、育児が一段落した後、再び仕事に就くべきだと思う」の回答割合が多くなっています。

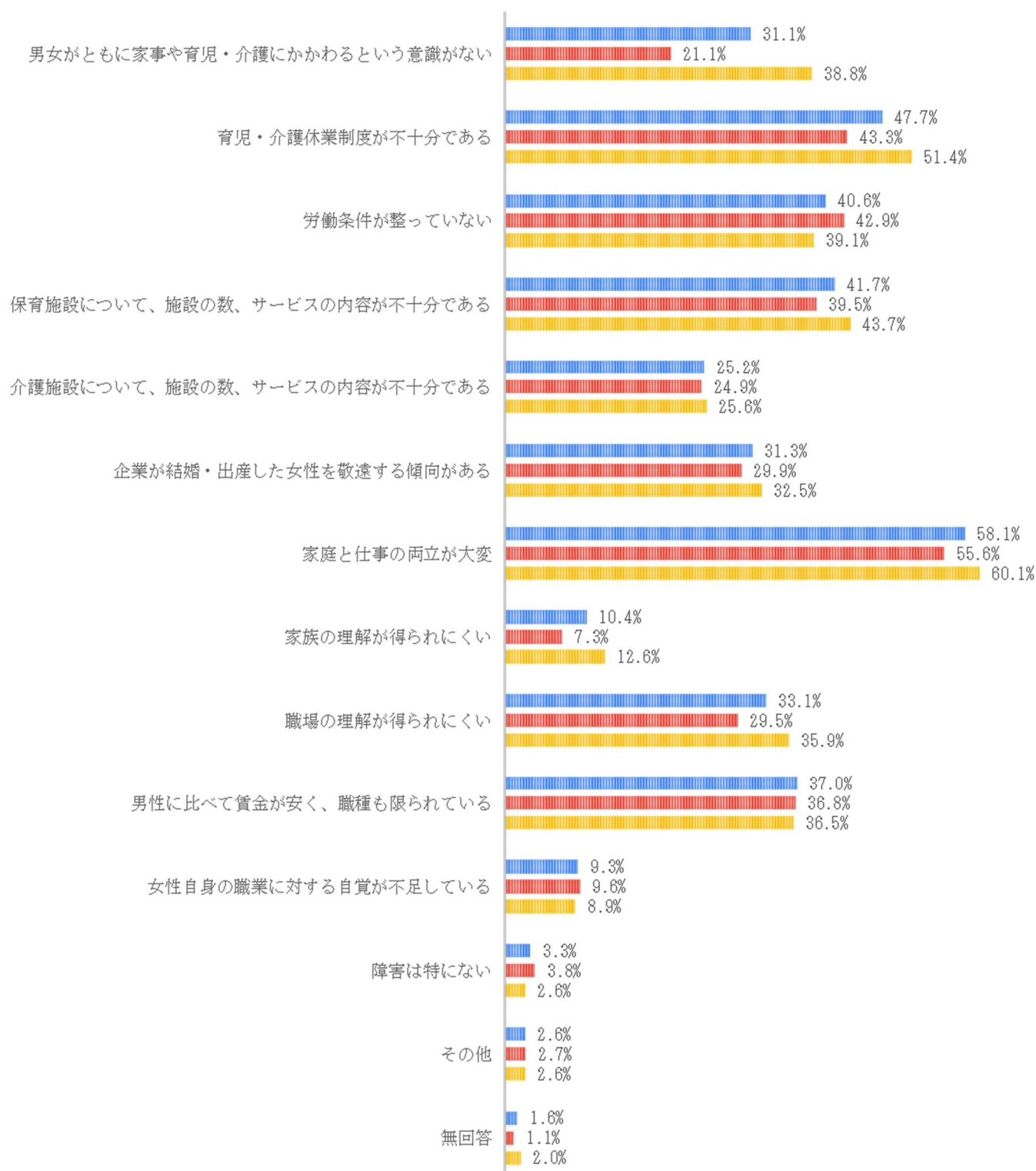
■女性の仕事と家庭の関わりについての年度別調査結果比較

令和3年度調査と平成27年度、平成23年度調査を比較すると全体、男性、女性とも「各自で自由に決めれば良いと思う」と答える割合が更に増えており、「結婚や出産後は仕事をやめ、育児が一段落した後、再び仕事に就くべきだと思う」と答える割合が減少しています。

問 17 あなたは、女性が仕事を続けていく上で、障害になると思われることはどれですか。

■女性が仕事を続けていく上での障害についての男女別構成比（複数回答）

■全体 ■男性 ■女性



その他の主な意見

職場の問題

- ・働くイコールでお金がかかる（保育料等）なのに、女性はパート（安月給）の考えが一般的であり、社員で働きたくても子供がいると企業の見方が変わる（女性・20歳代）
- ・産後、子の熱がでた時等、母親が迎えに行くことがほとんどで、職場内の肩身がせまい（女性・30歳代）
- ・人間関係が悪い、上司、仲間がいじわる（女性・60歳代）
- ・男女ともに子育て中の転勤は家庭と仕事のどちらかを選択しろと言われているようなものと感じる。特に現状では女性が仕事をやめて一緒に引っ越すか、男性が単身赴任することが多いように思います（女性・50歳代）
- ・企業の経営層、上司や同僚の意識（女性・50歳代）
- ・育児休業から復帰後のキャリア形成がほとんどの方が絶望的ということ（男性・30歳代）
- ・育児のために長期休暇を取ると職場と疎遠になってしまい不安を感じる（男性・50歳代）

国・市等の制度等の問題

- ・保育施設の数、保育サービスが不十分なので自身の時間調整が難しいと思います。仕事をしていても何かしあれば呼ばれる。仕事に集中できない。他の人に任せようにも他の人にも家族がいて時間に限りがある。あと金銭的問題もある（女性・40歳代）
- ・病児保育の普及率の低さ（女性・50歳代）
- ・男性が育休を取得する等の定着を図るための教育、制度の運用についてのフォローを国等が推進すべき。男女というか、総合職等、メインで収入を得る人は仕事を休みづらい（男性・30歳代）
- ・パート勤務をしている女性が多いが、一定金額の所得になると扶養から外れたり、税金の控除が受けられず不利益を被っている。働きたいのに働けない女性が多い（男性・40歳代）

家庭の問題

- ・出産する時に仕事を家族（両親、夫）にやめさせられた（女性・40歳代）

その他

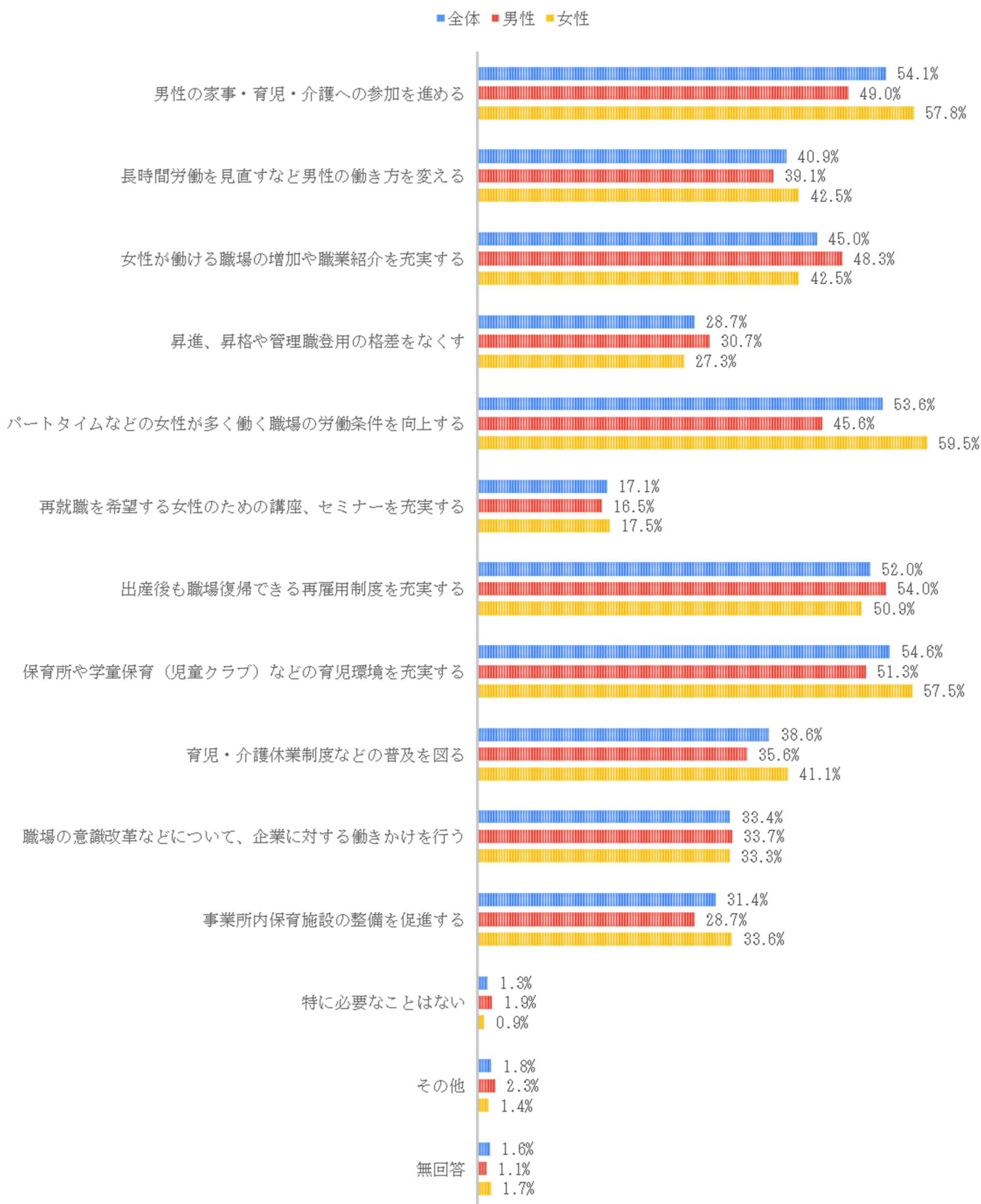
- ・出産と子育て（特に前者は女性にしかできない）（男性・60歳代）
- ・「女性自身の職業に対する自覚が不足している」のような選択肢が列挙されていることに少し違和感があります（女性・30歳代）

■女性が仕事を続けていく上での障害についての男女別構成比

最も多い回答は、全体、男性、女性とも「家庭と仕事の両立が大変」となっており、いずれも回答が50%を超えています。次いで「育児・介護休業制度が不十分である」、「保育施設について、施設の数、サービスの内容が不十分である」、「労働条件が整っていない」の回答割合が高くなっています。また男女間の回答で差が大きい項目は、「男女がともに家事や育児、介護にかかわるという意識がない」で男性が21.1%に対して女性が38.8%となっており、女性の方が17.7ポイント高くなっています。

問 18 あなたは、これから女性が働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

■女性が働きやすい環境をつくることについての男女別構成比（複数回答）



その他の主な意見

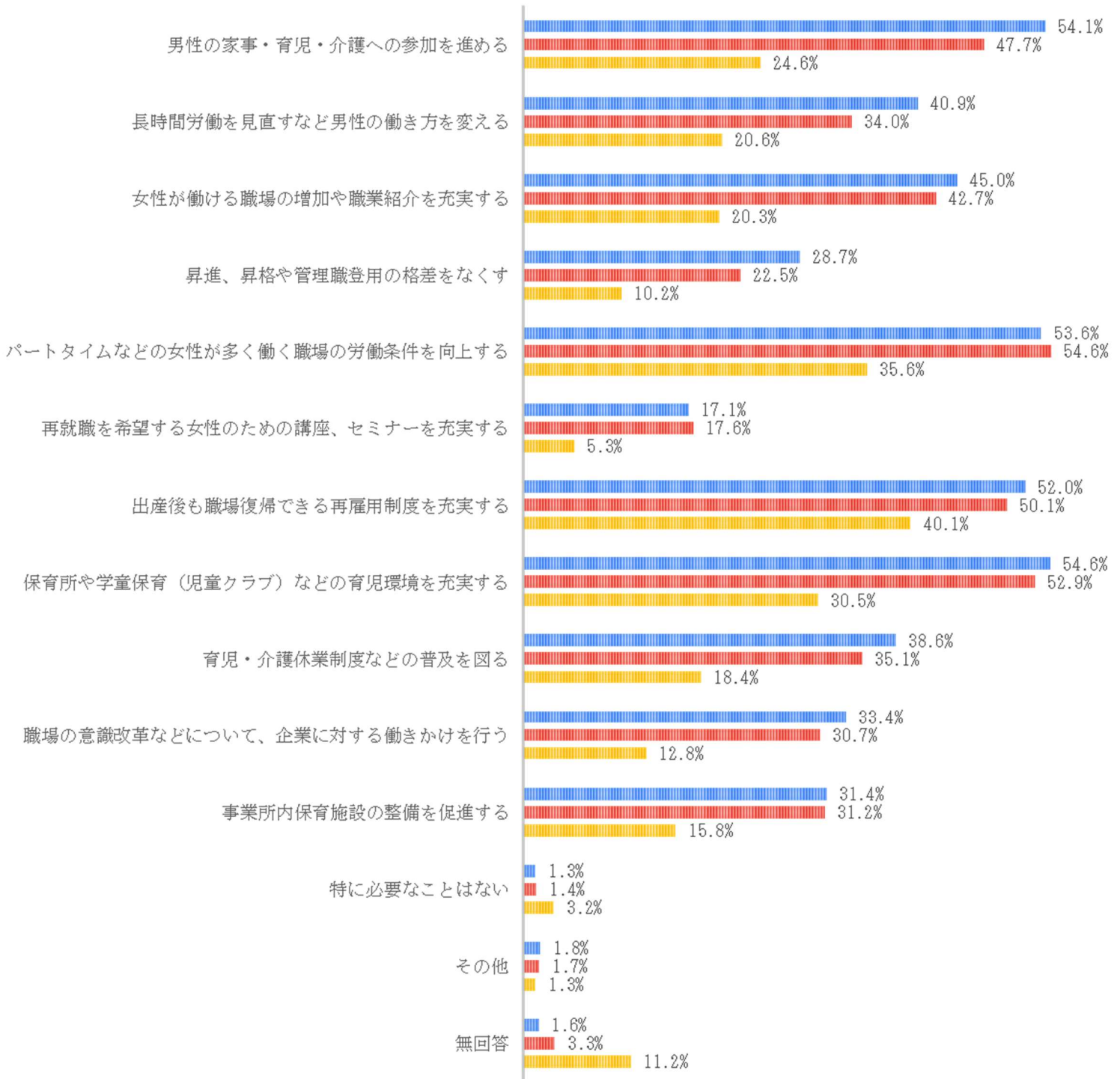
- ・古い体制、仕事内容で下の者の意見が反映されない、人間関係、上司が中立でない (女性・60歳代)
- ・税金等の見直し (男性・30歳代)
- ・女性自身の仕事と家事・育児を両立するための意識の向上 (女性・40歳代)
- ・国、地方自治体が積極的に対策を行う (男性・70歳代以上)
- ・男女ともに長時間労働（休日出勤）がなくなればいい (女性・30歳代)
- ・再就職を希望する女性のための講座や保育所等の環境整備等を実施しつつ、実際は本人の希望を尊重する。(全員がバリバリ働きたい訳はないと思うので) (男性・30歳代)
- ・子育てに協力的な施設を多くする (女性・30歳代)
- ・パートタイマーの社会保障補償制度の見直し (男性・40歳代)
- ・女性自身の意識が1番の問題だと思う。結婚したら仕事やめようという考えの女性が過半数を超える、事業者は従業員を守るためどうしても辞める前提の人を雇用出来ない (男性・40歳代)

■女性が働きやすい環境をつくることについての男女別構成比

全体で多い回答は、「保育所や学童保育（児童クラブ）などの育児環境を充実させる」で、次いで「男性の家事・育児・介護への参加を進める」、「パートタイムなどの女性が多く働く職場の労働条件を向上する」、「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する」の回答割合が高くなっています。また、男性と女性の回答の差が大きかったのは「パートタイムなどの女性が多く働く職場の労働条件を向上する」で男性 45.6%、女性 59.5%となっており、女性の方が 13.9 ポイント高くなっています。

■女性が働きやすい環境をつくることについての年度別調査結果比較

■令和3年度調査 ■平成27年度調査 ■平成23年度調査



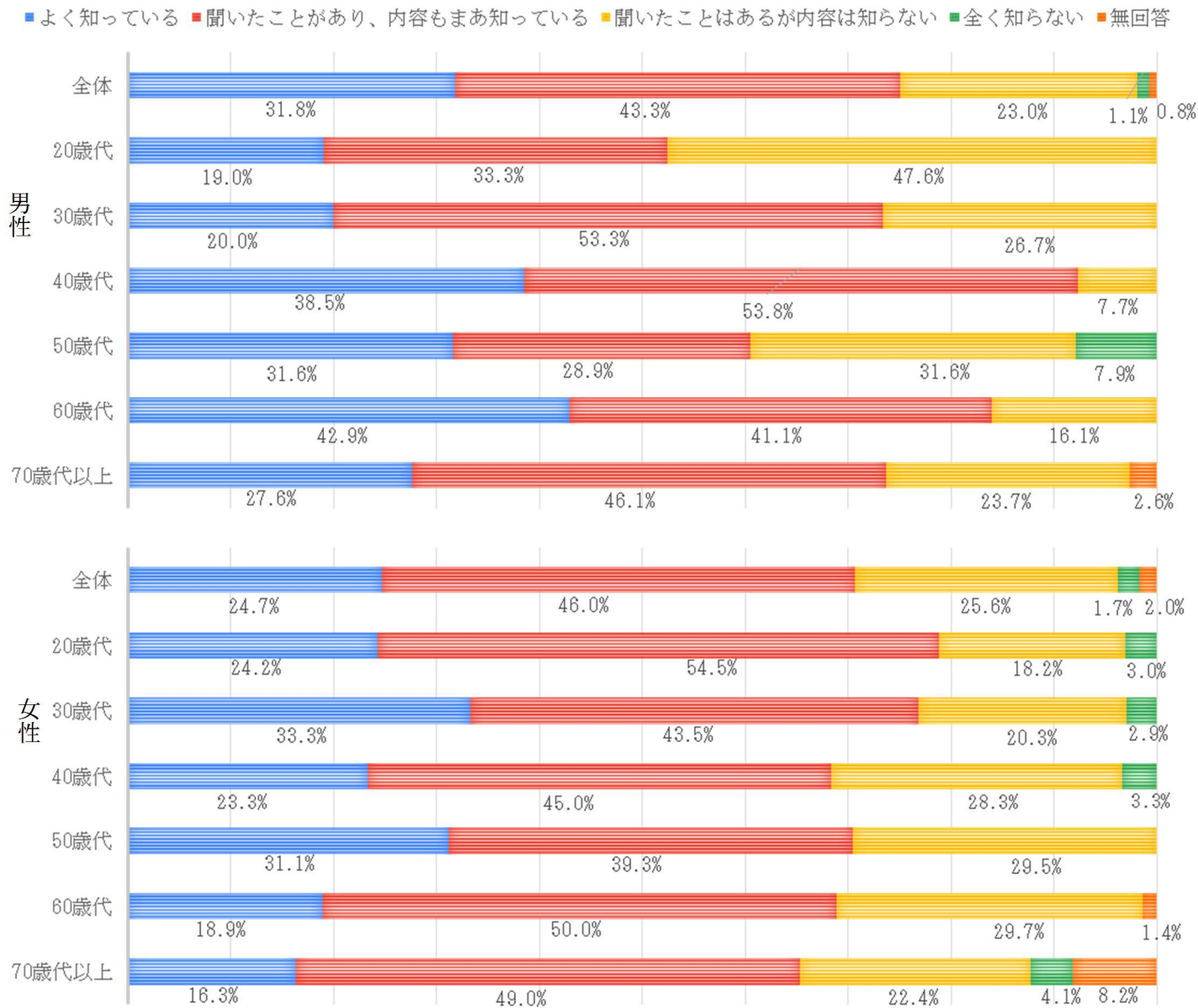
■女性が働きやすい環境をつくることについての年度別調査結果比較

令和3年度、平成27年度、平成23年度のそれぞれ調査を比較すると平成23年度から令和3年度にかけて「男性の家事・育児・介護への参加を進める」、「長時間労働を見直すなど男性の働き方を変える」、「女性が働ける職場の増加や職業紹介を充実する」、「昇進、昇格や管理職登用の格差をなくす」、「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する」、「保育所や学童保育（児童クラブ）などの育児環境を充実させる」、「育児・介護休業制度などの普及を図る」、「職場の意識改革などについて、企業に対する働きかけを行う」、「事業所内保育施設の整備を促進する」と回答した方が増加しています。

(4) 育児休業制度について

問 19 育児休業制度について知っていますか

■ 育児休業制度の認知度についての男女別×年齢別の構成比



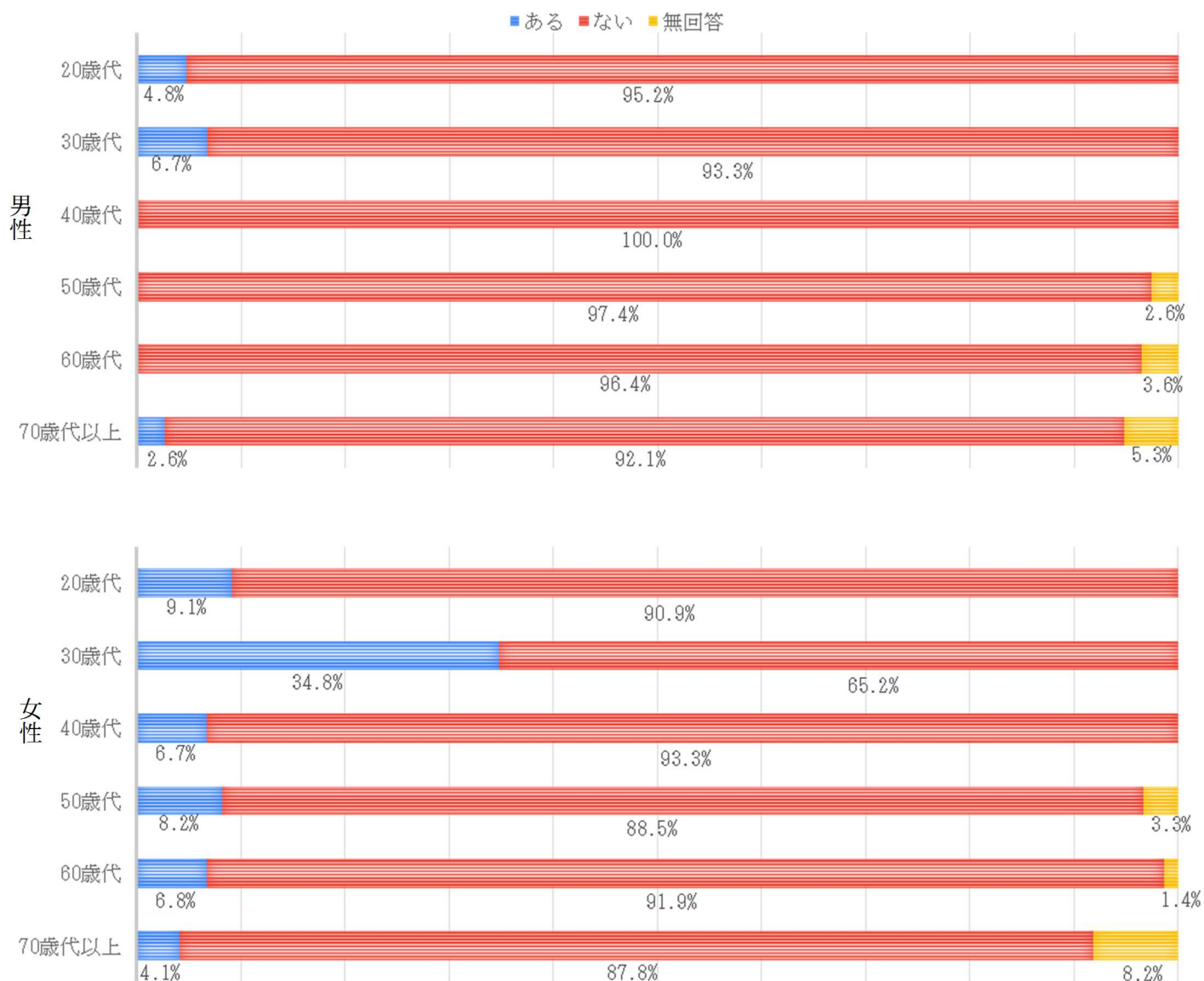
■ 育児休業制度の認知度についての男女別×年齢別の構成比

男女ともすべての年代で「よく知っている」及び「聞いたことがあり、内容もまあ知っている」の比率が半数を超えています。

一方で20歳代の男性のうち「聞いたことがあるが、内容は知らない」と回答している割合が47.6%と高い割合になっています。

問 20 あなたは、育児休業制度を利用したことがありますか。

■育児休業制度の利用についての男女別×年齢別の構成比



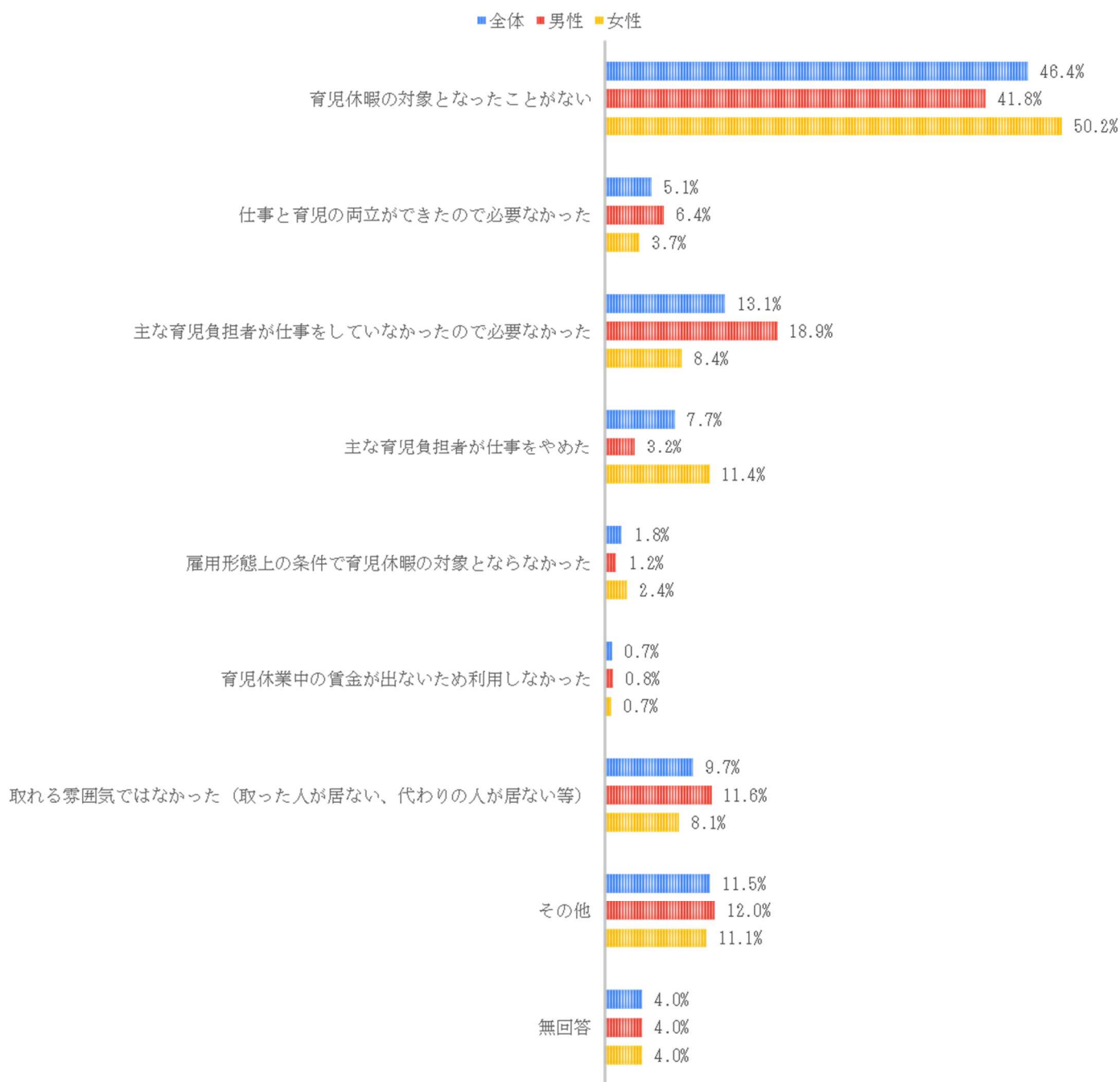
■育児休業制度の利用についての男女別×年齢別の構成比

男性の40歳代から60歳代の方で育児休業制度を利用したことがあると答えた方はいませんでした。女性も30歳代で育児休業制度を利用したことがあると回答した方が34.8%いましたが、20歳代、40歳代から70歳代以上の女性の育児休業制度の利用は10%未満と低くなっています。

問 21 (問 20 で「ない」を選んだ方にうかがいます。)

あなたが育児休業制度を利用しなかった主な理由は何ですか。

■ 育児休業制度を利用しなかった理由について男女別の構成比



その他主な意見

専業主婦だったから	(女性・60歳代)
自営業だった	(男性・70歳代以上)
出産を機に退職したため	(女性・30歳代)
忙しく大変であったから育児休業を取らずに退職した	(女性・60歳代)
育児休業をとれるのを知らなかった	(女性・30歳代)
つわりが酷く、やめてしまった	(女性・20歳代)
育児休業制度が会社に導入されていなかった	(男性・60歳代)
昔は育児休業がなく、仕事を辞めるしかなかった	(女性・60歳代)
私の育児時代は妻の専業主婦主体であったから	(男性・60歳代)
妊娠発覚と職場内異動命令が同時期になり、異動先の勤務体制が妊娠だと難しいと言われ退職を余儀なくされた	(女性・30歳代)
妻が取得したため	(男性・30歳代)

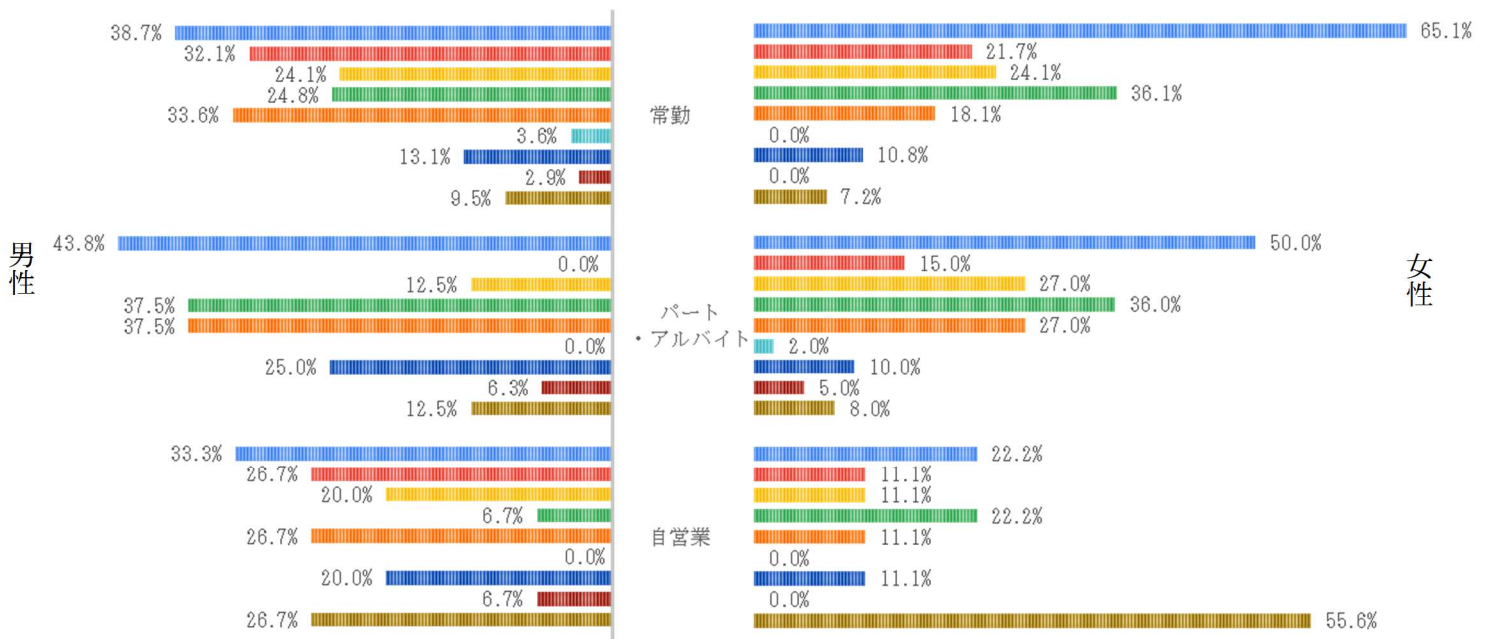
■育児休業制度を利用しなかった理由について男女別の構成比

全体、男性、女性の回答とも「育児休暇の対象となることがない」の割合が高くなっています。次に「主な育児負担者が仕事をしていなかったのが必要なかった」が多くなっています。また、男女別で特徴的な回答としては、男性の11.6%が「取れる雰囲気ではなかった（取った人が居ない、代わりの人が居ない等）」、女性の11.4%が「主な育児負担者が仕事をやめた」と回答しています。

問 22 (現在、勤めている方(非常勤・パート・アルバイト等を含む)にうかがいます。)
 育児を要する家族がいる場合、育児休業の取得について、どのようにしたいと考えていますか。

■ 育児休業取得の希望について男女別×職業別の構成比(複数回答)

- 育児休業を取得したい
- 仕事をなるべく休まずに、短時間勤務や時差出勤などで対応したい
- 自分と家族で助け合って対応したい
- 特に考えてはいない
- 無回答
- 有給休暇などを取得して対応したい
- 保育所などの施設や第三者による託児サービスなどを利用したい
- 家族に任せたい
- その他



その他の主な意見

- ・子育ては国にとっても大切な仕事。いずれ大人になり政治（選挙）にも関わる人材なのだから子育て期間は国も何らかのかたちで関わる方がよいと思う（良い子育てが出来るように）
(女性・60歳代)
- ・第三者による託児サービスだけに頼らず家族で見ることが出来る場合はなるべく自宅保育を心掛けたい
(女性・20歳代)
- ・育児休業を取得しても、一緒に働いている人に負担がいかないようにしてほしい、お互いに不満が出ると思う
(女性・60歳代)
- ・「育児休業を取得する」、「仕事を休まずに、短時間勤務や時差出勤などで対応したい」、「家族に任せたい」の3つについてバランス良く対応したい
(男性・30歳代)

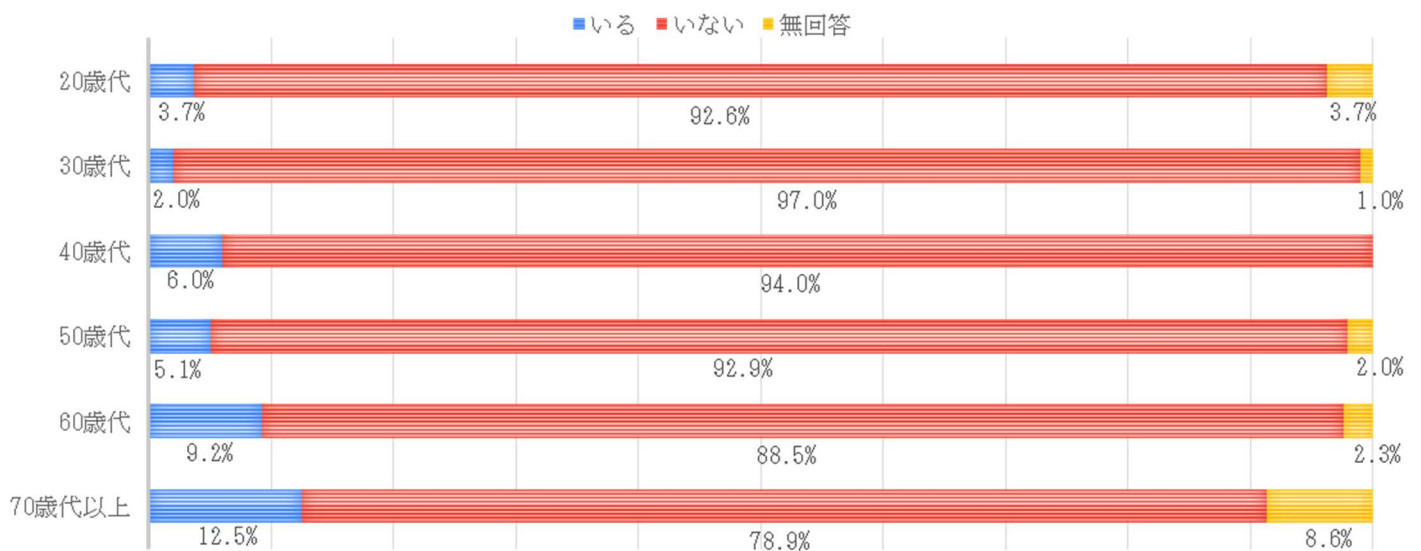
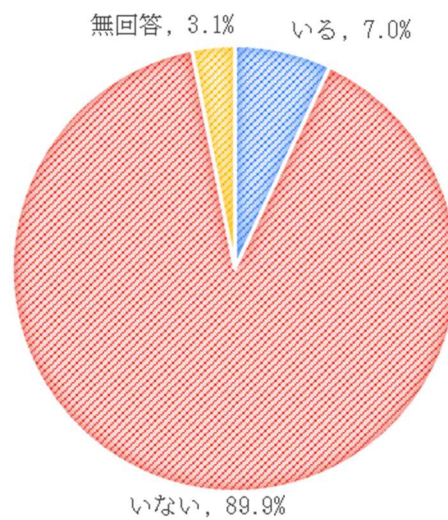
■育児休業取得の希望について男女別×職業別の構成比

常勤、パート・アルバイト、自営業の男女とも「育児休業を取得したい」の割合が高くなっています。「育児休業を取得したい」以外では、職業に関わらず男性は「自分と家族で助け合って対応したい」、女性は「保育所などの施設や第三者による託児サービスなどを利用したい」の割合が高くなっています。

(5) 介護について

問 23 あなたと同居している家族の中に、介護を受けている人はいますか。

■同居している家族の中に介護を受けている人の全体の割合



■同居している家族の中に介護を受けている人の全体の割合

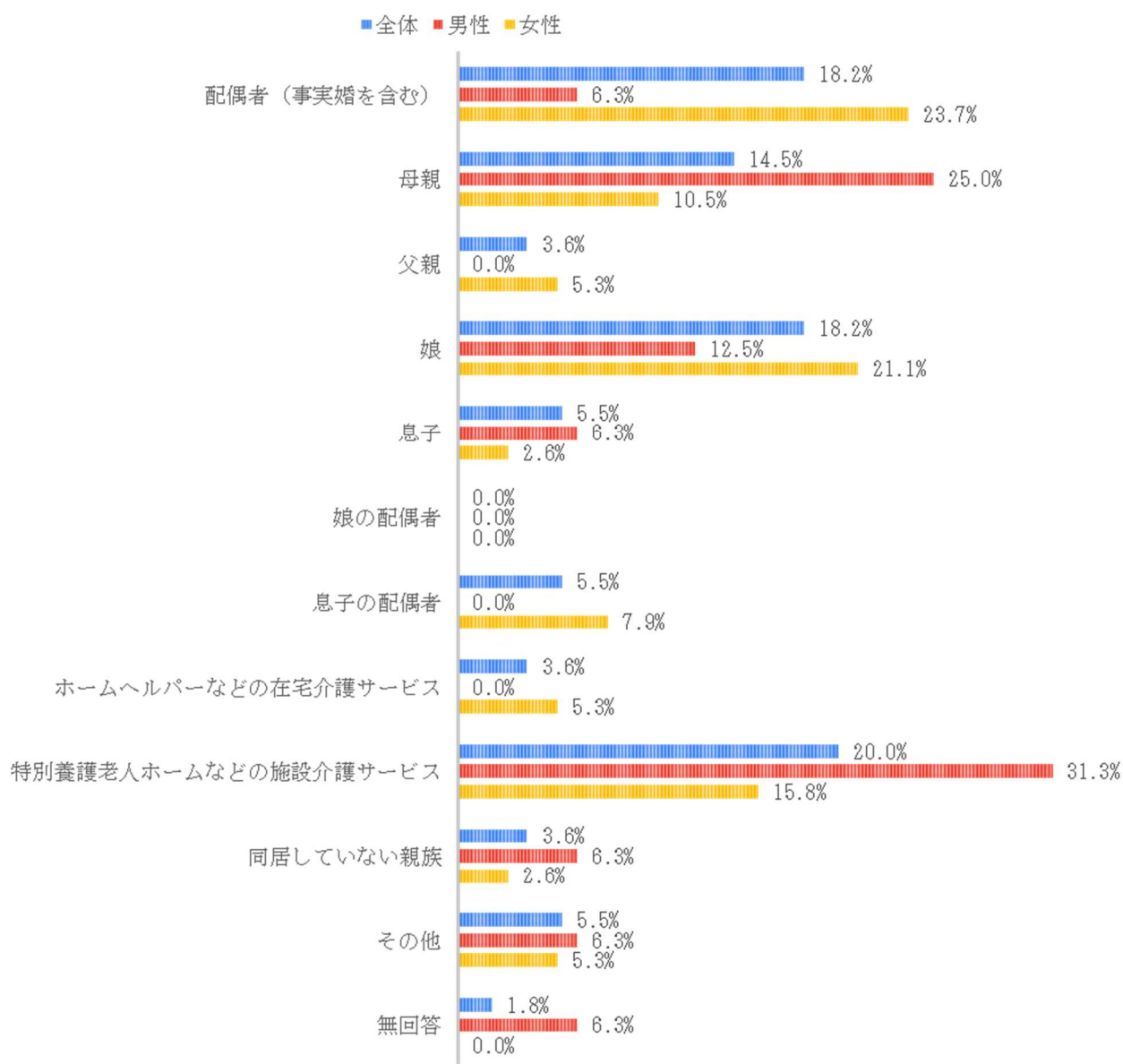
全体の回答としては、「いる」7.0%、「いない」89.9%となっています。

年齢別で「いる」と回答した年代は40歳代以上に多く、70歳代以上は最多の12.5%となっています。

問 24 (問 23 で「いる」と答えた方にうかがいます。)

介護を受けているからみて、主に介護を担っている人は、どなたですか。

■主に介護を担っている人の男女別構成比 (複数回答)



その他の主な意見

- ・施設の通所、ショートステイ (女性・60歳代)
- ・孫、ひ孫 (女性・30歳代)
- ・入院中 (男性・70歳代以上)

■主に介護を担っている人の男女別構成比

全体回答は「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」、「配偶者 (事実婚を含む)」、「娘」の順に多く、男性の回答は「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」、「母親」、「娘」の順に多い結果となりました。また、女性の回答では「配偶者 (事実婚を含む)」、「娘」、「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」の順に多くなっています。

問 25 あなたは、介護休業制度を知っていますか。

■介護休業制度の認知度についての年齢別の構成比

■よく知っている ■聞いたことがあり、内容もまあ知っている ■聞いたことはあるが内容は知らない ■全く知らない ■無回答



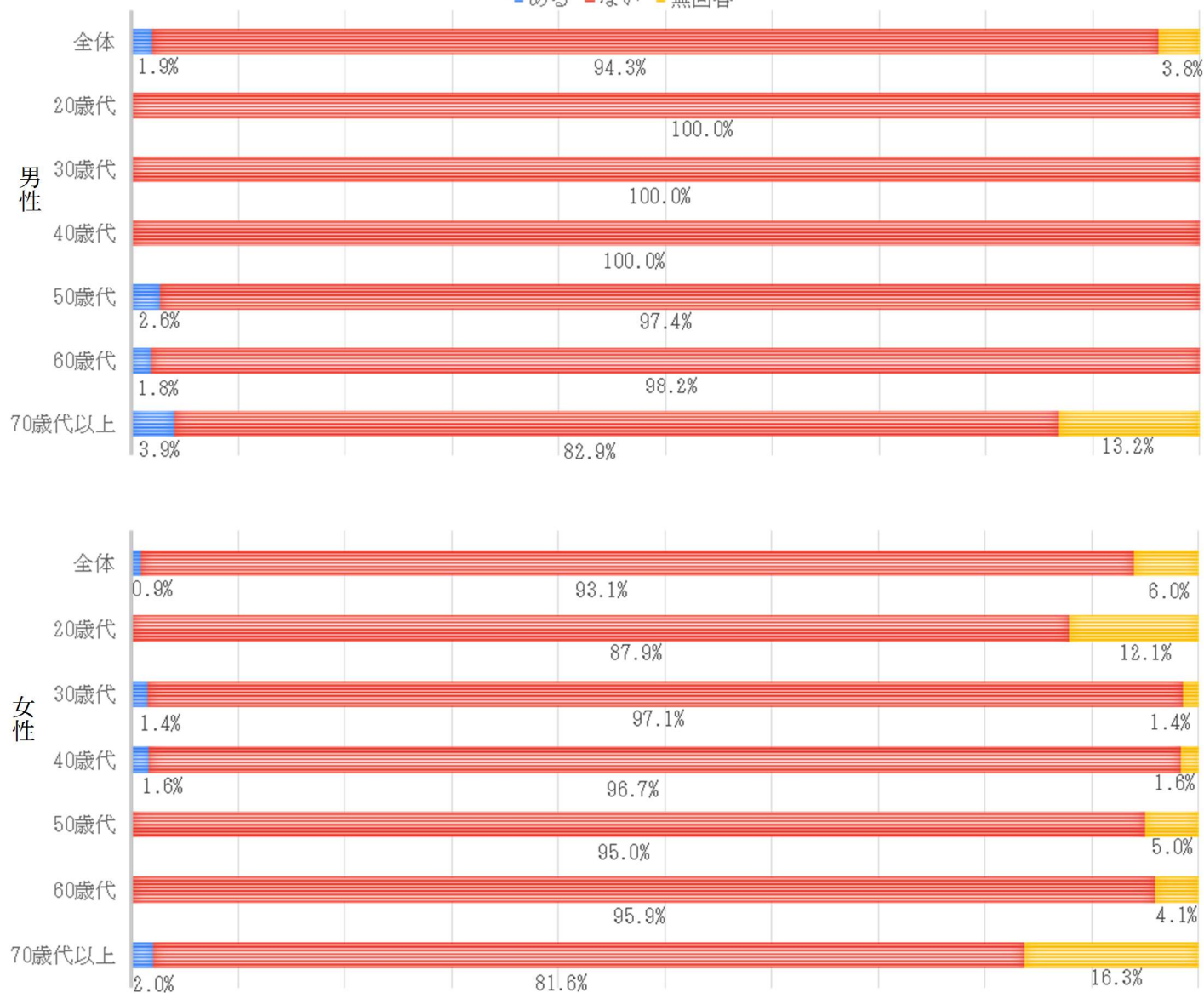
■介護休業制度の認知度についての年齢別の構成比

全体回答、各年代の回答とも「聞いたことはあるが内容は知らない」が一番多い結果になりました。また、年齢別に見ると、「よく知っている」、「聞いたことがあり、内容もまあ知っている」と回答した割合の多い順番は40歳代、30歳代、60歳代、50歳代、70歳以上であり、20歳代については全体の20%程度が「よく知っている」、「聞いたことがあり、内容もまあ知っている」と回答し、低い水準となっています。

問 26 あなたは、介護休業制度を利用したことがありますか。

■介護休業制度の利用についての男女別×年齢別の構成比

■ある ■ない ■無回答



■介護休業制度の利用についての男女別×年齢別の構成比

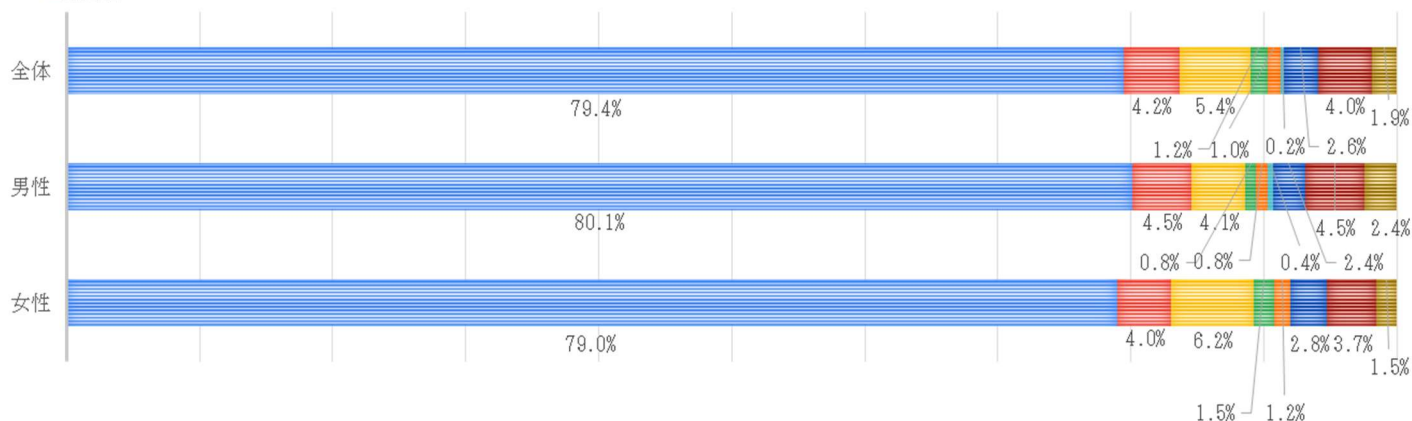
男性の1.9%、女性の0.9%が介護休業制度を利用したと回答していますが、ほとんどの方が介護休業制度を利用していない状況にあります。

問 27 (問 26 で「ない」を選んだ方にうかがいます。)

あなたが介護休業制度を利用しなかった主な理由は何ですか。

■介護休業制度を利用しなかった理由についての男女別の構成比

- 介護を必要とする家族がない
- 主な介護負担者が仕事をしていなかったため必要なかった
- 介護認定や雇用形態上の条件で対象とならなかった
- 取れる雰囲気ではなかった(取った人が居ない、代わりの人が居ない等)
- 無回答
- 仕事と介護の両立ができたので必要なかった
- 主な介護負担者が仕事をやめた
- 介護休業中の賃金が出ないため利用しなかった
- その他



その他の主な意見

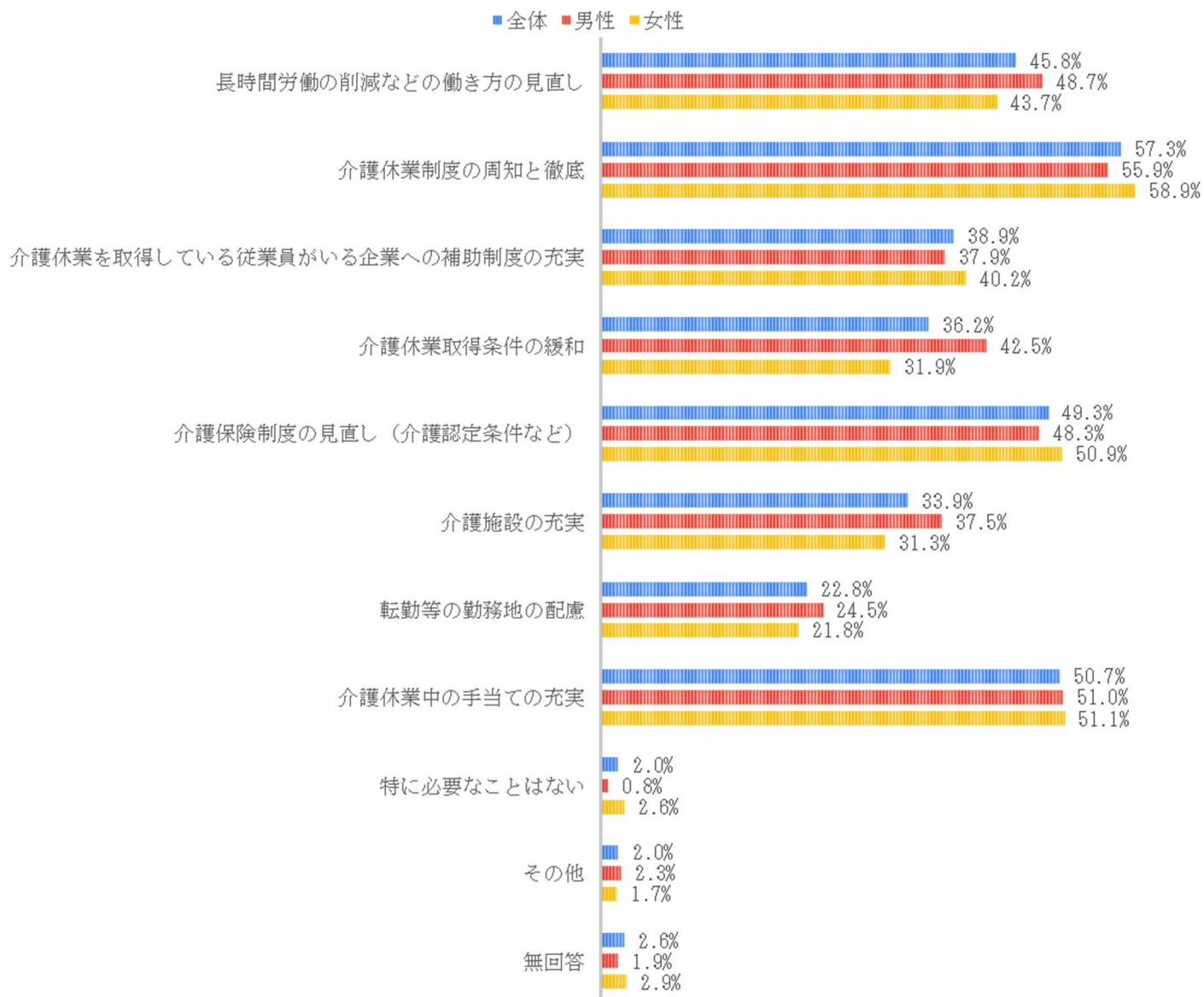
- ・ 要介護者がいた時には介護休業制度がなかった (男性・60歳代)
- ・ 介護休業を取ると現在の賃金がもらえなくなるから (女性・60歳代)
- ・ 自営業で介護休業を取る必要がなかった (男性・50歳代)
- ・ 家族が介護を必要とするようになったのが直近のため、まだ制度を利用していない (女性・50歳代)
- ・ 平日は仕事をしていない妻が介護、休日は夫と2人で介護。後にケアセンターに親が入れたのでとても助かりました (女性・60歳代)
- ・ 兄たちが介護してくれたから (男性・60歳代)
- ・ 知らなかった為 (男性・50歳代)
- ・ 主な介護負担者が仕事と介護を両立していた (女性・40歳代)

■介護休業制度を利用しなかった理由についての男女別の構成比

全体、男性、女性とも「介護を必要とする家族がない」の割合が一番高くなっています。「介護を必要とする家族がない」以外の回答では、男性は「仕事と介護の両立ができたので必要なかった」が4.5%、女性は「主な介護負担者が仕事をしていなかったため必要なかった」が6.2%と高い割合になっています。

問 28 あなたは、介護と仕事を両立するために、どのようなことが必要だと思いますか。

■介護と仕事を両立するために必要なことの割合（複数回答）



その他の主な意見

- ・賃金の向上、補助金など (男性・50歳代)
- ・各事業所での人員確保など (男性・30歳代)
- ・家での介護は大変。施設を利用できるようにした方がいい (女性・60歳代)
- ・育休と比較して補助が不足していると感じる。(社保の免除等) (男性・30歳代)
- ・営業職はノルマを達成しなければならず休めない(休みづらい) 介護期間中は時短で事務職等の負担の少ない部門で働ける様にする等、工夫が必要 (男性・30歳代)
- ・介護と仕事の両立は難しい。人が働かなくて良い社会にする (男性・40歳代)

■介護と仕事を両立するために必要なことの割合

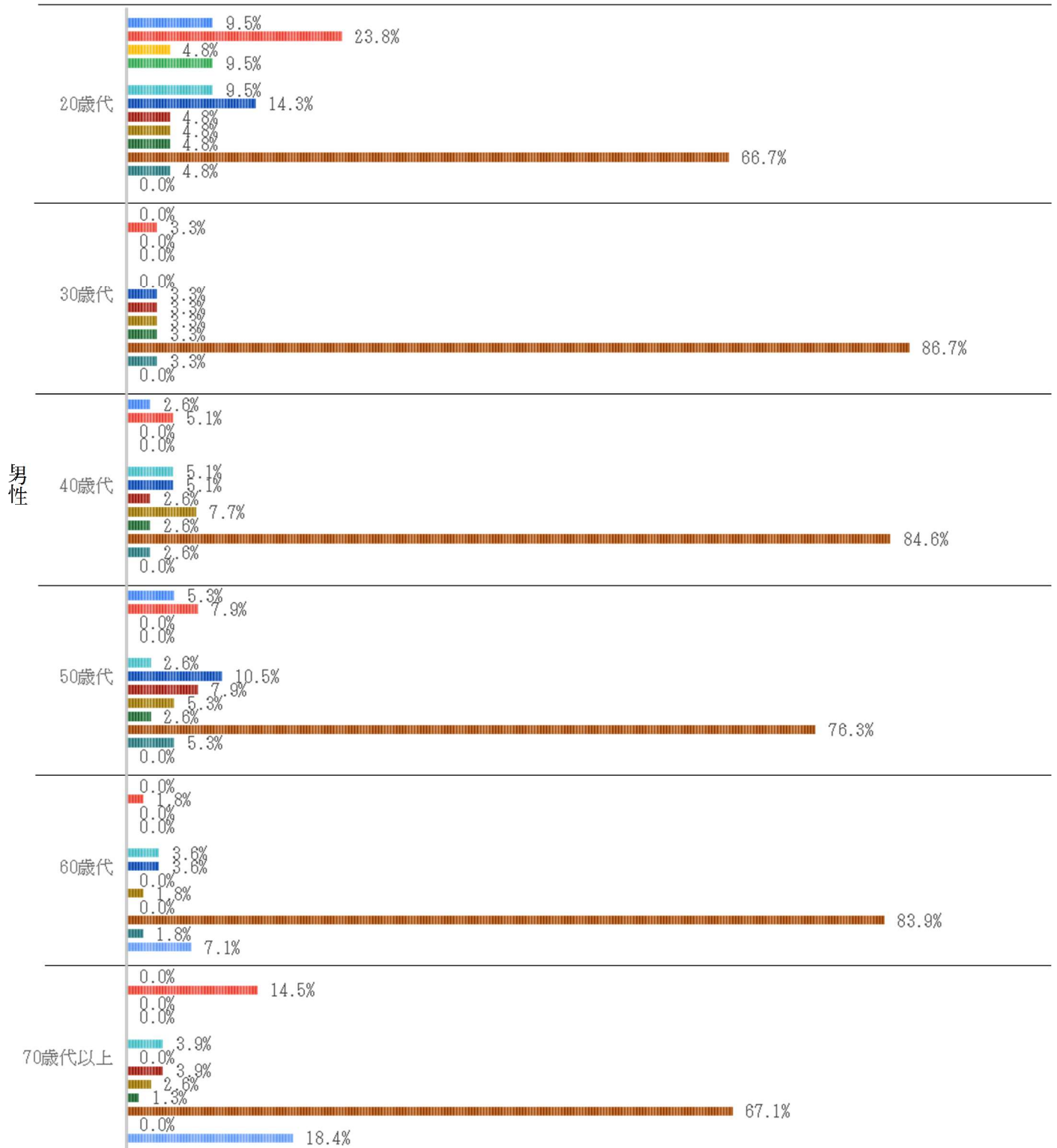
全体回答で多いものは「介護休業制度の周知と徹底」、「介護休業中の手当の充実」、「介護保険制度の見直し(介護認定条件など)」、「長時間労働の削減などの働き方の見直し」の順になっています。男性と女性の回答で差が大きいものは「介護休業取得条件の緩和」で男性の回答率が女性の回答率よりも10.6ポイント上回っています。

(6) パートナーからの暴力等について

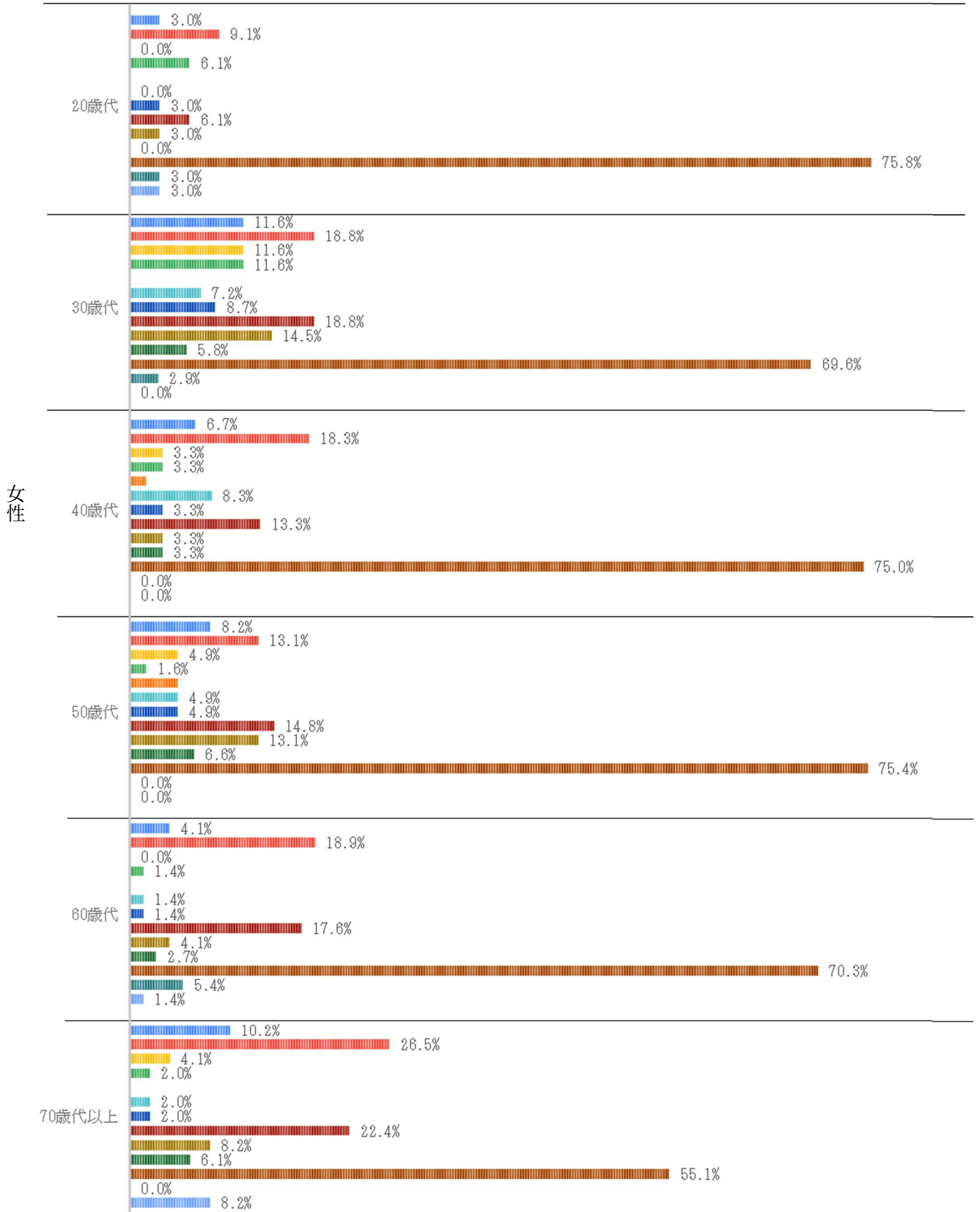
問 29 あなたはこれまで配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーから、次のような行為を受けたことはありますか。

■ パートナーからの暴力等について男女別×年齢別の構成比（複数回答）

- 身体的な暴力を受けた
- 嫌がっているのに性的行為を強要された
- 見たくないのにポルノ雑誌やビデオを見せられた
- 電話・電子メール・LINE・郵便物等をチェックされた
- 物を投げられた
- 受けたことはない
- 無回答
- ことばの暴力を受けた
- 避妊に協力してくれなかった
- 何を言っても無視をされつづけた
- 大声で怒鳴られた
- 生活費を渡さないなど、経済的に抑圧された
- その他



- 身体的な暴力を受けた
- 嫌がっているのに性的行為を強要された
- 見たくないのにポルノ雑誌やビデオを見せられた
- 電話・電子メール・LINE・郵便物等をチェックされた
- 物を投げられた
- 受けたことはない
- 無回答
- ことばの暴力を受けた
- 避妊に協力してくれなかった
- 何を言っても無視をされつづけた
- 大声で怒鳴られた
- 生活費を渡さないなど、経済的に抑圧された
- その他



その他の主な意見

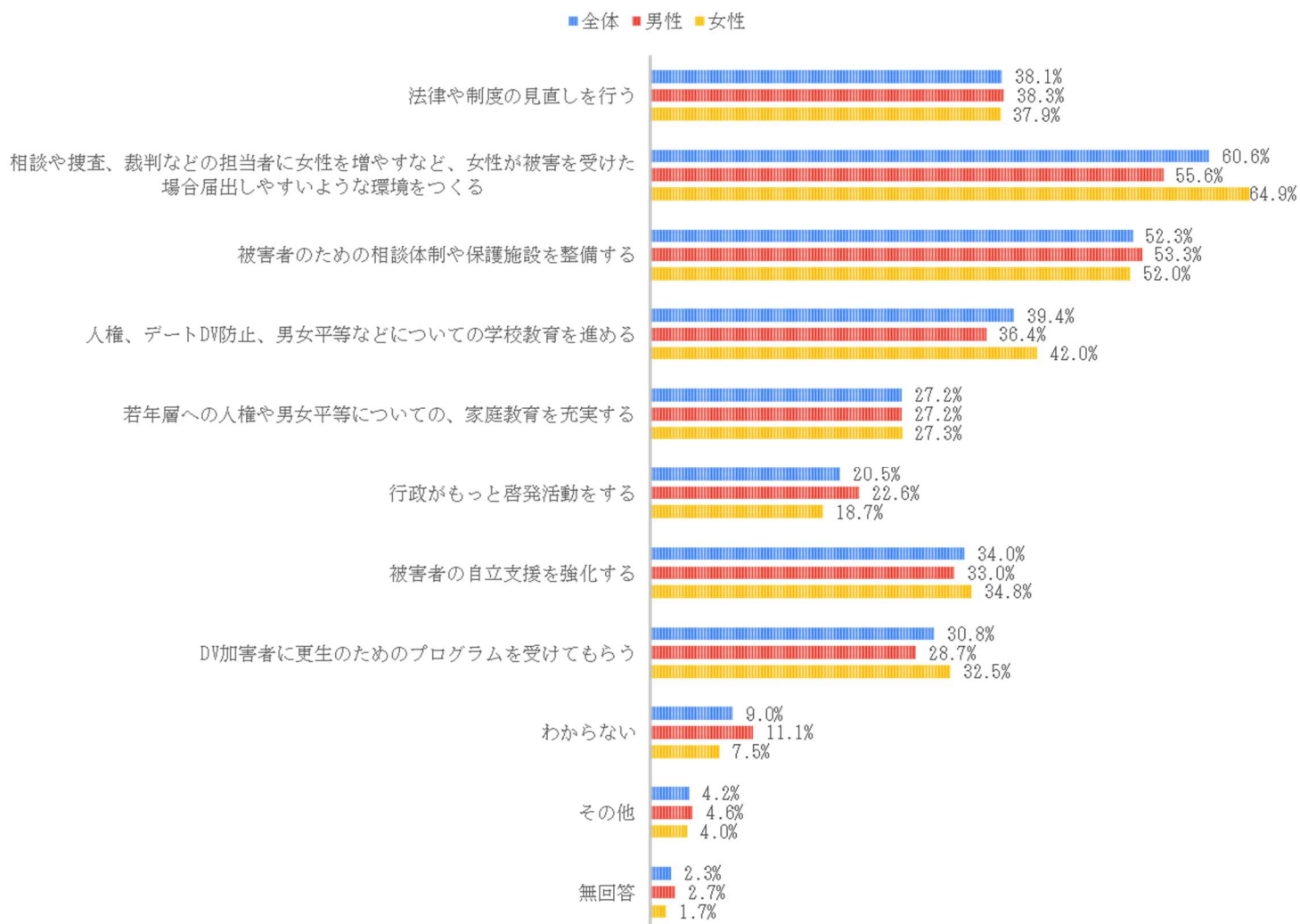
- ・母が物を投げられたのはよく見ていた (男性・50歳代)
- ・愛猫をすてると言われた (女性・60歳代)
- ・配偶者の母から言葉の暴力を受けた (女性・60歳代)
- ・配偶者ではないが、付き合っていた人から受けたことがあった (女性・20歳代)
- ・精神的な暴力 (男性・20歳代)
- ・下の子を連れて出ていかれました。それなのに生活費は請求され、渡しています (女性・30歳代)
- ・虚偽等残忍な事 (離婚した元妻) (男性・40歳代)

■ パートナーからの暴力等について男女別×年齢別の構成比

男性、女性のすべての年代で「受けたことはない」と回答した割合が一番多いものの、20歳代の男性は「ことばの暴力を受けた」の回答率が23.8%と高い割合になっています。また、女性の30歳代から70歳以上の方で「ことばの暴力を受けた」、「大声で怒鳴られた」と回答した割合が他の項目に比べて高くなっています。

問 30 ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。

■ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくすための男女別の構成比（複数回答）



※「ドメスティック・バイオレンス（DV）」とは、配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーから、身体的・精神的・性的などの暴力をふるわれること

※「デートDV」とは、婚姻していない交際相手から、身体的・精神的・性的などの暴力をふるわれること

その他の主な意見

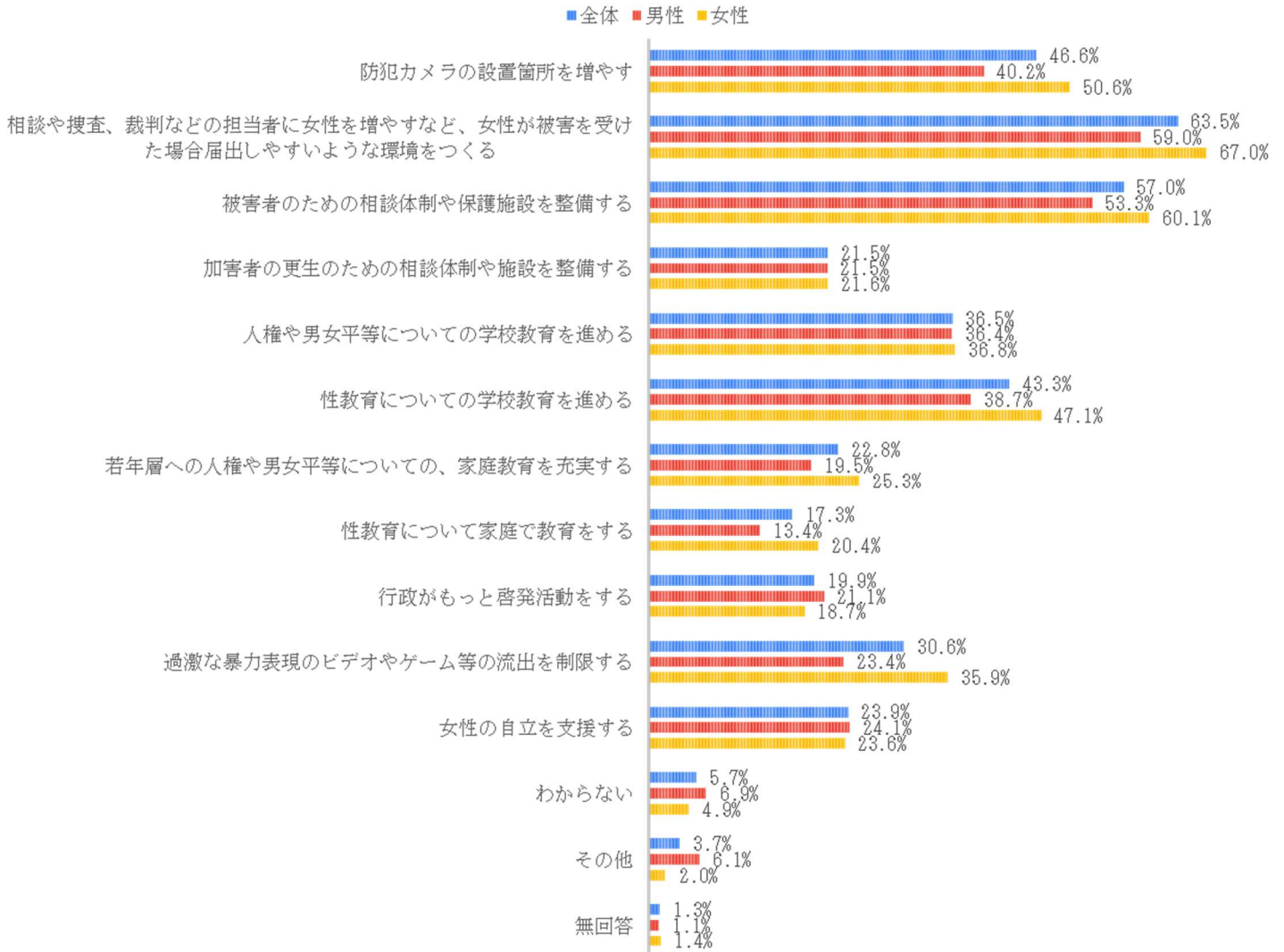
- ・ 刑法上における刑罰の強化、重度化、極刑 (男性・60歳代)
- ・ DV被害者の事をもっと理解したうえで、絶対に大丈夫だと思える場所を作ること。DV被害者は加害者に洗脳され、絶対に逃げられないと思うことから、下手な行動をすればれたらと思い、相談や施設にたどり着けていない人が多くいると思う (女性・20歳代)
- ・ 行政の個人の秘密保持の徹底。住所などがもれたことがあったとニュースになっていた (女性・60歳代)
- ・ AV等の暴力シーンに制限をかける (女性・50歳代)
- ・ DVする人は子供の頃の家庭環境があつたりそういう素質(脳が)を持っているとも聞いたことがあります。治療するべきではないですか。医療機関を充実してはどうでしょうか (男性・50歳代)
- ・ DVが傷害罪であることを明確にする (男性・40歳代)
- ・ 学校教育 (男性・60歳代)
- ・ DV被害者が話せる場所等認知させる (女性・50歳代)
- ・ 日本の連れ去り問題は深刻です。連れ去ったものが勝つ状況です。裁判をしても勝つのは難しいと言われました。片方しか親権が持てないシステムにも問題があると思います (女性・30歳代)
- ・ 罪を強化するしかない。また、ホームページ等で性犯罪DV履歴を見ることができる様にする (男性・30歳代)
- ・ 警察が積極的に介入する (男性・40歳代)
- ・ 親族の介入の拒否 (男性・40歳代)

■ドメスティック・バイオレンス(DV)をなくすための男女別の構成比

全体、男性、女性とも「相談や捜査、裁判などの担当者に女性を増やすなど、女性が被害を受けた場合届出しやすいような環境をつくる」と回答した割合が一番高くなっており、次いで「被害者のための相談体制や保護施設を整備する」が高くなっています。男性と女性の回答割合で最も差が大きくなっているものも「相談や捜査、裁判などの担当者に女性を増やすなど、女性が被害を受けた場合届出しやすいような環境をつくる」で、女性が男性よりも9.3ポイント高くなっています。

問 31 性犯罪や売買春など、主に女性が被害や不利益を受ける問題をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。

■女性が被害や不利益を受ける問題をなくす方策についての男女別の構成比（複数回答）



その他の主な意見

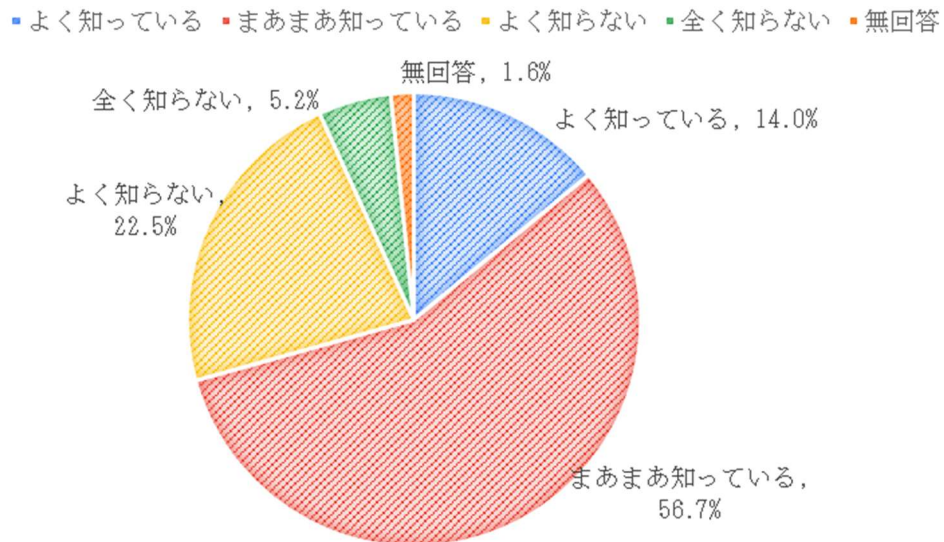
- ・学校教育だけでなく、家庭教育の方が大事だと思う。特に小学校に入学する前の家庭教育が出来ていない家庭が多いのではと… (女性・60歳代)
- ・犯罪が起こる前の手立てを考えるべき (女性・30歳代)
- ・親となる立場の大人(年齢問わず)にも教育、啓蒙を勧める (女性・50歳代)
- ・法律を整える、厳罰化 (男性・40歳代)
- ・家庭も学校も今の教育方法では何も変わらない。子供の年齢に合わせて親子で同じ教育を受ける (女性・無回答)

■女性が被害や不利益を受ける問題をなくす方策についての男女別の構成比

全体、男性、女性とも「相談や捜査、裁判などの担当者に女性を増やすなど、女性が被害を受けた場合届出しやすいような環境をつくる」と回答した割合が一番高くなっており、次いで「被害者のための相談体制や保護施設を整備する」が高くなっており、ドメスティック・バイオレンス(DV)をなくすための方策と同じ結果になりました。男性と女性の回答割合で一番差が大きくなっているのは「過激な暴力表現のビデオやゲーム等の流出を制限する」で、女性の回答率が男性の回答率よりも12.5ポイント高くなっています。

(7) 性的少数者（セクシュアルマイノリティ）についてうかがいます
問 32 性的少数者について、どの程度知っていますか。

■性的少数者についての認知度に関する全体の割合



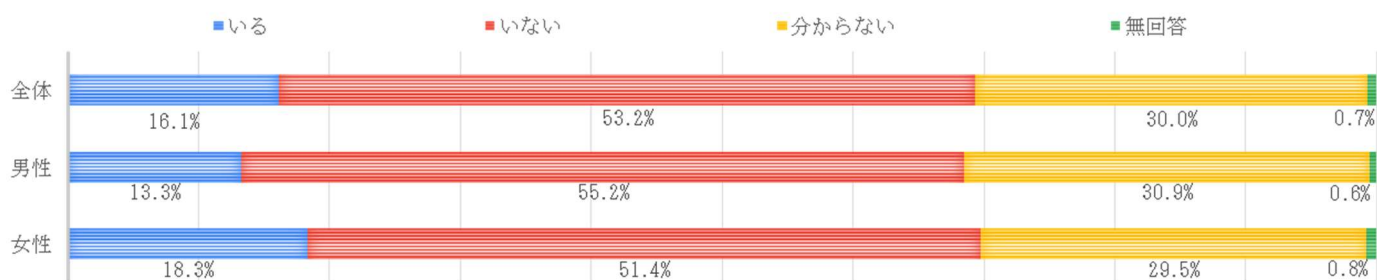
※「性的少数者」とは、セクシュアルマイノリティやLGBTなどとも呼ばれ、同性愛者や両性愛者、トランスジェンダーなど、性的指向や自認する性などが、今までのあり方にとらわれない性を持つ人たちのこと。

■性的少数者についての認知度に関する全体の割合

「よく知っている」、「まあまあ知っている」と回答した割合は70.7%で、「よく知らない」、「全く知らない」と回答した割合は27.7%となっています。

問 33 問 32 で「よく知っている」、「まあまあ知っている」と答えた方にうかがいます。あなたの身近に性的少数者の人はいますか。

■身近にいる性的少数者について男女別の構成比

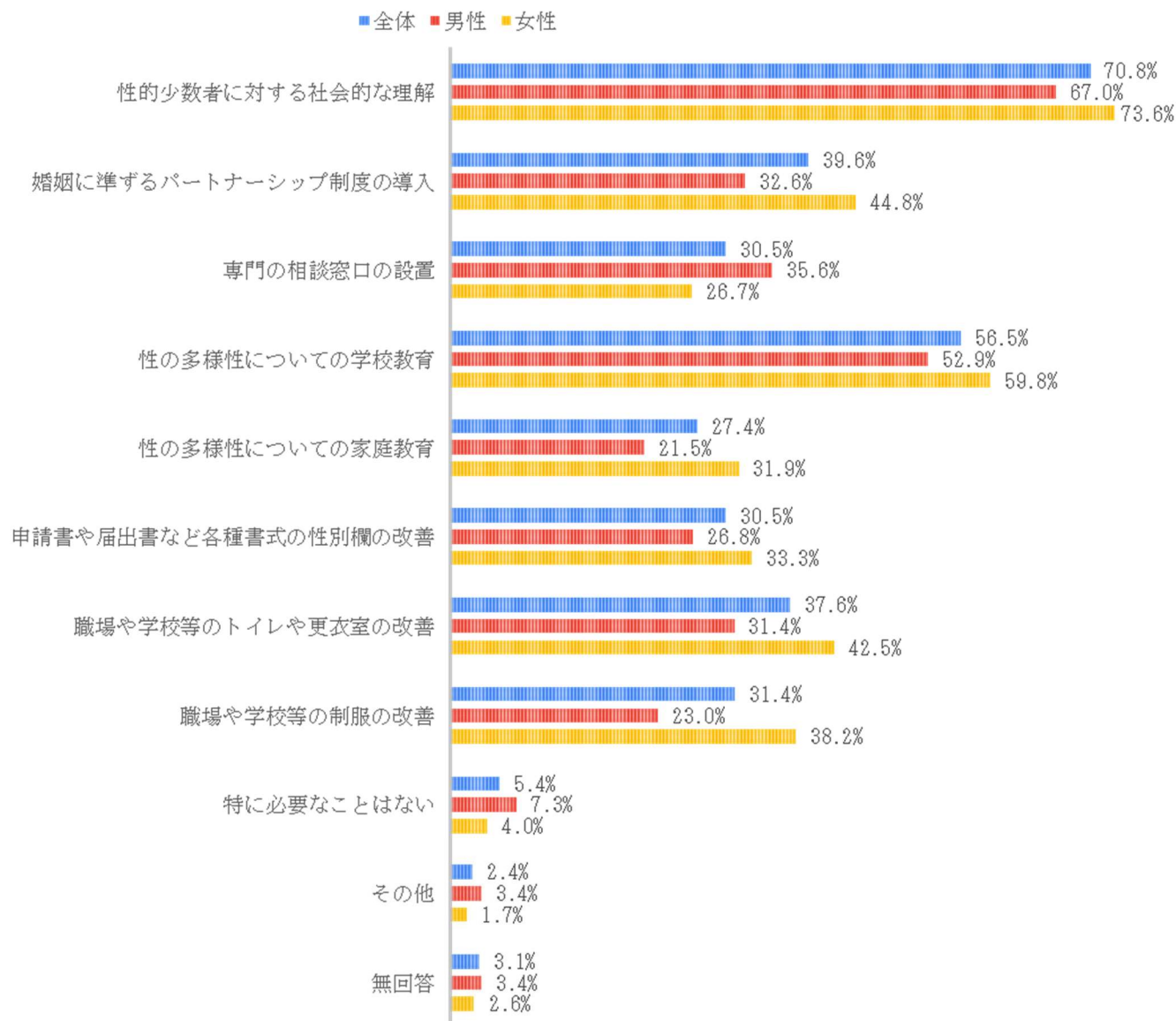


■身近にいる性的少数者について男女別の構成比

男女とも「いない」、「分からない」と回答した方の割合が多くなっています。また、「いる」と回答した方の割合は全体が 16.1%、男性が 13.3%、女性が 18.3%となっています。

問 34 性的少数者は電通ダイバーシティラボの2020年調査の結果、人口の8.9%占めているという結果が出ていますが、性的少数者は偏見や差別等に苦しめられている現実があります。このような性的少数者の生きづらさを解決するためには何が必要だと思いますか。

■性的少数者の生きづらさを解決するために必要なものの男女別の構成比（複数回答）



その他の主な意見

- ・人間の身心に伴う「仁」の意識、宗教的認識 (男性・60歳代)
- ・医療など身体の性別が重要な場面を除いては、そもそも性別の記入を求めなくてもよいと思う。公共のトイレなども全て個室にすれば良いと思う (女性・50歳代)
- ・行政等、窓口となる係員の方の意識改革 (女性・50歳代)
- ・干渉しないこと (男性・40歳代)
- ・就職面接時の配慮（服装、髪形など） 災害発生の避難時にトイレ・風呂などを分けるなどの配慮 (女性・50歳代)
- ・性の多様性の国や自治体、メディア等の教育、発信 (男性・30歳代)
- ・対象者だけの地域をつくる (男性・40歳代)
- ・型に当てはめずに考えられないかと思うので回答の選択肢に当てはまるのがなかった (男性・30歳代)

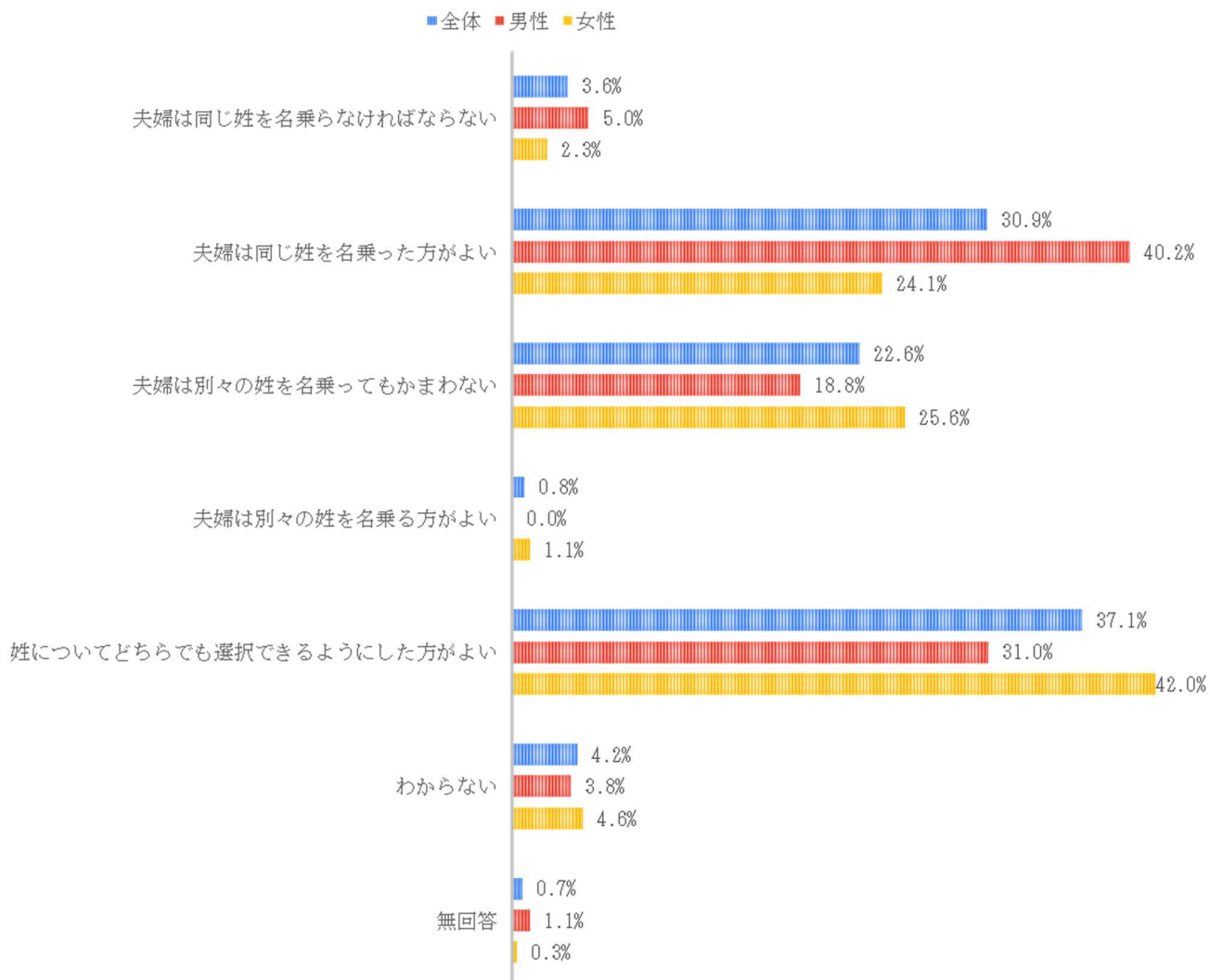
■身近にいる性的少数者について男女別の構成比

全体で高い割合の回答は順に「性的少数者に対する社会的な理解」、「性の多様性についての学校教育」、「婚姻に準ずるパートナーシップ制度の導入」となっています。男性と女性の回答で差が大きいものは「職場や学校等の制服の改善」で女性の方が男性よりも15.2ポイント高い割合になっています。

(8) 選択的夫婦別姓制度について

問 35 あなたは、夫婦の姓についてどうお考えですか。

■夫婦の姓についての男女別の構成比



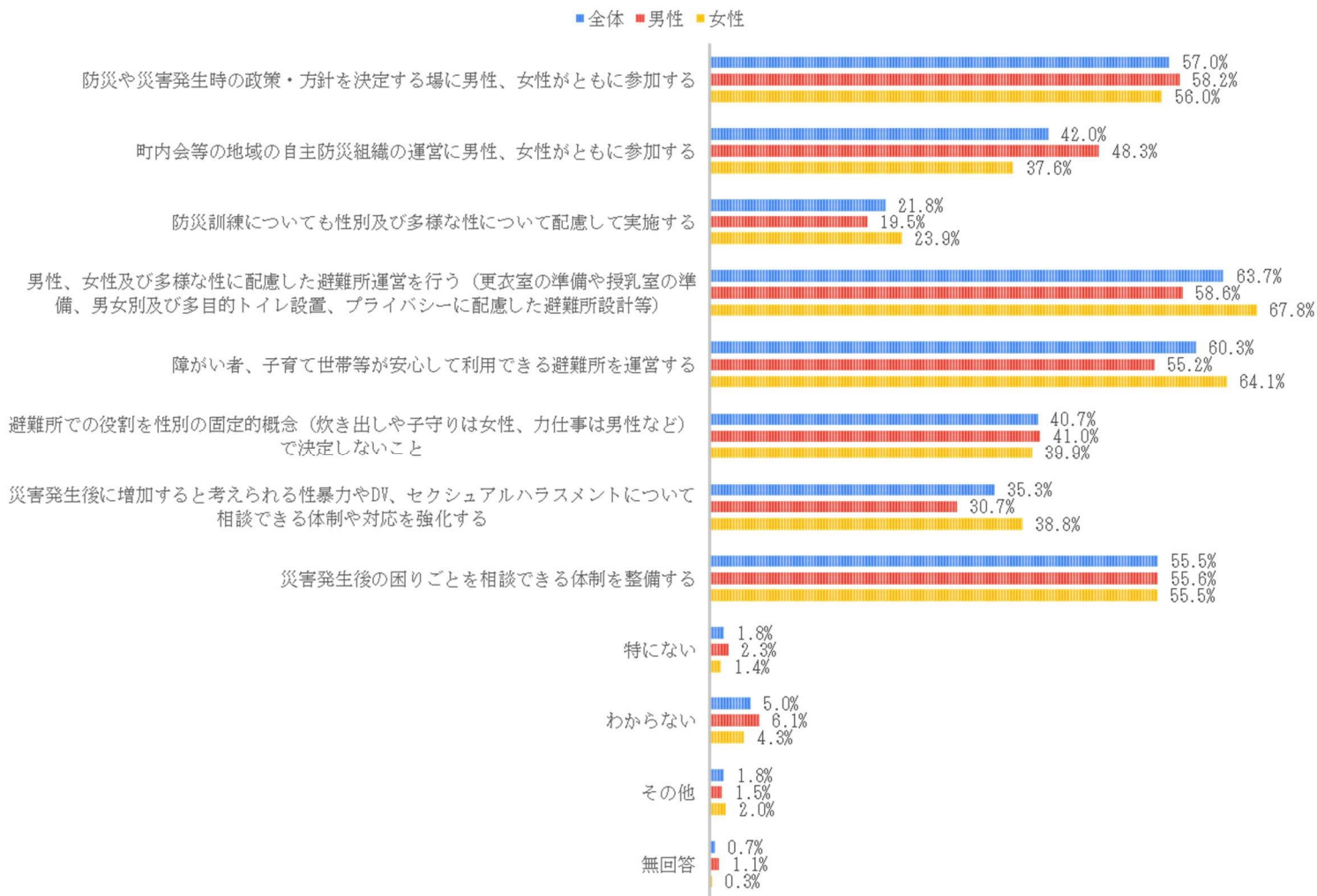
■夫婦の姓についての男女別の構成比

全体の回答で一番割合が高かったのは「姓についてどちらでも選択できるようにした方がよい」で、次いで「夫婦は同じ姓を名乗った方がよい」の回答の割合が高くなっています。男性の回答で一番割合が多かったのは「夫婦は同じ姓を名乗った方がよい」(40.2%)、女性の回答で一番割合が多かったのは「姓についてどちらでも選択できるようにした方がよい」(42.0%) でした。

(9) 防災体制や災害発生後の対応について

問 36 あなたは、平常時の防災体制や災害発生時の対応として、どのようなことが必要だと思いますか。

■防災体制や災害発生後の対応についての男女別の構成比（複数回答）



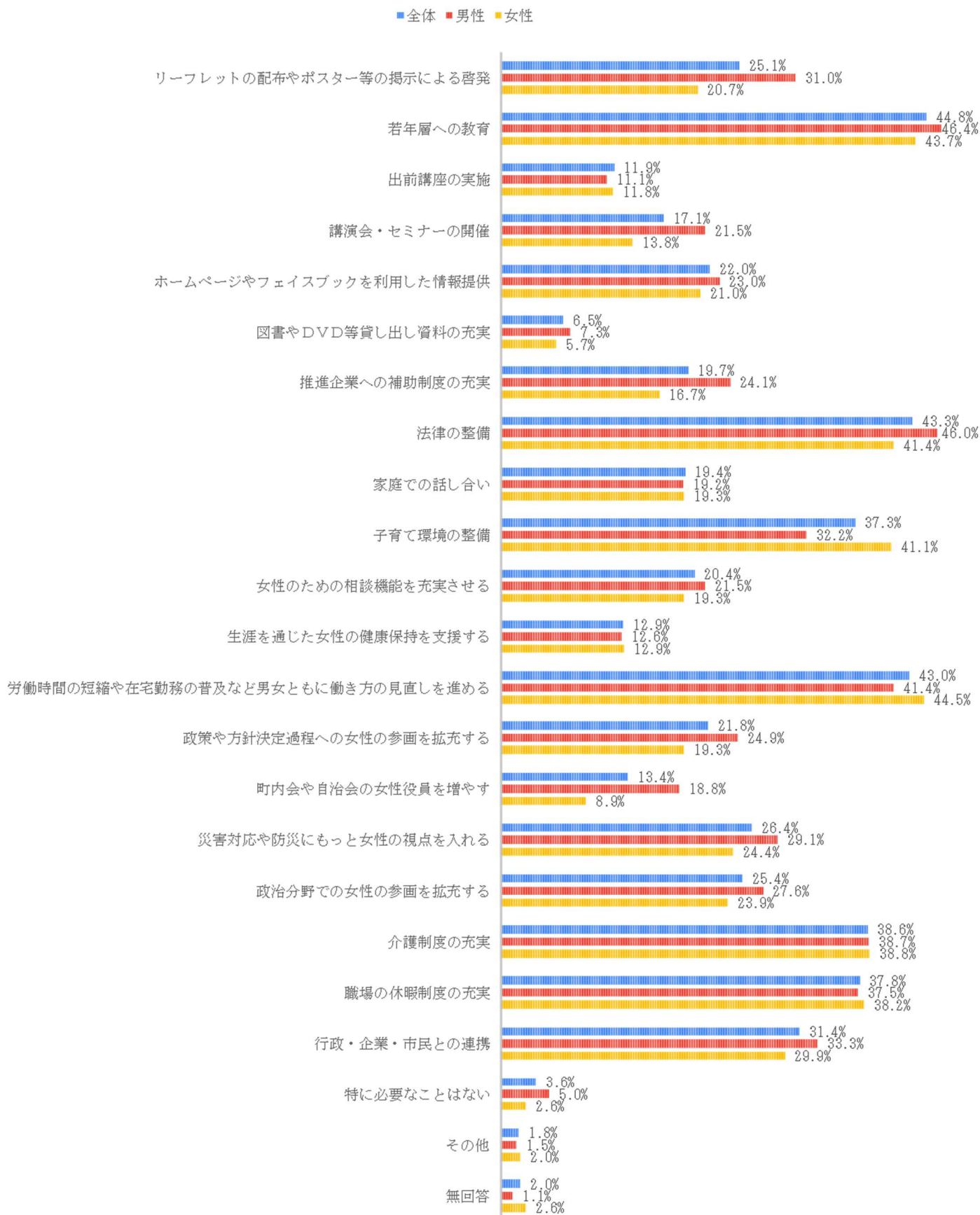
■防災体制や災害発生後の対応についての男女別の構成比

全体の回答で一番割合が多かったのは「男性、女性及び多様な性に配慮した避難所運営を行う（更衣室の準備や授乳室の準備、男女別及び多目的トイレの設置、プライバシーに配慮した避難所設計等）」で、次いで「障がい者、子育て世帯等が安心して利用できる避難所を運営する」の割合が高くなっています。男性と女性の回答割合で差が大きかったのは「町内会等の地域の自主防災組織の運営に男性、女性がともに参加する」で、男性の回答割合が女性の回答割合よりも10.7ポイント高くなっています。

(10) 男女平等参画社会の推進について

問 37 あなたは、男女平等参画の推進に、どのようなことが必要だと思いますか。

■男女平等参画の推進について必要なことの男女別の構成比（複数回答）



その他の主な意見

- ・適材適所女性の有資格を増す (女性・30歳代)
- ・社会において意思決定を持つ(であろう)政治家、行政、企業の方々の意識改革。(男女問わず)教師、親も含まれるかもしれない (女性・50歳代)
- ・ロールモデルによるプロセスの周知。どのようにして男女平等参画を成し得たのかを具体的に紹介、周知し、実践を促す (女性・40歳代)
- ・若年層の教育より、年配者の方に対して男女平等についてもっと教育した方がいいのでは? (女性・40歳代)
- ・行政の担当者だけの理解ではなく、国のトップの人達への教育も必要と思う (女性・30歳代)
- ・この質問の選択肢自体女性ばかりが苦勞しているみたくなっているけど私もシングルファーザーで苦勞しているし、職場からはよくパワハラを受けている (男性・20歳代)

■男女平等参画の推進について必要なことの男女別の構成比

全体の回答で一番多かったのは「若年層の教育」で、次いで「法律の整備」、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」が多くなっています。男性と女性の回答で一番差があったのは「リーフレットの配布やポスター等の掲示による啓発」で男性が女性よりも10.3ポイント高い割合になっています。

Ⅲ 意見・要望

男女平等を進めるにあたり、ご意見やご要望がありましたらお聞かせください。

主な意見

国・市等への意見等

- ・個人の尊重を基本におくべき。企業の都合を優先してはいないか？国が大きく方針を示し、男女平等が（国会でも学校でも格差のない分担）あらゆる場面で進んでほしい。行政（国、地方自治体）がお金を出すことが本気度を表している。苫小牧が進んでいろいろ企画していることは良いと思います。そこで生理用品をトイレに設置すること。給食費無償化、制服の男女差の廃止（スカート、ズボンなど）などすぐできることから始めてはどうでしょう（女性・60歳代）
- ・各地域ごとに男女平等参画チームを作り、お互いの意見交換をする。市の方からも、もっと道や国に必要なことがあれば意見を言うべき。苫小牧からも道議員3人出しているのだから。各町内から代表2人ずつ出して（男1人、女1人）男女平等参画プロジェクトチームを作り出す。他の都や県はやってない事をやるべきだ（男性・50歳代）
- ・夫が自営業でそこで妻が働いている場合、産休が3か月しかお金が出ないのはおかしい。また雇用保険も高くなるのはおかしい（女性・30歳代）
- ・男女平等参画室の皆様、推進していくのは大変とは思いますが、大事な事案だと思いますので、よろしくお願ひします。これらは難しいことだと思うのは、社会全体が変わらなければ実現できないと思いますので、政治家（政府）や各自治体による、真の理解と社会的な法整備が必要だと思います。部分的な整備では無理です。市民に対する研修等も大事ですが、国全体での取り組みがなければ、解決しないと思います（女性・50歳代）
- ・病児の預かり制度や、障がい児の預かり制度の充実。男性の意識変革（女性・60歳代）
- ・戸籍を世帯単位ではなく、個人単位にすべき。それだけで、かなりのことが解決出来ると思います。姓、支援金の（別居時の）送付先、婚姻や離婚に伴う戸籍の出入りなどなど（女性・50歳代）
- ・一市民が言葉を上げて、変わらない事が多いのが現状だと思われます。アンケートを取るの大事だと思いますが、それが生かされているのかわかりません。ハッキリとした情報開示が必要だと思いますし、政治家の方々の意識の改革も必要だと思います。どうしても年配の方が政治家には多いので、若年層は考え、価値観も異なっていると思うので。（どうしても昔の考えの方がいる様に思えます）。法整備などは重要ではありますが、それを行う方たちの意識、考えはもっと重要にも感じます（男性・30歳代）
- ・PR事業だけでは、実現は不可能。本当に男女平等参画を目指し、推進をするのであれば、具体的な実現事例を示し、“やればできる”ことを市民に認識させることも必要だと考えます（女性・40歳代）
- ・男女平等参画とはよくわからなので出前講座があればと思います（女性・60歳代）
- ・男女平等参画に対しては大いに賛成であります。現在企業でもその考えに基づいて推進していると思います。しかし、中には男女平等を推進している企業の思惑で、女性社員の昇進が進み、必ずしも実力と見合った内容になっていないケースも見受けられます。企業に女性の役職割合も求めたり、他と比較するということはナンセンスだと思います。
男女平等を批判しているわけではなく、男女ともに平等を求めるのであれば、それに見合った基準を設定すべきだと思います。また、政府や企業に対しての制度設計も必要だと思います（男性・40歳代）

- ・今回のアンケート内容自体、どちらかというとな性の方が弱い立場のような印象を受けました。男性でも女性の多い職種や職場で働いていて、悩まれる方もいらっしゃると思うので、選択項目の追加や見直しを検討されてはどうでしょうか？ (女性・30歳代)
- ・日本を主導する国政が男性中心のままであり、女性参画は程遠く見える。法律だけ整えて実行に移せていません。日本はまだまだ遅れていると思います。地方政治や役所重要ポジションに女性の活躍の場を増やしていく。各イベント等も女性の参画を！ (男性・60歳代)
- ・特になし。ただ今回こう言うのが来て勉強になった。知っていても知らなくてもこう言うのがあるのかと…。苫小牧もよりよい住みやすい街にしたいですね (女性・60歳代)
- ・自営業のあとパートに出たので、今頃の若い人達の考えはよくわかりません。我々の世代より、若い人達の考えを聞いて推進して下さい (女性・70歳代以上)
- ・質問全体を通して女性ばかり気遣っていますが、シングルファザーの方等に対してのことも考えたほうが良いと思います (男性・20歳代)
- ・結婚すらたどり着かないのに当たっても回答出来ませんわ！！まずは結婚も考えられる年収450万の義務を事業主に課す。ここから始めないと (男性・40歳代)
- ・様々な機会や権利は平等であってほしいが、やはり向いている役割に差はあるとも思う。職業により男女の有利不利があるのが仕方ない場合もあると思う。しかし公務員のような仕事は男女の比が半々であるべきだと思う。あとと思うのは、日本は仕事を頑張ろうとすればするほど、子育てがしづらい社会だと思います (女性・30歳代)
- ・特にございませぬ。いつも行政サービスありがとうございます。大変かと思いますが、お仕事頑張ってください。お疲れ様です (男性・30歳代)
- ・何でも性別に関係なく得意な方がやれるようにすればいいと思う。男性に多いのですが、女性や若い人を下に見る傾向がある。男性の意識改革が一番大事だとも思うが1番やっかいだとも思う。”個々人の意識を変えるためには、何らかのアクションが必要。たとえば、賃金や労働条件について企業を調査するなどの取り組みにより、地域社会の実態を数値化して示すなどの努力をしましょう (女性・50歳代)
- ・はじめて知る事柄なので、市内に広報誌で知らせた方がいいのでは？ (男性・60歳代)
- ・仕事が決まっていないと保育園に入れないという原則がおかしい！まずは保育園が決まらなきゃ、働きたくても働けないママがどれだけいるか、市は知るべき！！昔とは違って核家族でどうやって、子育てと仕事を両立していくのか。まずは、子どもを見てくれる所がなければ、働くななんてとうていムリ。もっと男女が共に仕事につきやすい環境をつくるのが、苫小牧市の第一の課題です！とまチョップの生誕10周年だかを祝っている場合ではないですよ！！ (女性・30歳代)
- ・若い人々の新しい意見を多様に伺い、未来のために進めて頂ければと思う (女性・40歳代)
- ・まだまだ女性が弱い立場！もっと平等にお願いしたい！社会的なことが変わらないと、なにも意味がない (女性・30歳代)
- ・男女という表現を変更する (男性・40歳代)
- ・男女共にこの世の中に平等はない。その中で男女平等と言うのは矛盾しかない。それでいて肉体的にも精神的にも違いのある男女で平等なんてありえません。女性が大きな声を上げ社会進出する事で出産・育児の弊害になって少子化になっているのでは？結婚しても収入の少なさで共働きと言う事もあり夫婦の時間取れなかつたりするのも。男女平等に声を上げるなら国と企業の運営を変えるしかない (男性・40歳代)

- ・男女平等と謳いながら女性を優遇する社会になってないかチェックも必要だと思う
(男性・40歳代)
- ・男女平等を提言するならもう少し男性目線の考えも入れて欲しい、女性目線の意見のみ採用され、既に女性優位で仕事もすぐにセクハラ・パワハラになる。髪型変えたんだ→セクハラ 口ごたえが多すぎる!→パワハラ 何それ?きちんと国でセクハラやパワハラの定義をしっかりと整備して欲しい。コミュニケーションが取りにくい世の中になり過ぎて、人と関わるのが怖い→少子化 まさに今ココです。行き過ぎたものはセクハラ・パワハラで良いんですが、守りすぎて国が滅びかけてます
(男性・40歳代)
- ・世の中の多様性に則した運営が必要
(男性・60歳代)

教育について

- ・子供が小さいときから学校教育であったり、家庭教育が必要だと思う
(女性・70歳代以上)
- ・男、女と区別するのではなく、子供の頃から自分のことは自分でなんでも解決させていく
(男性・70歳代以上)
- ・若年層は意外と平等に生活していると思う。なので、若年層へ教育するのではなく中年層以上の年齢の方の教育が必要だと思います
(女性・50歳代)
- ・性教育は恥ずかしいこととか、どのように子どもに説明していいかわかりにくいので、難しいです。大切なことなので、学校などでも子供向け、親向けに色々教えてほしいです。性教育を正しく伝えることで、男女がともに大切なものとして考えてもらいたいです。子どもの作り方とかは性教育ではないと思います
(女性・40歳代)
- ・男女平等参画を大人だけが理解することなく、子供たちにもその必要性や実際に行われている事、意識を持たせることについての教育が大切だと思う。我が子は小学生の時、麻薬等について「ダメ、絶対ダメ!」というフレーズを学校で聞き、ずっと本当にダメなことだという意識を強くもっている。素晴らしい教育を受けたと思っている。男女平等参画についても子供たちがわかりやすくずっと覚えている、深く意識に残る方法で教育してほしい
(女性・50歳代)
- ・子供の時からの教育が一番大切だと思う。一人一人が違うということをもっと学び、わかりあえば、いじめも無くなるだろう。又、一人一人の目標があればもっと会社に意見を言えるし、改善されると思う。目標がない人が多すぎる。与えられるものじゃないけど。賃金アップしてほしい。男女ともに40代はお金がないです。平等とか言っている場合じゃない位とても大変
(女性・40歳代)

①男女平等参画を推進し、児童生徒の多様な選択とする教育。

②女子生徒の理工系分野への進路選択の促進。

③性暴力の加害者、被害者、傍観者にならない教育。

市としての基本目標、基本理念の再検討が必要では。

イ 人権尊重を目指す市民意識の育成。

ロ 政策、方針決定路線への女性の参画推進など
(男性・60歳代)

- ・男女平等の考え方に関して、若年層への周知も大切だが、同時に今、社会で活躍する中年層以上の方に対するセミナーや講習も増えていけば良いなと思う
(女性・20歳代)

- ・性別ではなく、個人としての向き不向きを生かせる社会になればと思います。性教育について、より現実的な、踏み込んだ教育が学校で行えるよう希望します。人権についても、身近な教育になると思います (女性・40歳代)
- ・子供の教育の場で、平等がない時代、男女の平等は考えられません。子供が初声をあげた時から、教育が終わるまで、国が責任をもって育て上げる。そこで、始めて男と女が同じ位置に着ける気がします。まして今の時代いろんな家庭があります。家庭での子供の養育・教育など、差があります。お金だけ出しても何も変わりません。女性は子供を生んだ時から社会から差別を受けます。育てて当然、女だから、これは父親にとっても同じです (女性・無回答)
- ・男女それぞれに考え方が違う。10年前に比べ、考え方が変わってきていて、男女平等の考え方は進んでいるが、基本的に考え方の違う人がいて、まだ数年かかると思う。DVもその一つで、考えることと現実の違いによるギャップをうめる為、暴力を振るう人もいるのではないかと。子供の頃からの教育又はしつけ等を行うことでより良い方向へいくのではないかと (男性・50歳代)
- ・子育て中の親に対して、押し付ける祖父母を教育すべき (男性・40歳代)

DV・性暴力等について

- ・DVについて、もっと手厚い世の中になって欲しいと思います。自分は父のDVを見て育ちました。何度も死を覚悟し、何度も逃げることを考えました。母の異常な恐怖心と相談窓口やDVシェルターへの不安、逃げた先になにがあるのか、いつか捕まって、殺されるのではないかと。そういった思いから、私達家族はどこにも頼ることが出来ませんでした。少しでも同じ立場の人たちが助けられますように (女性・20歳代)
- ・DVや性被害について「女性が」とアンケート内でもありますが、男性、女性ともにあることを前提にするべきだと思う (女性・50歳代)
- ・企業は大きくても各種別で個別に分かれている部屋に上司と2~3人しかいない部屋とかでは殆ど上司が男性で中間も男性で事務的なものが女性1人という所が多く、それが何年も続くと馴れからか男性は年齢が上で、立場を利用して性的同意を求められ、断ると職場を辞める事になった経験が、若い頃にあります。今でも、そういう状態で働いている女性もいるのではないかと感じます (女性・70歳代以上)
- ・今回のアンケートで色々と調べ、学びました。(男女平等、性の多様性など) ”男女平等参画の推進” と言いつつ、「女性のための〜」「被害をうけた女性」と表現されてあるところに多少違和感を覚えました。子育てで働くことの出来ない男性も、性被害をうける男性も、介護で学びの機会を失っている若い人もいるはずなので、難しいことだと思うけど、こういった表現？制度？が改善されたいと思います。 (女性・50歳代)
- ・女性が被害に合う犯罪の報道が毎日のようにあるが、もう少し刑罰を重くしてほしい。再犯している者も多く見受けられるが、そういった者への精神的な治療も推進していくべき。女性の社会進出ももちろん大事だが、女性の身を守る事をまず第一に推進してほしいと思う (女性・30歳代)

政治・選挙等について

- ・選挙の当選者を外国のように、当選者の順位を、票数ではなく①男②女③男④女⑤男⑥女としなければ、男性上位の政策しかできず、いつまでたっても、男女平等の国にはならないと思う
(女性・70歳代以上)
- ・政治家も定年制にしないといつまでも爺さん政治家がいて女性の進出は出来ない
(男性・70歳代以上)
- ・議員の女性を増やすこと。法律で女性議員の比率を決めること
(男性・60歳代)
- ・苫小牧市も副市長に女性1名いても良いのでは？苫小牧東部と地域格差が大きいのでは？介護施設に入所したくても料金が高いため、入所したくても入所できない人が大勢います
(男性・70歳代以上)
- ・日本にも男尊女卑がまだまだ根強く残っている。その考えの人が上にいたり、中年の男性にも多い。その中で成長していくのですから、男尊女卑はなかなか改善しないと思う。
女性は男性に、男性は女性に体力面で同等でない事もある。互いが尊重している様に見えても根っこ部分には、やはり、男尊女卑は残っている。政治家の言動を見ても、ガッカリさせられる
(女性・50歳代)
- ・令和になっても、国、政治、社会の上に立つ男性の意識が女性に対して変わらない限り、進むことは難しいですね
(女性・60歳代)

家事・育児について

- ・どんなに平等と言っても、女性は出産があり、子どもを育てると言う立場です。その上での平等となり、男性は出産も授乳もありません。女性の大変さや心身のつかれが、わかってもらえないことが多々あります。その上で、仕事、子育てを考えていかなければならないので、本当に子育ての環境をととのえてほしいと願います
(女性・60歳代)
- ・妻が出産予定です。住みやすい街づくり、子育てしやすい環境づくりを期待しています
(男性・30歳代)

企業や働き方について

- ・男女とも仕事に出られる場所を作ってほしい。育児・家事と仕事の交代の出来る職場を増やしてほしい
(男性・70歳代以上)
- ・企業、職場への理解
(男性・40歳代)
- ・同業種の企業が協力し合って、女性が産休・育休を取得した時に、人員を調整できるようになれば、もっと働きやすくなると思います。男性も同様に育休を取るという権利をもっと行使することが、男女平等を進めることになると思うので、どんどん男性も休みを取って欲しいと思います。また、産休・育休にかかわらず、様々な事情で休みをとれるようになれば、いろいろな働き方が出来ていいと思います。男女ともに
(女性・40歳代)

男女のあり方について

- ・子育ての中の女性が、実行出来る様な意見を発言し、社会が法律を少しずつ改善していくことでトラブルが少なくなると思います (男性・70歳代以上)
- ・女性は子供を産むのだから、なにもかも平等というのはちょっと違うような気がする (男性・50歳代)
- ・2019年に初産をしたがSNS等をみると育児家事の比重が女性に傾き過ぎていると感じる。出産後1か月程女性は全治1か月に近いケガをした体の状態にもかかわらず、寝ずに育児をしなければならないことがほとんど。夫の育児参加は当然で人手は多いに越したことはない。男性の育児休暇は必ず取るべきだと思うし、こんな世の中では子供を産もうと思わないのは当然である。女性になんでも頼りすぎ(仕事、家事、育児など) (女性・30歳代)
- ・生活するうえで必要な事、食事、洗濯、清掃等は男女関係なくやっていく事なのでここに男女は関係ない。経済もそうです (女性・60歳代)
- ・①男性だから女性だからに捉われない社会でありたい
②性により生活しにくいと考えられない社会でありたい
③自分自身のことを大切にし、社会のかかわり人としての役割を持って生きる事を家庭生活においての教育することの自覚を持ってくれること (女性・70歳代以上)
- ・完全な男女平等は不可能だと思います。体の作りも違いがあるので、共に出来ることをするくらいで良いと思います。どうやっても矛盾が出るので協力しあうことが大事だと思います (男性・50歳代)
- ・男性・女性にこだわらず人間として、できることをみんなで考えれば良いと思う (女性・60歳代)
- ・教育施設などで、男性、女性がお互いの立場になって、日常の生活を体験してみる機会を多く持てると、相手の理解を高められるのではと思います。立場、年代に関わらず意見を交換していくと、意識、認識が良い方向に変えていけるかと思います (男性・70歳代以上)
- ・男性側の視点での説明や指示が必ずしも女性の理解しやすいものでないことがあることも理解して欲しい。男性に対してものを言うと、頭ごなしにものを言われることが多すぎる。女性の生理に関して、男性が疑似体験をする機会があったらと何度もあった。軽い人もいれば生理痛が重くて体を起こすこともできない人もいる中で働いている女性がいまだに多いのに、女性の生理を会話の中で揶揄して話す人がいるのが理解し難い (女性・50歳代)
- ・何でも男女平等としなくても、男性がやった方が良く、女性がやった方が良く、女性がやれば良い事 (女性・60歳代)
- ・女性が優遇されすぎて、男性が被害を受けているにもかかわらず、裁判時に不利に動くケースがある。不倫された男性にとって少しでも良く動いてくれるような制度があったら嬉しい (男性・20歳代)
- ・男女の平等は大切ですが、専業主婦でいることが悪にならない様に配慮が必要だと思います。人によっては、なんで働かないのか?などの間違えた思考になってしまう人も居ると思います。 (男性・40歳代)
- ・まだまだ男が仕事、女が家のことをするという考えの男が多すぎます。その考えを変えるのはなかなか難しいことだと思います (女性・40歳代)
- ・女性を今以上に庇護する事が最優先なのかと思いました (男性・30歳代)

- ・理想は女性が意欲的に社会進出し経済的に自立ができることと、心豊かに生活できるために、時間にゆとりを持てることだと思います。夫婦と子供で生活している女性の立場からすると、女性が男性と同じ位の収入を得ようとすると、時間に追われて穏やかに生活することが難しいと考えてしまい夫の収入に依存してしまう。パートや時短勤務で働きながら女性がひとり親で育児をするのは経済的に難しいです。夫婦と子供でお互い尊重し合いながら豊かに生活ができることが理想的だと思いますが、家庭内DV等、女性が不利益になる場合は、特に女性が経済的に自立できることは大事だと思います(精神的依存もあるとは思いますが・・・)。そのために、ひとり親になった場合でも現在と大きく変わらず生活できるための支援、又は労働環境や給与形態の改善はさらに必要じゃないかと思います。市や国への申請や手続きなども簡易化した方がいいのでは?と思います。ひとり親の方は子供の習い事や教育に関わることも経済的な問題で諦めざるを得ない方もいますし、仕事を3つかけもちして朝から夜遅くまで働いている、子を持つお母さんもいます。理想はベーシックインカムを導入することだと思います。私の体験にはないので具体的なことはわかりませんが、子育て世帯以外にも支援を必要としている方はいるはずなので。将来的に男性に依存せず女性がいきいきと自分らしい生活を送ることができる社会が一般的になると良いなと思います
(女性・30歳代)
- ・女性側の努力も必要
(男性・40歳代)
- ・結果に差は出るが、機会は十分平等だと思っている。むしろ女性に権利をあたえようとするアクティブアクションが増えるとそれによる不平等さを感じる
(男性・20歳代)
- ・現在の社会では、女性は働くか専業主婦かなど、選択肢があり生きやすいと思う。男性の方が、大黒柱、縦社会の固定概念から抜け出すのは難しく、生きづらいのではないのでしょうか。男性か女性かではなく、誰もがやりたいことが出来る世の中になれば良い。
高齢化した時、女性は友達とエンジョイするのに、男性は会社以外の友達などがおらず、孤独な老後を過ごしている方が多いように見える。男性が仕事しかしてこなかった弊害と思えるので、若い頃から地域や学校など広い社会に参加できる仕組みがあれば良いと思う
(女性・50歳代)
- ・男女を意識せず一人の人間として接することが必要
(男性・50歳代)

介護について

- ・子育てが終わった世代ですが、今、世の中が目まぐるしく変わってきている時代ですので、何に対してもいろいろな形があってもいいと思います。介護される年齢ですので、介護する人が大変にならないような制度になることを望みます
(女性・60歳代)
- ・年金生活の夫婦です。若い時はケンカもしましたが二人の子供を育て上げ、今は子や孫に会うのを楽しみに春から秋まで畑作業に精を出しています。夫がたいへんな時は私もフルタイムで働きました。今は私の年金もありますので大変助かっています。健康なら夫婦で働くの良いと思います。いつか介護されるためにお金も必要なのですから
(女性・70歳代以上)

性的少数者について

- ・男女平等ももちろん当たり前のことですが、性的少数者(同性愛や性同一性障害)についても考えてもらいたいなって思います。この意識調査でちょっとしか触れられてなくて当事者の私からするとがっかりしました。また、こういう調査をするときは性的少数者のこともお願いしたいです
(女性・30歳代)

その他の意見について

- ・難しいことは分からないです。何が自分にできるかも、よく分かりません。アンケートまとめる仕事、おつかれさまです (女性・30歳代)

- ・20数年前、北欧を旅行する機会がありました。スウェーデンでの事、若いお父さんがベビーカーや乳母車を押し散歩している姿を多く見かけました

又、公衆トイレ、男女別トイレの隣に多目的トイレが備えられ、中は広く、ベビーベッドが備えられ、2組のベビーカーに手をやっている若いお父さんが何やら話し込んでいました。

近年、多目的トイレを目にすることはありますが、まだまだ少なく、本当に必要な人たちが、何のためらいもなく利用できるようなになればと、つくづく思います。

余談になりますが、スウェーデンは消費税が本当に高いです。しかしガラス張りで、その税が使われるのであれば、何の文句もないと思います。大学に行きたくても家庭の事情で断念しなければならない子供たちの事を考えると非常に残念で悲しい思いです。スウェーデンのように平等に教育がうけられるような日本になって欲しいと思います。

そして、介護の方もそうです。障がい者も明るい表情で外出しているのを見かけました。花を手にした女の子が母親に車椅子を押しもらいショッピング。高校生か大学生の二人の男子、朝、一人は目が不自由で健常者のもう一人の男子の腕につかまり、笑みを浮かべながら、楽しくおしゃべりをしながら歩いている姿を見て、まだまだ、日本は遅れていると感じました。若い人たちが良いと思われることを学ぶため、海外で色々なことを体験し、学ぶ機会が与えられるといいと思います。

(防衛費に莫大な予算をとり、政治家は裏で国民を欺き不信感を持っています。使うべきところに使って欲しいと思います。)

最近、NHKでトランスジェンダーを取り扱った番組を見ました。私の身近にはいませんが、本当に心が痛くなりました。又、そういうことに出会った場合、正直どう対応しなければならないのか…

(女性・70歳代以上)

- ・障がい者、高齢者の住みやすい町になる様に、願っています。男女平等、まだまだ遠いのでは？

そうなる様に、祈っています

(女性・40歳代)

- ・このようなアンケートを実施してくださりありがとうございます！

何事も完璧に男女平等というのは難しいと思っています。どうしても、男女差はあるし元々の気質、体力もちがう。能力を認め合いながら個々にあった生き方が出来たらいいなと思います。男女平等をうたいすぎて、男女が対立してしまうのは避けたい。

今は少しずつ、社会全体の意識が変わっているような気がするので、より小さい頃から各学校や家庭での教育を充実させるのが、大事ななと思います。

性犯罪がなくなるのは悲しい。なぜか、被害者が責められがちだし。防犯カメラ増やすのは賛成です。売春、望まない妊娠なども、自己肯定感を育てることと、相談できる場所が必要だなと感じます。

現状の社会で「男性も家事・育児を」「女性も仕事を企業は制度の充実を」というのは難しい気がする…とりあえず、マイホームを買ったら、子供を産んだらすぐに転勤とか、やめてあげて～と思います。残業、休日出勤が減ったら夫婦二人で協力しやすくなるのではと思います。

市政の方面では、年配の男性だけより、育児真っ只中の若年層の意見を取り入れた方が良いと思います。

男女平等やLGBTを意識しすぎて、変な方面にいつているなと感じることがたまにあります。他県で

すが、トイレのマークの男女差（男は青色、女は赤でスカートなど）をなくすために、どっちも同じ色にして、かえって分かりづらくなるとか…履歴書の性別欄をなくすとか…少数派の声ばかり意識して、大多数が不便になってしまうのは、どうなのとか。変な方向にいきすぎないといいなと思います

（女性・40歳代）

- ペットも本当に大事な家族です。人はもちろんですが、ペットも同じくらい考えてほしいです。ペットを飼いづらい、一緒に生活するのに適していない環境です

（女性・40歳代）

IV 調査票

男女平等参画に関する市民意識調査



該当する番号に○をつけてください。

※ 一部の設問中に用語の解説を入れておりますが、用語の定義には諸説あるため、一般的な意味を記載しました。

あなたご自身のことについてうかがいます。

問1 あなたの自認する性はどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | | | |
|------|------|-------|--------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 | 4 答えない |
|------|------|-------|--------|

問2 あなたの年齢はどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|--------|----------|
| 1 20歳代 | 2 30歳代 | 3 40歳代 |
| 4 50歳代 | 5 60歳代 | 6 70歳代以上 |

問3 あなたは結婚(事実婚を含む)をしていますか。(○は1つ)

- | |
|-----------------------------|
| 1 結婚している(事実婚を含む) |
| 2 結婚していたが、現在はしていない(離別・死別など) |
| 3 結婚したことはない |

問4 問3で「1 結婚している(事実婚を含む)」を選択した方にうかがいます。

夫婦(パートナー)はともに働いていますか(非常勤・パート・アルバイトなどを含む)。(○は1つ)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 共働きである | 2 どちらか一人だけ働いている |
| 3 どちらも働いていない | |

問5 あなたの世帯構成はどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 一人暮らし | 2 夫(妻)またはパートナーと二人のみ |
| 3 親と子の二世帯世帯 | 4 親と子と孫の三世帯世帯 |
| 5 その他(具体的に：) | |

問6 あなたの職業・立場はどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|----------------------|------|
| 1 勤めている(常勤) | 2 勤めている(パート、アルバイトなど) | |
| 3 自営業 | 4 家事専業 | 5 学生 |
| 6 無職(就業を希望している) | 7 無職(就業を希望していない) | |
| 8 その他(具体的に：) | | |

男女平等に関する意識についてうかがいます。

問7 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。

(1)～(10)のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。(各項目に○は1つ)

	見聞きしたことがある、意味も知っている	見聞きしたことはあるが、意味は知らない	何となく見聞きしたことがある	おそらく見聞きしたことはないと思う	見聞きしたことはない
(1) 男女平等(共同)参画社会	1	2	3	4	5
(2) 苫小牧市男女平等参画都市宣言	1	2	3	4	5
(3) ジェンダー	1	2	3	4	5
(4) ワークライフバランス	1	2	3	4	5
(5) デートDV	1	2	3	4	5
(6) ダイバーシティ	1	2	3	4	5
(7) LGBT	1	2	3	4	5
(8) ジェンダーギャップ指数	1	2	3	4	5
(9) SDGs	1	2	3	4	5
(10) 選択的夫婦別姓	1	2	3	4	5



問8 あなたは、現在、次にあげるような場面で、男女の地位などは平等になっていると思いますか。(1)～(8)のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。(各項目に○は1つ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	差はない(平等である)	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
(1) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
(2) 仕事の場	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育	1	2	3	4	5	6
(4) 地域活動	1	2	3	4	5	6
(5) 政治や行政	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体	1	2	3	4	5	6

問9 「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
「男性は仕事、女性は家庭」という考え	1	2	3	4	5

問10 家庭での役割分担について、あなたの家庭ではどのようになっていますか。
(○は1つ)

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 男性は仕事、女性は家事・育児等を分担している |
| 2 | 女性は仕事、男性は家事・育児等を分担している |
| 3 | 男女とも仕事をし、家事・育児等は主に女性が担っている |
| 4 | 男女とも仕事をし、家事・育児等は主に男性が担っている |
| 5 | 男女とも仕事をし、家事・育児等も男女で分担している |
| 6 | 男女とも仕事をし、家事・育児等は第三者（親族やヘルパー等）の協力がある |
| 7 | 男女とも無職で、家事・育児等は主に女性が担っている |
| 8 | 男女とも無職で、家事・育児等は主に男性が担っている |
| 9 | 男女とも無職で、家事・育児等は男女で分担している |
| 10 | 役割分担はしていない（特に決めていない場合も含む） |
| 11 | 仕事も家事・育児等もすべてひとりで担っている（単身者含む） |
| 12 | 男女ではなく、親と子で分担している |
| 13 | その他（具体的に： _____） |

問11 次の(1)～(10)の役割について、あなたのご家庭では主に誰が担っていますか。(各項目に○は1つ)

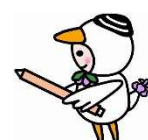
	主に男性 (夫、息子、 父など)	男性も女 性も同程 度	主に女性 (妻、娘、母 など)	わからな い	決めてい ない
(1) 生活費を得る	1	2	3	4	5
(2) 生活費の管理	1	2	3	4	5
(3) そうじ	1	2	3	4	5
(4) 洗濯	1	2	3	4	5
(5) 食事の支度	1	2	3	4	5
(6) 食事の後片付け	1	2	3	4	5
(7) 子育て	1	2	3	4	5
(8) 介護・看護	1	2	3	4	5
(9) 地域活動	1	2	3	4	5
(10) 近所付き合い	1	2	3	4	5

問12 家庭での役割分担について、あなたはどうかあるべきだと思いますか。
(〇は1つ)

- 1 男性は仕事、女性は家事・育児等を分担する
- 2 女性は仕事、男性は家事・育児等を分担する
- 3 男女とも仕事をし、家事・育児等は主に女性が担う
- 4 男女とも仕事をし、家事・育児等は主に男性が担う
- 5 男女とも仕事をし、家事・育児等も男女で分担する
- 6 男女とも仕事をし、家事・育児等は第三者（親族やヘルパーなどのサービス）に任せる
- 7 役割分担はしない（特に決めないという場合も含む）
- 8 仕事も家事・育児等もすべてひとりで担う（単身者含む）
- 9 男女ではなく、親と子で分担する
- 10 わからない
- 11 その他（具体的に： _____)

問13 あなたは、男性と女性がともに、家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

- 1 配偶者・パートナーや家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- 2 男性の仕事中心、女性の家庭中心の考え方を改めること
- 3 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 4 男女ともに家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行う
- 5 国や地方自治体の研修等により、男女ともに家事や子育て、介護等の技能を高める
- 6 男女ともに子育てや介護、地域活動を行うためのネットワークを作る
- 7 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男女ともに相談しやすい窓口を設ける
- 8 企業等の協力のもと、男女ともに仕事と家庭の両立を支援する体制を整備する
- 9 子どものころから家事などを男女で分担するようにする教育を行うこと
- 10 特に必要なことはない
- 11 わからない
- 12 その他（具体的に： _____)



女性の就労についてうかがいます。

問14 あなたは、次にあげるような項目で、男女は平等になっていると思いますか。(1)～(6)のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。(各項目に○は1つ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	差はない(平等である)	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
(1) 雇用形態	1	2	3	4	5	6
(2) 賃金	1	2	3	4	5	6
(3) 昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
(4) 能力の評価	1	2	3	4	5	6
(5) 仕事内容	1	2	3	4	5	6
(6) 研修等を受ける機会	1	2	3	4	5	6

問15 (働いている方にうかがいます。)

あなたは、職場において、どのようなことにストレスを感じますか。

(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 長時間労働や休日出勤
2 職場の人間関係(セクハラ・パワハラ・マタハラ等以外)
3 職場の人間関係(セクハラ・パワハラ・マタハラ等に関する事)
4 家庭との両立
5 労働条件(雇用形態・賃金等を含む)
6 自分のキャリアアップに対する不安
7 仕事に対して周囲から期待されること(プレッシャー)
8 ストレスは特にな
9 その他(具体的に：) |
|--|

※「セクハラ」とは、セクシュアルハラスメントの略で、職場などで、相手の意思に反して不快や不安な状態に追い込む性的・差別的な言動のこと。

※「パワハラ」とは、パワーハラスメントの略で、仕事上の上下関係や権利関係を不当に利用することにより、繰り返し精神的・身体的苦痛を与え、結果として同じ職場で働く人の人権や尊厳を侵害する言動のこと。

※「マタハラ」とは、マタニティハラスメントの略で、働く女性が、妊娠・出産・育児などを理由として、解雇や降格、自主退職を強要されるなど、職場で精神的・身体的苦痛を受けたり、不利益を受けたりする言動のこと。

問16 あなたは、女性の仕事と家庭の関わりについて、どうあるべきだと思いますか。(〇は1つ)

- 1 結婚や出産にこだわらず、仕事を続けるべきだと思う
- 2 結婚や出産後は仕事をやめ、育児が一段落した後、再び仕事に就くべきだと思う
- 3 結婚を機会に仕事をやめ、家事に専念すべきだと思う
- 4 出産を機会に仕事をやめ、家事に専念すべきだと思う
- 5 女性は仕事に就かないほうがよいと思う
- 6 各自で自由に決めればよいと思う
- 7 わからない
- 8 その他(具体的に:)

問17 あなたは、女性が仕事を続けていく上で、障害になると思われることはどれですか。(〇はいくつでも)

- 1 男女がともに家事や育児、介護にかかわるという意識がない
- 2 育児・介護休業制度が不十分である
- 3 労働条件が整っていない
- 4 保育施設について、施設の数、サービスの内容が不十分である
- 5 介護施設について、施設の数、サービスの内容が不十分である
- 6 企業が結婚・出産した女性を敬遠する傾向がある
- 7 家庭と仕事の両立が大変
- 8 家族の理解が得られにくい
- 9 職場の理解が得られにくい
- 10 男性に比べて賃金が安く、職種も限られている
- 11 女性自身の職業に対する自覚が不足している
- 12 障害は特にない
- 13 その他(具体的に:)



問18 あなたは、これから女性が働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 男性の家事・育児・介護への参加を進める
- 2 長時間労働を見直すなど男性の働き方を変える
- 3 女性が働ける職場の増加や職業紹介を充実する
- 4 昇進、昇格や管理職登用の格差をなくす
- 5 パートタイムなどの女性が多く働く職場の労働条件を向上する
- 6 再就職を希望する女性のための講座、セミナーを充実する
- 7 出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する
- 8 保育所や学童保育(児童クラブ)などの育児環境を充実する
- 9 育児・介護休業制度などの普及を図る
- 10 職場の意識改革などについて、企業に対する働きかけを行う
- 11 事業所内保育施設の整備を促進する
- 12 特に必要なことはない
- 13 その他(具体的に:)

育児休業制度についてうかがいます。

問19 育児休業制度について知っていますか(〇は1つ)

- 1 よく知っている
- 2 聞いたことがあり、内容もまあ知っている
- 3 聞いたことはあるが内容は知らない
- 4 全く知らない

問20 あなたは、育児休業制度を利用したことがありますか。(〇は1つ)

- 1 ある
- 2 ない

問21 (問20で「2 ない」を選んだ方にうかがいます。)

あなたが育児休業制度を利用しなかった主な理由はどれですか。

(〇は1つ)

- 1 育児休暇の対象とならなかった
- 2 仕事と育児の両立ができたので必要なかった
- 3 主な育児負担者が仕事をしていなかったため必要なかった
- 4 主な育児負担者が仕事をやめた
- 5 雇用形態上の条件で育児休暇の対象とならなかった
- 6 育児休業中の賃金が出ないため利用しなかった
- 7 取れる雰囲気ではなかった(取った人が居ない、代わりの人が居ない等)
- 8 その他(具体的に:)

問22 （現在、勤めている方（非常勤・パート・アルバイト等を含む）にうかがいます。）

育児を要する家族がいる場合、育児休業の取得について、どのようにしたいと考えていますか？（〇は3つまで）

- 1 育児休業を取得したい
- 2 有給休暇などを取得して対応したい
- 3 仕事をなるべく休まずに、短時間勤務や時差出勤などで対応したい
- 4 保育所などの施設や第三者による託児サービスなどを利用したい
- 5 自分と家族で助け合って対応したい
- 6 家族に任せたい
- 7 特に考えてはいない
- 8 その他（具体的に： _____)

介護についてうかがいます。

問23 あなたと同居している家族の中に、介護を受けている人はいますか？
（〇は1つ）【1 いる場合⇒問24へ 2 いない場合⇒問25へ】

- 1 いる
- 2 いない

問24 （問23で「1 いる」と答えた方にうかがいます。）

介護を受けている人からみて、主に介護を担っている人は、どなたですか？（〇はいくつでも）

- 1 配偶者（事実婚を含む）
- 2 母親
- 3 父親
- 4 娘
- 5 息子
- 6 娘の配偶者
- 7 息子の配偶者
- 8 ホームヘルパーなどの在宅介護サービス
- 9 特別養護老人ホームなどの施設介護サービス
- 10 同居していない親族
- 11 その他（具体的に： _____)

問25 あなたは、介護休業制度を知っていますか。（〇は1つ）

- 1 よく知っている
- 2 聞いたことがあり、内容もまあ知っている
- 3 聞いたことはあるが内容は知らない
- 4 全く知らない

問26 あなたは、介護休業制度を利用したことがありますか。（〇は1つ）

- 1 ある
- 2 ない

問27 （問26で「2 ない」を選んだ方にうかがいます。）

あなたが介護休業制度を利用しなかった主な理由はどれですか。

（〇は1つ）

- 1 介護を必要とする家族がない
- 2 仕事と介護の両立ができたので必要なかった
- 3 主な介護負担者が仕事をしていなかったため必要なかった
- 4 主な介護負担者が仕事をやめた
- 5 介護認定や雇用形態上の条件で対象とならなかった
- 6 介護休業中の賃金が出ないため利用しなかった
- 7 取れる雰囲気ではなかった（取った人が居ない、代わりの人が居ない等）
- 8 その他（具体的に： _____）

問28 あなたは、介護と仕事を両立するために、どのようなことが必要だと思えますか。（〇はいくつでも）

- 1 長時間労働の削減などの働き方の見直し
- 2 介護休業制度の周知と徹底
- 3 介護休業を取得している従業員がいる企業への補助制度の充実
- 4 介護休業取得条件の緩和
- 5 介護保険制度の見直し（介護認定条件など）
- 6 介護施設の充実
- 7 転勤等の勤務地の配慮
- 8 介護休業中の手当の充実
- 9 特に必要なことはない
- 10 その他（具体的に： _____）



パートナーからの暴力等についてうかがいます。

問29 あなたはこれまで配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーから、次のような行為を受けたことはありますか。
（〇はいくつでも）

- | | | |
|----|----------------------------|---|
| 1 | 身体的な暴力を受けた | |
| 2 | ことばの暴力を受けた | |
| 3 | 嫌がっているのに性的行為を強要された | |
| 4 | 避妊に協力してくれなかった | |
| 5 | 見たくないのにポルノ雑誌やビデオを見せられた | |
| 6 | 何を言っても無視をされつづけた | |
| 7 | 電話・電子メール・LINE・郵便物等をチェックされた | |
| 8 | 大声で怒鳴られた | |
| 9 | 物を投げられた | |
| 10 | 生活費を渡さないなど、経済的に抑圧された | |
| 11 | 受けたことはない | |
| 12 | その他（具体的に： | ） |

問30 ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

- | | | |
|----|--|---|
| 1 | 法律や制度の見直しを行う | |
| 2 | 相談や捜査、裁判などの担当者に女性を増やすなど、女性が被害を受けた場合届出しやすいような環境をつくる | |
| 3 | 被害者のための相談体制や保護施設を整備する | |
| 4 | 人権、デートDV防止、男女平等などについての学校教育を進める | |
| 5 | 若年層への人権や男女平等についての、家庭教育を充実する | |
| 6 | 行政がもっと啓発活動をする | |
| 7 | 被害者の自立支援を強化する | |
| 8 | DV加害者に更生のためのプログラムを受けてもらう | |
| 9 | わからない | |
| 10 | その他（具体的に： | ） |

※「ドメスティック・バイオレンス（DV）」とは、配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーから、身体的・精神的・性的などの暴力をふるわれること

※「デートDV」とは、婚姻していない交際相手から、身体的・精神的・性的などの暴力をふるわれること

問31 性犯罪や売買春など、主に女性が被害や不利益を受ける問題をなくするためには、どのようにしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 防犯カメラの設置箇所を増やす
- 2 相談や捜査、裁判などの担当者に女性を増やすなど、女性が被害を受けた場合届出しやすいような環境をつくる
- 3 被害者のための相談体制や保護施設を整備する
- 4 加害者の更生のための相談体制や施設を整備する
- 5 人権や男女平等についての学校教育を進める
- 6 性教育についての学校教育を進める
- 7 若年層への人権や男女平等についての、家庭教育を充実する
- 8 性教育について家庭で教育をする
- 9 行政がもっと啓発活動をする
- 10 過激な暴力表現のビデオやゲーム等の流出を制限する
- 11 女性の自立を支援する
- 12 わからない
- 13 その他(具体的に：)

性的少数者(セクシュアルマイノリティ)についてうかがいます。

問32 性的少数者について、どの程度知っていますか?(〇は1つ)

- 1 よく知っている 2 まあまあ知っている 3 よく知らない
- 4 全く知らない

※「性的少数者」とは、セクシュアルマイノリティやLGBTなどとも呼ばれ、同性愛者や両性愛者、トランスジェンダーなど、性的指向や自認する性などが、今までのあり方にとらわれない性を持つ人たちのこと。

問33 問32で「1 よく知っている」、「2 まあまあ知っている」と答えた方にうかがいます。

あなたの身近に、性的少数者の人はいますか?(〇は1つ)

- 1 いる 2 いない 3 分からない



とま子ヨッピー

問34 性的少数者は電通ダイバーシティラボの2020年調査の結果、人口の8.9%占めているという結果が出ていますが、性的少数者は偏見や差別等に苦しめられている現実があります。このような性的少数者の生きづらさを解決するためには何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 性的少数者に対する社会的な理解
- 2 婚姻に準ずるパートナーシップ制度の導入
- 3 専門の相談窓口の設置
- 4 性の多様性についての学校教育
- 5 性の多様性についての家庭教育
- 6 申請書や届出書など各種書式の性別欄の改善
- 7 職場や学校等のトイレや更衣室の改善
- 8 職場や学校等の制服の改善
- 9 特に必要なことはない
- 10 その他(具体的に：)



選択的夫婦別姓制度についてうかがいます。

問35 あなたは、夫婦の姓についてどうお考えですか。(〇は1つ)

- 1 夫婦は同じ姓を名乗らなければならない
- 2 夫婦は同じ姓を名乗った方がよい
- 3 夫婦は別々の姓を名乗ってもかまわない
- 4 夫婦は別々の姓を名乗る方がよい
- 5 姓についてどちらでも選択できるようにした方がよい
- 6 わからない



防災体制や災害発生後の対応についてうかがいます。

問36 あなたは、平常時の防災体制や災害発生時の対応として、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 防災や災害発生時の政策・方針を決定する場に男性、女性がともに参加する
- 2 町内会等の地域の自主防災組織の運営に男性、女性がともに参加する
- 3 防災訓練についても性別及び多様な性について配慮して実施する
- 4 男性、女性及び多様な性に配慮した避難所運営を行う(更衣室の準備や授乳室の準備、男女別及び多目的トイレ設置、プライバシーに配慮した避難所設計等)
- 5 障がい者、子育て世帯等が安心して利用できる避難所を運営する
- 6 避難所での役割を性別の固定的概念(炊き出しや子守りは女性、力仕事は男性など)で決定しないこと
- 7 災害発生後に増加すると考えられる性暴力やDV、セクシュアルハラスメントについて相談できる体制や対応を強化する
- 8 災害発生後の困りごとを相談できる体制を整備する
- 9 特にない
- 10 わからない
- 11 その他(具体的に：)



男女平等参画社会の推進についてうかがいます。

問37 あなたは、男女平等参画の推進に、どのようなことが必要だと思いますか。

(〇はいくつでも)

- 1 リーフレットの配布やポスター等の掲示による啓発
- 2 若年層への教育
- 3 出前講座の実施
- 4 講演会・セミナーの開催
- 5 ホームページやフェイスブックを利用した情報提供
- 6 図書やDVD等貸し出し資料の充実
- 7 推進企業への補助制度の充実
- 8 法律の整備
- 9 家庭での話し合い
- 10 子育て環境の整備
- 11 女性のための相談機能を充実させる
- 12 生涯を通じた女性の健康保持を支援する
- 13 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
- 14 政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する
- 15 町内会や自治会の女性役員を増やす
- 16 災害対応や防災にもっと女性の視点を入れる
- 17 政治分野での女性の参画を拡充する
- 18 介護制度の充実
- 19 職場の休暇制度の充実
- 20 行政・企業・市民との連携
- 21 特に必要なことはない
- 22 その他（具体的に： _____)



男女平等参画を進めるにあたり、ご意見やご要望がありましたらお聞かせください。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。



男女平等参画に関する市民意識調査報告書

令和4年5月

編集発行 苫小牧市総合政策部協働・男女平等参画室

(連絡先)

苫小牧市総合政策部協働・男女平等参画室

苫小牧市旭町4丁目5番6号

TEL : 0144-84-4052 FAX : 0144-34-7110

E-mail: kyodosankaku@city.tomakomai.hokkaido.jp